平成 28 年度文部科学省委託事業
「専修学校版デュアル教育推進事業」

建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業

成果報告書

学校法人誠和学院　専門学校日本工科大学校

平成 28 年度文部科学省委託事業
「専修学校版デュアル教育推進事業」

建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業

成果報告書

学校法人誠和学院　専門学校日本工科大学校

はじめに

多様化する社会需要に応じた質の高い専門人材を養成するためには、中核的職業教育機関である専修学校の果たす役割は大きいが、その際には、専修学校と企業等が連携しながら、専門的・実践的な教育を展開することが求められる。

専修学校では、平成 26 年度より「職業実践専門課程」についての文部科学大臣認定制度が開始され、企業等と組織的な連携強化に関する取組みが推進される。

しかし、企業等と専修学校との連携についての方法論は、必ずしも体系的に確立・共有されているものではなく、また、各専門学校により、まちまちであるのが現状である。

産業や社会構造の変化が加速し多様化する中、産業界のニーズを踏まえた質の高い専門人材育成への迅速かつ的確な対応が求められており、教育界と産業界とが連携した専門的で実践的な教育システムの構築が必要となっている。

さらにその中でも、若年層の雇用ミスマッチが指摘されており、早期離職する若者や職業が定まらない若者が増加している状況にあり、日本の中長期的な競争力・生産性の低下を招く要因として懸念されるなど、学校から職場への円滑な移行が課題となっている。

これらの社会的な要請や課題に応え、理論と実践力を備えた職業人を育成するには、企業内実習(インターンシップ)等を核とした「デュアル教育」の体系化が求められている。

そこで、本事業では、これからの時代に求められるアクティブ・ラーニングのあり方を見据え、専門学校内での学習と、企業等と連携して実施する企業内実習とを組み合わせて行う効果的な教育手法を開発し、より実効的な教育を実施するためのガイドラインの作成を目指すものである。

本校では、平成 13 年度文科省事業「産学連携による専修学校高度職業人育成総合プロジェクト」の受託を契機に 15 年間にわたり産官学連携インターシップの実施と改善・充実を図ってきた。平成 26 年度には「職業実践専門課程」の認定を受けている。

本事業では事業の趣旨を踏まえ、本校におけるこれまでの取組みの成果を評価・検証した上で、長期企業内実習等の新たな教育手法の開発と企業との連携方法について実効的ガイドラインを作成する。

そして、このガイドラインを活用することにより、実効的・組織的な産学協同による教育体制を構築するとともに、産業界のニーズを踏まえた専門人材の養成を推進する。

最後に、本事業に多大なるご協力をいただいた関係者に深く感謝するとともに、この成果が関係者に方向を示す一助となれば幸いである。

「専修学校版デュアル教育推進事業」
建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業
事業代表校　代表　中農一也
事業責任者　片山俊行

成果報告書目次 i

第１章　事業概要 1
１　事業趣旨・目的 3
２　本事業構成員と実施体制..... 3
（１）構成機関（教育機関）..... 3
（２）構成機関（産業界、その他の機関）..... 3
（３）構成員（委員）の氏名..... 4
（４）会議概要 9
（５）実施体制図..... 11
（６）全体計画図..... 12
（７）産学連携によるデュアル教育の目指すもの..... 13
３　会議実績 14

第２章　企業内実習のあり方..... 17
１　意義と課題の抽出..... 19
（１）現状の取組み..... 19
（２）施工部会における意義と課題の抽出..... 22
（３）マイスター部会における意義と課題..... 24
（４）設計部会における意義と課題..... 26
（５）企業実習に使用する様式の検討..... 28

２　企業内実習の方向性..... 31
（１）企業・業界団体（協会・組合等）との連携フロー図..... 31
（２）企業内実習の年間スケジュールと様式..... 32
①年間スケジュール表..... 32
②安全チェック表（施工・マイスター）..... 33
③活動日誌（施工・マイスター）..... 35
④企業内実習・評価表（施工・マイスター）..... 37
⑤アンケート用紙（学生用・企業用）..... 39

第３章　企業内実習（インターンシップ）..... 41
１　2016 年度企業内実習（インターンシップ）の取組み..... 43
（１）2016 年度前期インターンシップ報告書..... 44
（２）2016 年度サマーインターンシップ報告書..... 54
（３）かみかわインターンシップ風景..... 63

（４）後期インターンシップ風景..... 66
２　アンケートの目的..... 69
３　企業内実習アンケート【学生】..... 70
（１）施工アンケート集計..... 72
アンケート結果..... 76
まとめ..... 76
（２）マイスターアンケート集計..... 78
アンケート結果..... 82
まとめ..... 82
（３）設計アンケート集計..... 83
アンケート結果..... 86
まとめ..... 87
（４）学生アンケート全体..... 88
アンケート結果..... 91
まとめ..... 91
（５）各職種と全体の回答表..... 93

４　企業内実習アンケート【企業】..... 96
（１）アンケート集計..... 100
（２）アンケート結果..... 105
（３）まとめ..... 106

５　企業内実習アンケート企業・学生結果からの総括..... 106

第４章　まとめ..... 109
１　今後の課題..... 111
２　次年度に向けて..... 111

第５章　参考資料..... 113
会議議事録（推進委員会、施工部会、マイスター部会、
設計部会毎にまとめ、時系列で掲載）..... 115

第1章　事業概要

１．事業の趣旨・目的

産業や社会構造の変化が加速し多様化する中、産業界のニーズを踏まえた質の高い専門人材育成への迅速かつ的確な対応が求められており、教育界と産業界とが連携した専門的で実践的な教育システムの構築が必要となっている。

また、若年層の雇用ミスマッチが指摘されており、早期離職する若者や職業が定まらない若者が増加している状況にあり、日本の中長期的な競争力・生産性の低下を招く要因として懸念されるなど、学校から職場への円滑な移行が課題となっている。

これらの社会的な要請や課題に応え、理論と実践力を備えた職業人を育成するには、企業内実習(インターンシップ)等を核とした「デュアル教育」の体系化が求められている。

本校では、H13 年度文科省事業「産学連携による専修学校高度職業人育成総合プロジェクト」の受託を契機に 15 年間にわたり産官学連携インターンシップの実施と改善･充実を図ってきた。

本事業では事業の趣旨を踏まえ、本校におけるこれまでの取組みの成果を評価･検証した上で、長期企業内実習等の新たな教育手法の開発と企業との連携方法について実効的ガイドラインを作成する。

２．本事業構成員と実施体制

（１）構成機関（教育機関）

構成機関（学校・団体・機関等）の名称		役割等	都道府県名
1	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校	実施主体	兵庫県
2	学校法人新潟総合学院 専門学校国際情報工科大学校	連携実施	福島県
3	兵庫県立大学	助言・評価	兵庫県
4	日本インターンシップ学会関西支部	助言・評価	大阪府

（２）構成機関（産業界、その他の機関）

構成機関（産業界、その他の機関）の名称		役割等	都道府県名
1	兵庫県建築士事務所協会	設計実習推進・助言	兵庫県
2	兵庫県建築設計監理協会	設計実習推進・助言	兵庫県
3	兵庫県測量設計業協会	測量実習推進・助言	兵庫県

4	兵庫県建設業協会	施工実習推進・助言	兵庫県
5	姫路建設組合	施工実習推進・助言	兵庫県
6	兵庫県左官工業協同組合	マイスター実習推進・助言	兵庫県
7	姫路造園緑化組合	施工実習推進・助言	兵庫県
8	株式会社加藤建築事務所	設計実習受入・助言	兵庫県
9	株式会社オオバ工務店	設計実習受入・助言	福島県
10	株式会社カイヤマグチ	測量実習受入・助言	兵庫県
11	株式会社ノバック	施工実習受入・助言	兵庫県
12	有限会社井上晴登建設	マイスター実習受入・助言	兵庫県
13	有限会社真改工業	マイスター実習受入・助言	兵庫県
14	兵庫県県土整備部県土企画局建設業室	事業推進助言・評価	兵庫県
15	兵庫県企画県民部管理局私学教育課	事業推進助言・評価	兵庫県
16	株式会社マスターリンク	事業企画助言・評価	東京都

（３）構成員（委員）の氏名

（上記（１）の機関から参画する者及び個人で本事業に参画する者等）

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	中農一也	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・理事長	事業代表	兵庫県
2	水野和哉	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・校長	事業副代表	福島県
3	片山俊行	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・校長	事業統括	兵庫県

4	和田秀勝	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・副校長	事業副統括	福島県
5	森本徹之	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学部長	ガイドライン作成責任	兵庫県
6	近内広樹	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・学科長	ガイドライン作成副責任	福島県
7	田中政人	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学科長	ガイドライン作成副責任	兵庫県
8	高原一岐	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・主任	ガイドライン作成副責任	兵庫県
9	宇高雄志	兵庫県立大学環境人間学部・教授	助言・評価	兵庫県
10	安孫子勇一	日本インターンシップ学会関西支部・支部長	助言・評価	大阪府
11	古河邦彦	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・事務長	事業事務調整責任	兵庫県

（3）－①　建設分野・デュアル教育推進会議構成員

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	中農一也	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・理事長	事業代表	兵庫県
2	水野和哉	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・校長	事業副代表	福島県
3	片山俊行	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・校長	事業統括	兵庫県
4	和田秀勝	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・副校長	事業副統括	福島県
5	森本徹之	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学部長	ガイドライン作成責任	兵庫県
6	近内広樹	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・学科長	ガイドライン作成副責任	福島県
7	田中政人	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学科長	ガイドライン作成副責任	兵庫県
8	高原一岐	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・主任	ガイドライン作成副責任	兵庫県

9	宇高雄志	兵庫県立大学環境人間学部・教授	助言・評価	兵庫県
10	安孫子勇一	日本インターンシップ学会関西支部・支部長	助言・評価	大阪府
11	鷲尾和正	兵庫県建築士事務所協会・姫路支部長	設計実習推進・助言	兵庫県
12	柏本　保	兵庫県建築設計監理協会・副会長	設計実習推進・助言	兵庫県
13	所　達弘	兵庫県測量設計業協会・姫路支部長	測量実習推進・助言	兵庫県
14	増田和仁	兵庫県建設業協会・姫路支部長	施工実習推進・助言	兵庫県
15	長谷川武義	姫路建設組合・組合長	施工実習推進・助言	兵庫県
16	嶋田　聡	兵庫県左官工業協同組合・理事長	マイスター実習推進・助言	兵庫県
17	毛利幸弘	姫路造園緑化組合・組合長	施工実習推進・助言	兵庫県
18	内海秀明	株式会社加藤建築事務所・代表取締役社長	設計実習受入・助言	兵庫県
19	酒井直樹	株式会社オオバ工務店・理事	設計実習受入・助言	福島県
20	山口政勝	株式会社カイヤマグチ・代表取締役社長	測量実習受入・助言	兵庫県
21	難波利行	株式会社ノバック・品質安全部長	施工実習受入・助言	兵庫県
22	井上雅二	有限会社井上晴登建設・代表取締役社長	マイスター実習受入・助言	兵庫県
23	高嶋靖生	有限会社真改工業・代表取締役社長	マイスター実習受入・助言	兵庫県
24	林　雅彦	兵庫県県土整備部県土企画局建設業室・室長	事業推進助言・評価	兵庫県
25	高永　徹	兵庫県企画県民部管理局私学教育課・課長	事業推進助言・評価	兵庫県
26	吉川隆治	株式会社マスターリンク・営業部長	事業企画助言・評価	東京都

27	古河邦彦	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・事務長	事業事務調整責任	兵庫県

（３）－②　施工部会構成員

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	中農一也	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・理事長	事業代表	兵庫県
2	片山俊行	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・校長	事業統括	兵庫県
3	森本徹之	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学部長	ガイドライン作成責任	兵庫県
4	田中政人	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学科長	ガイドライン作成副責任	兵庫県
5	増田和仁	兵庫県建設業協会・姫路支部長	施工実習推進・助言	兵庫県
6	毛利幸弘	姫路造園緑化組合・組合長	施工実習推進・助言	兵庫県
7	難波利行	株式会社ノバック・品質安全部長	施工実習受入・助言	兵庫県
8	吉川隆治	株式会社マスターリンク・営業部長	事業企画助言・評価	東京都
9	古河邦彦	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・事務長	事業事務調整責任	兵庫県

（３）－③　マイスター部会構成員

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	中農一也	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・理事長	事業代表	兵庫県
2	片山俊行	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・校長	事業統括	兵庫県
3	森本徹之	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学部長	ガイドライン作成責任	兵庫県
4	高原一岐	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・主任	ガイドライン作成副責任	兵庫県

5	長谷川武義	姫路建設組合・組合長	施工実習推進・助言	兵庫県
6	嶋田　聡	兵庫県左官工業協同組合・理事長	マイスター実習推進・助言	兵庫県
7	井上雅二	有限会社井上晴登建設・代表取締役社長	マイスター実習受入・助言	兵庫県
8	高嶋靖生	有限会社真改工業・代表取締役社長	マイスター実習受入・助言	兵庫県
9	吉川隆治	株式会社マスターリンク・営業部長	事業企画助言・評価	東京都
10	古河邦彦	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・事務長	事業事務調整責任	兵庫県

（3）－④　設計部会構成員

氏名		所属・職名	役割等	都道府県名
1	中農一也	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・理事長	事業代表	兵庫県
2	水野和哉	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・校長	事業副代表	福島県
3	片山俊行	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・校長	事業統括	兵庫県
4	和田秀勝	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・副校長	事業副統括	福島県
5	森本徹之	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・学部長	ガイドライン作成責任	兵庫県
6	近内広樹	学校法人新潟総合学院専門学校国際情報工科大学校・学科長	ガイドライン作成副責任	福島県
7	鷲尾和正	兵庫県建築士事務所協会・姫路支部長	設計実習推進・助言	兵庫県
8	柏本　保	兵庫県建築設計監理協会・副会長	設計実習推進・助言	兵庫県
9	所　達弘	兵庫県測量設計業協会・姫路支部長	測量実習推進・助言	兵庫県
10	内海秀明	株式会社加藤建築事務所・代表取締役社長	設計実習受入・助言	兵庫県

11	酒井直樹	株式会社オオバ工務店・理事	設計実習受入・助言	福島県
12	山口政勝	株式会社カイヤマグチ・代表取締役社長	測量実習受入・助言	兵庫県
13	吉川隆治	株式会社マスターリンク・営業部長	事業企画助言・評価	東京都
14	古河邦彦	学校法人誠和学院専門学校日本工科大学校・事務長	事業事務調整責任	兵庫県

（４）会議概要

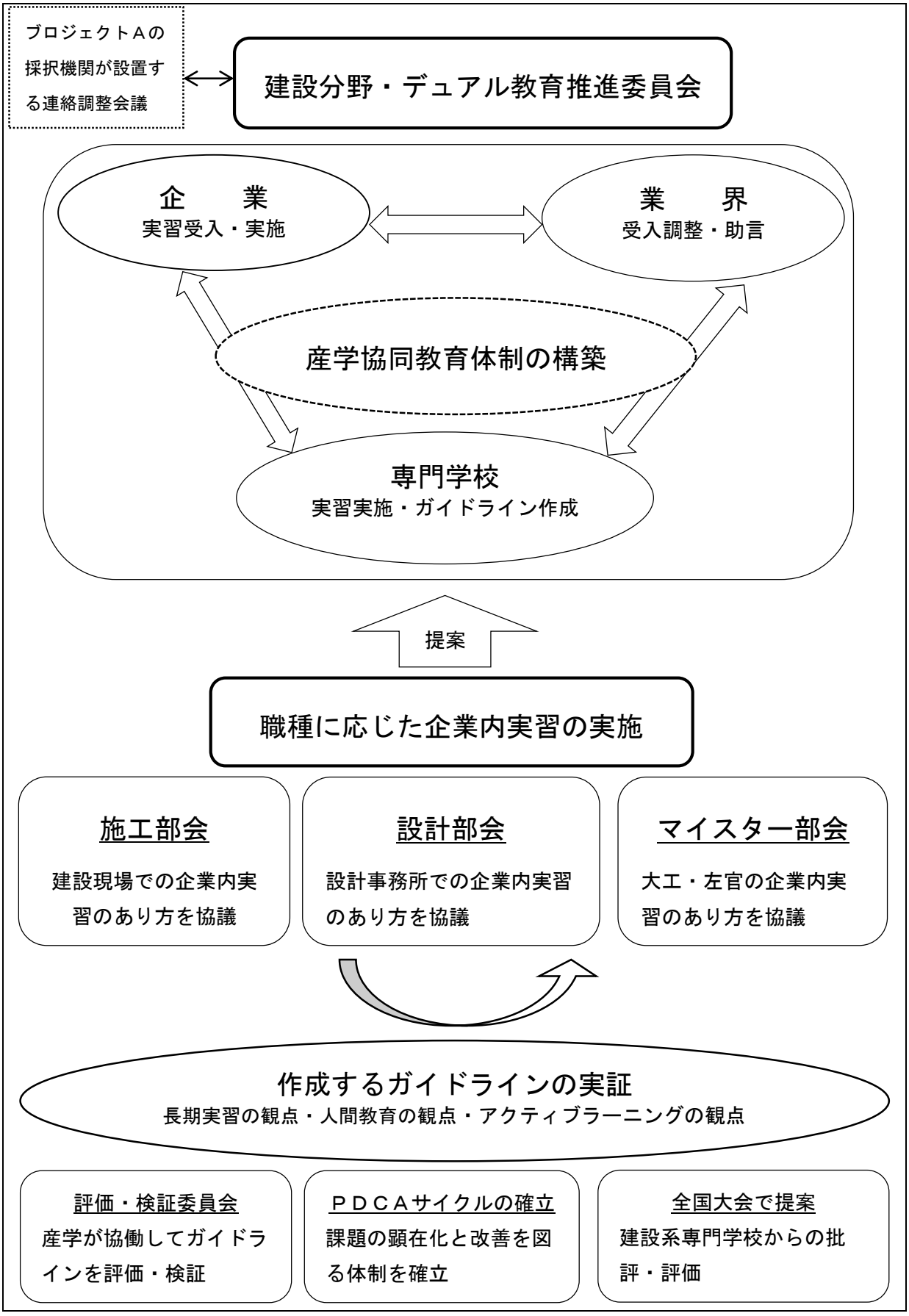
会議名①	建設分野・デュアル教育推進会議		
目　的	学校・産業界の双方にとって、より効果的な教育を実施するためのガイドラインの作成について協議する。		
検討の 具体的内容	①企業・業界との連携のあり方 ②企業内実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方 ③職種に応じた企業内実習のカリキュラムの開発 ④企業内実習の学生活動評価のあり方 ⑤企業内実習と授業との相関を図るシラバスの開発 ⑥企業内実習の成果と課題		
委員数	27 人	開催頻度	３回

会議名②	施工部会		
目　的	通年型の企業内実習のあり方について協議し、ディアル教育推進会議に提案する。		
検討の 具体的内容	①施工関係企業における実習の基本的な考え方 ②施工関係企業との連携のあり方 ③通年型実習のカリキュラムの開発 ④通年型実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方 ⑤通年型実習の授業との相関を図るシラバスの開発		
委員数	８人	開催頻度	３回

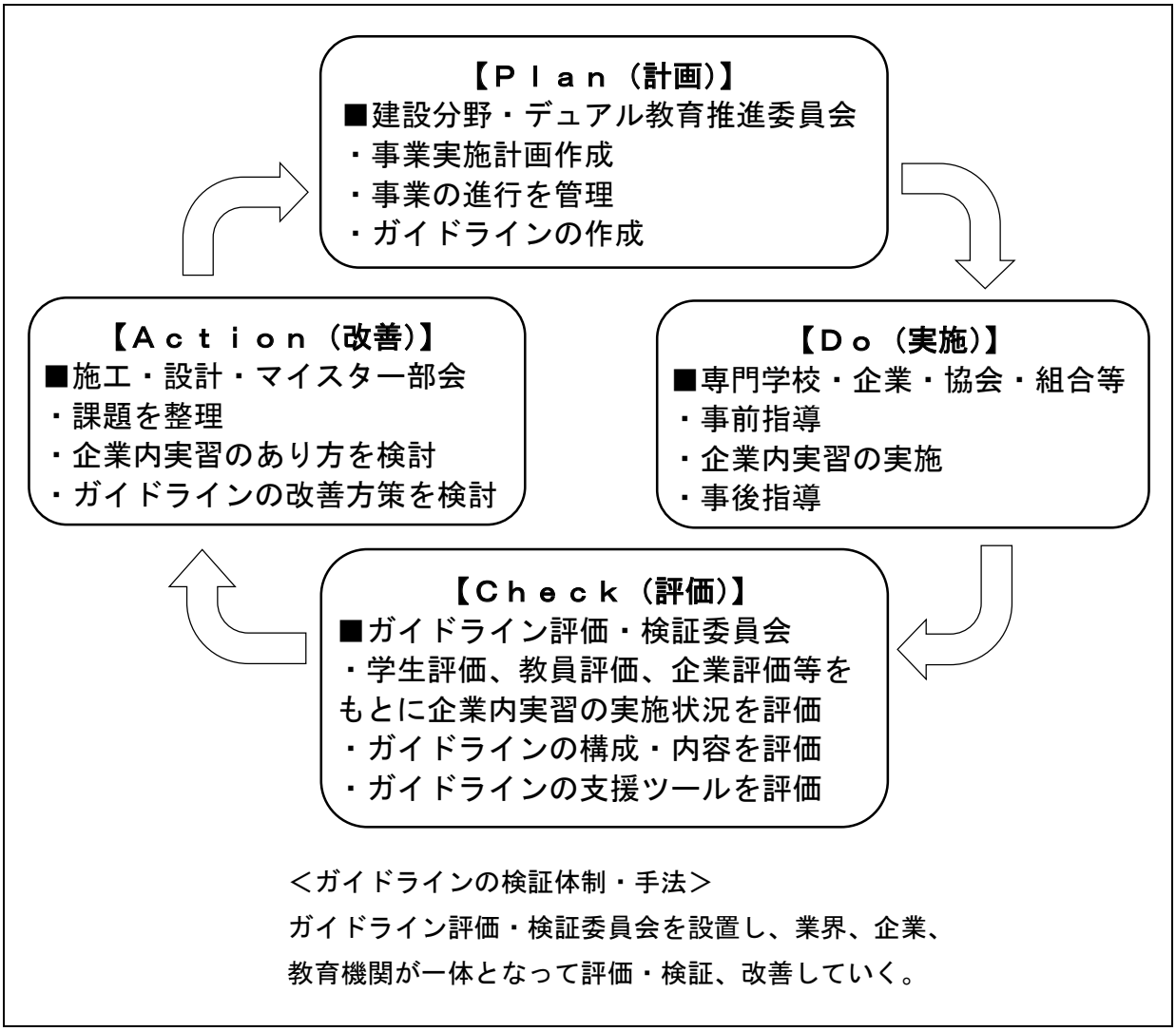
会議名③	マイスター部会		
目　的	短期分散型の企業内実習のあり方について協議し、ディアル教育推進会議に提案する。		
検討の 具体的内容	①大工・左官関係企業における実習の基本的な考え方 ②大工・左官関係企業との連携のあり方 ③短期分散型実習のカリキュラムの開発 ④短期分散型実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方 ⑤短期分散型実習の授業との相関を図るシラバスの開発		
委員数	９人	開催頻度	３回

会議名④	設計部会		
目　的	長期集中型の企業内実習のあり方について協議し、デュアル教育推進会議に提案する。		
検討の 具体的内容	①設計関係企業における実習の基本的な考え方 ②設計関係企業との連携のあり方 ③長期集中型実習のカリキュラムの開発 ④長期集中型実習の事前指導・実習中指導・事後指導のあり方 ⑤長期集中型実習の授業との相関を図るシラバスの開発		
委員数	11 人	開催頻度	１回

（５）実施体制図

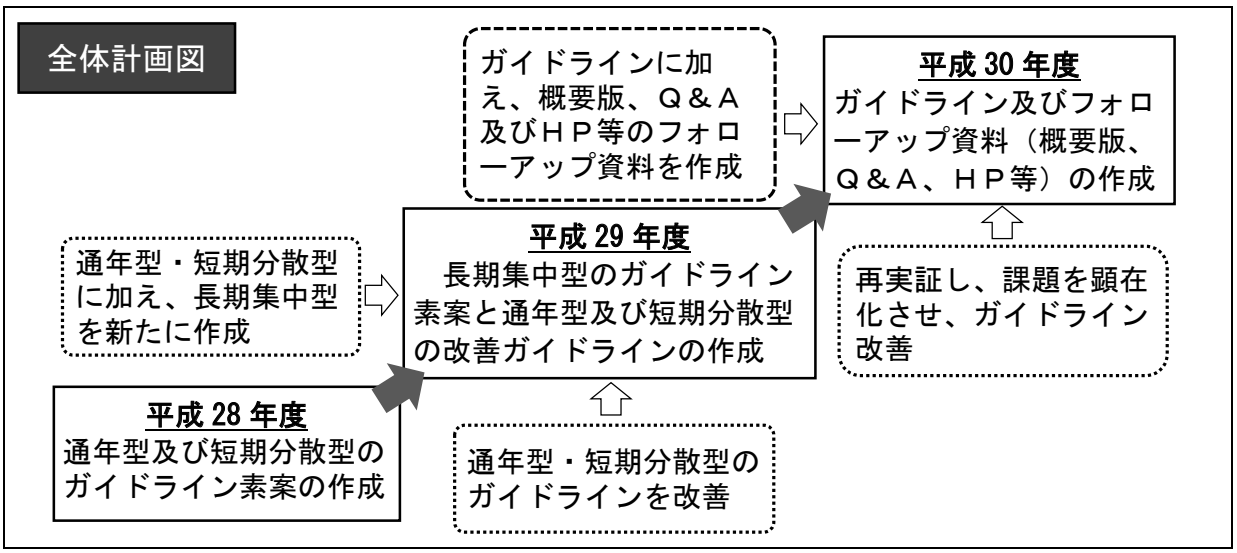

ブロジェクトＡの
採択機関が設置す
る連絡調整会議
建設分野・デュアル教育推進委員会
企　業
実習受入・実施
業　界
受入調整・助言
産学協同教育体制の構築
専門学校
実習実施・ガイドライン作成
提案
職種に応じた企業内実習の実施
施工部会
建設現場での企業内実
習のあり方を協議
設計部会
設計事務所での企業内実習
のあり方を協議
マイスター部会
大工・左官の企業内実
習のあり方を協議
作成するガイドラインの実証
長期実習の観点・人間教育の観点・アクティブラーニングの観点
評価・検証委員会
産学が協働してガイドラ
インを評価・検証
ＰＤＣＡサイクルの確立
課題の顕在化と改善を図
る体制を確立
全国大会で提案
建設系専門学校からの批
評・評価

【課題の顕在化と改善を図るＰＤＣＡサイクル】



＜ガイドラインの検証体制・手法＞
ガイドライン評価・検証委員会を設置し、業界、企業、教育機関が一体となって評価・検証、改善していく。

（６）全体計画図



（７）産学連携によるデュアル教育の目指すもの

実施体制の下、全体計画に沿って以下の【実施概要】を行い、ガイドラインの構成及び骨子の作成を行う。

【実施概要】

①カリキュラム素案の作成

「施工」及び「マイスター（大工・左官）」の企業内実習カリキュラム素案を作成

②企業内実習の実証

企業内実習の実証カリキュラム素案をもとに、「施工」及び「マイスター（大工・左官）」の企業内実習を実証

③評価・検証と課題の整理

実証した「施工」及び「マイスター（大工・左官）」の企業内実習を評価・検証し、デュアル教育の課題を整理

④「施工」及び「マイスター（大工・左官）」ガイドライン素案の作成

評価・検証並びに各部会の改善方策をもとに、通年型及び短期分散型のガイドライン素案を作成

＜ガイドラインの構成及び骨子＞

１．企業・業界等との連携のあり方

（１）連携手順

①業界との連携、②企業との連携、③学生受入手順　等

（２）効率的に事務を進めるための工夫

①企業内実習の意義、②連携用の書類作成、③連携用のルール作りの考え方　等

２．実習指導のあり方

（１）事前指導

①指導手順、②事前打ち合わせのあり方、③オリエンテーションの実施、④授業参観の実施、⑤社会・職場常識セミナーの実施、⑥一日企業体験の実施、⑦安全教育、守秘義務教育の指導　等

（２）実習中の指導と評価

①指導手順、②教員の指導のあり方、③実習日誌による活動の振り返り、④企業による総括評価　等

（３）事後指導

①指導手順、②実習後の振り返り、③終了報告会のあり方、④実習評価委員会及び第三者評価委員会の設置　等

３．企業内実習カリキュラム

（１）「施工分野」企業内実習：①実習概念図、②カリキュラム例　等

（２）「マイスター（大工・左官）分野」企業内実習：①実習概念図、②カリキュラム例　等

（3）「設計分野」企業内実習：①実習概念図、②カリキュラム例　等

4．アクティブラーニングへのアプローチ

（1）　実習と授業の相互作用

（2）授業の活性化

5．人間教育の推進

（1）実習と人間力の育成

（2）人間力を育成する指導の工夫

3．会議実績

「建設分野における専修学校版デュアル教育ガイドライン」の体系化を目的とした構成及び骨子開発を行う会議を以下の通り実施した。

①第一回 建設分野・デュアル教育推進会議

日 時：平成 28 年 12 月 5 日（月）17：00～19：00

参加者：24 名

議　題

（1）事業説明：①文部科学省の事業趣旨、②事業計画、③ガイドライン作成要領

（2）検討事項：①各部会での検討事項、②部会等開催スケジュール

（3）その他　事務連絡　等

②第一回 マイスター部会

日　時：平成 28 年 12 月 19 日（月）17：00～19：00

参加者：10 名

議　題

（1）現在の取組み状況（報告）

（2）検討事項：①企業内実習の意義、②企業内実習の課題、③今後の充実に向けての方向性

（3）その他　事務連絡　等

③第一回 施工部会

日　時：平成 28 年 12 月 21 日（水）17：30～19：30

参加者：9 名

議　題

（1）現在の取組み状況（報告）

（2）施工部会においての検討：①企業実習の意義、②実施上の課題、③課題に対する対応策

（3）その他　事務連絡　等

④第二回 施工部会

日　時：平成 29 年 1 月 16 日（月）17：00～19：00

参加者：９名

議　題

（1）企業内実習の効果的な実施方法の検討：①第１回会議の整理（報告)、②安全に関する点についての検討

（2）その他　事務連絡　等

⑤第二回 マイスター部会

日　時：平成 29 年 1 月 23 日（月）17：00～19：00

参加者：10 名

議　題

（1）第１回会議の会議整理（報告）

（2）検討事項：①長期企業内実習を実施する時期・期間、②長期企業内実習を実施する方法（無償・有償、傷害保険、単位認定等）

（3）その他　事務連絡　等

⑥第二回 建設分野・デュアル教育推進会議

日　時：平成 29 年 1 月 30 日（月）17：00～19：00

参加者：19 名

議　題

（1）施工部会、マイスター部会での協議事項について

（2）企業内実習と守秘義務・機密保持義務について

（3）その他　事務連絡　等

⑦第三回 施工部会

日　時：平成 29 年２月６日（月）17：00～19：00

参加者：９名

議　題

（1）第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告

（2）傷害・賠償保険(学校が加入している保険、建設業協会が加入している保険)について

（3）建設現場実習・安全チェック表について

（4）インターンシップ研修日報について

（5）企業内実習・評価表について

（6）その他　事務連絡　等

⑧第一回 設計部会

日　時：平成 29 年２月７日（火）17：00～19：00

参加者：10 名

議　題

（1）現在の取組み状況（報告）

（2）検討事項：①企業内実習の意義、②企業内実習の課題、③今後の充実に向けての方向性

（3）その他　事務連絡　等

⑨第三回 マイスター部会

日　時：平成 29 年 2 月 13 日（月）17：00～19：00

参加者：10 名

議　題

（1）第 1 回会議の会議整理（報告）

（2）検討事項：①長期企業内実習を実施する時期・期間、②長期企業内実習を実施する方法（無償・有償、傷害保険、単位認定等）

（3）その他　事務連絡　等

⑩第三回 建設分野・デュアル教育推進会議

日　時：平成 29 年 2 月 20 日（月）17：00～19：00

参加者：21 名

議　題

（1）平成 28 年度活動報告

・各部会協議内容の報告と様式の確認等について

（2）平成 29 年度の方向性

・平成 29 年度デュアル教育実証計画について

（3）その他　事務連絡　等

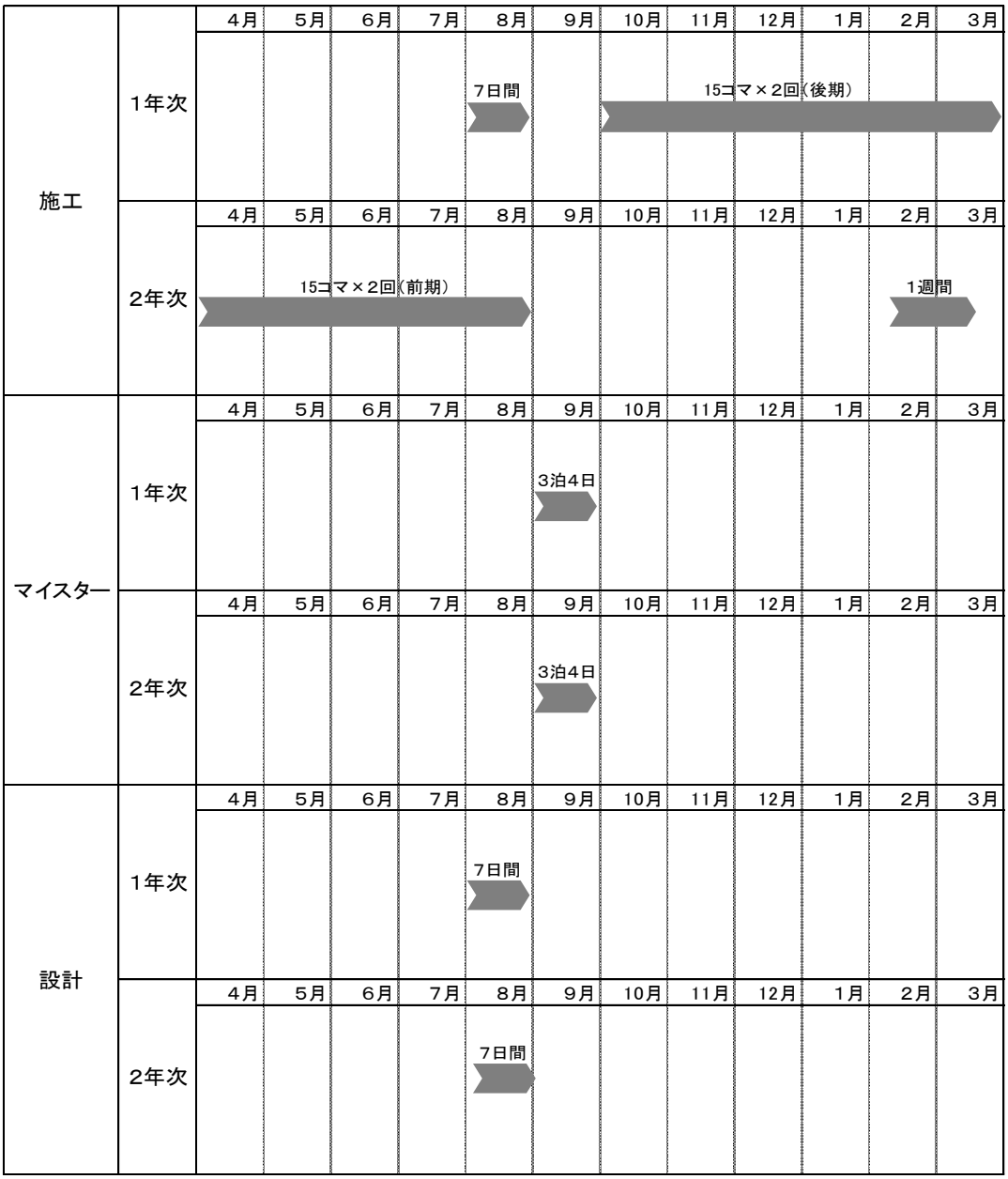
第2章　企業内実習のあり方

１．意義と課題の抽出

産官学連携の企業内実習を全国の専修学校向けに全国版スタンダードなガイドラインを作成することにおいて、下記の①現状の年間スケジュールと②現状の手法・産学連携体制（企業内実習業務一覧表）を基に、意義と課題について以下の実施体制の下、議論を重ねた。

（１）現状の取組み

①現状の年間スケジュール



②現状の手法・産学連携体制（企業内実習業務一覧表）

❑施工（通年型：インターンシップ）

イベント	対象					アクション	担当		文書	備考
	協会	官公庁施主	建設会社	学内	その他		理事長	講師		
候補地探し	○	○	○			協力依頼・情報収集	○			
						市内巡回調査・情報収集		○	写真	
実施申し込み	○	○	○			協力依頼	○		IS受け入れ依頼	
			○			資料の作成 実施方法や過去例の説明		○	ISプログラム 実施計画概要 その他説明資料	
				○		参加希望者の把握		○		
実施準備				○		参加者の選考・決定	○ 承認	○	試験問題 申込書・同意書 名簿	面接・筆記 現場への交通手段の調査
	○					実施詳細の送付	○	○	実施詳細（外部用）	協会から保険に加入
		○	○			実施詳細の送付		○	実施詳細（外部用）	
			○			現場工程と実習日程の調整 細部打合せ ロッカーの搬入		○	打合せ記録	運搬用トラック手配
				○		IS保険の加入		○		総務に依頼
				○	○	作業服の採寸・発注		○		サイズ見本取り寄せ
	○			○		装備品（ヘルメット・安全靴・安全帯・腕章）のチェック・補充		○		
				○		現場への交通手段の調整		○		
			○	○		駐車場の確保	△	○		
				○		参加者に事前講習		○	実施詳細（学生用）	
開講式	○					場所の予約	○			
	○	○	○			来賓出席依頼	○			
	○	○	○			案内状発送		○	案内状	
	○					式次第作成		○	式次第	
	○					安全講話講師の依頼	○			
				○		他教科の調整		○		非常勤講師に連絡
				○		「決意表明」の人選・リハーサル		○		
				○		式シナリオの作成 式場設置		○	式シナリオ	垂れ幕
実習				○		日報・ファイルの準備 装備品・作業服の配布		○	日報・ファイル	
			○			日報チェック 記録 写真撮影 現場との定例連絡		○	実習記録 写真	
			○	○		最終レポート（作文） アンケート		○	最終レポート用紙 アンケート	
			○			ロッカー・装備品の搬出		○		運搬用トラック手配
閉講式	○					場所の予約	○			
	○	○	○			来賓出席依頼	○			
	○	○	○			案内状発送		○	案内状	
	○					式次第作成		○	式次第	
				○		他教科の調整		○		非常勤講師に連絡
				○		発表者の人選・リハーサル 発表用PPスライド作成		○	発表用PPスライド	引き継ぎ式も有り・生徒に作成させる
	○			○		修了証書・発行リスト作成	○	○	修了証書・発行リスト	ふり仮名・受領練習
			○	○		感謝状の作成	○		感謝状	
				○		式シナリオの作成 式場設置		○	式シナリオ	垂れ幕
データ整理				○		実施報告書 実習内容集計 アンケート集計 実施現場一覧　作成		○	実施報告書 実習内容集計 アンケート集計 実施現場一覧	腕章・名札回収

❑マイスター（短期集中型：３泊４日）

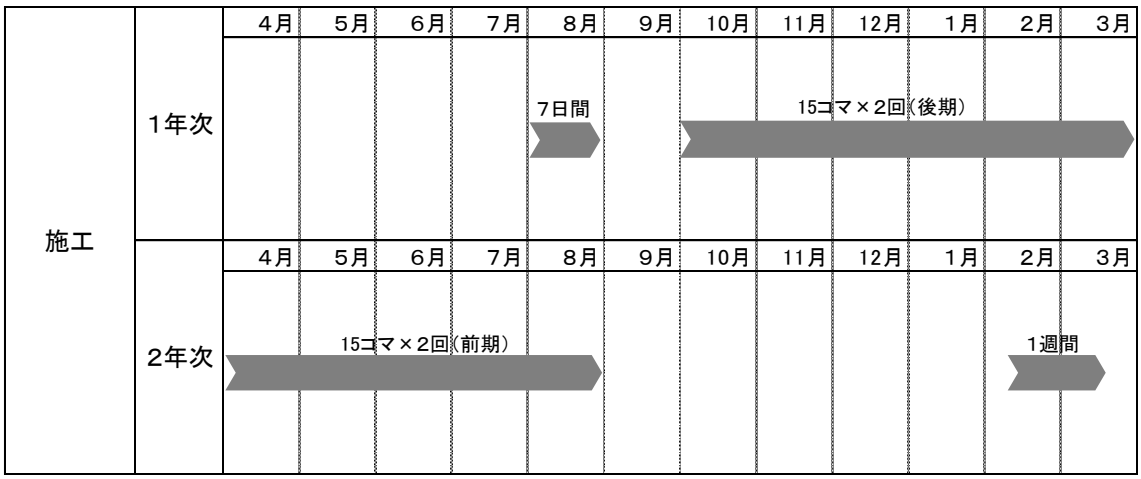
イベント	対象					アクション	担当		文書	備考
	県	町	その他	学内			理事長	講師		
事前	○	○	○			情報収集（場所・時期・内容等）	○	○		
				○		図面・資料作成	○ 承認	○		
実施準備				○		参加希望者の把握		○		
			○			参加人数の折衝・確保	○	○		
				○		参加者の選考・決定	○ 承認	○	試験問題 申込書・同意書 名簿	面接・筆記 現場への交通手段の調査
	○	○	○			事前打ち合わせ会議		○	打合せ記録	
			○			宿泊所・食事の確保		○		
			○			修了証書の作成依頼		○	参加生徒の名簿を送る	
				○		式次第の作成		○	式次第	垂れ幕
実習	○	○	○			開・閉講式挨拶	○			
			○			日報チェック 記録・写真撮影 最終レポート（作文）		○	実習記録 写真	
			○	○		アンケート		○	アンケート	土建組合・生徒
			○			装備品の搬入・搬出		○	持出品リスト作成	
報告				○		発表者の人選・リハーサル 発表用PPスライド作成		○	発表用PPスライド	生徒に作成させる
データ整理				○		実施報告書 実習内容集計 アンケート集計 実施現場一覧　作成		○	実施報告書 実習内容集計 アンケート集計 実施現場一覧	

❑設計（短期集中型：７日間）

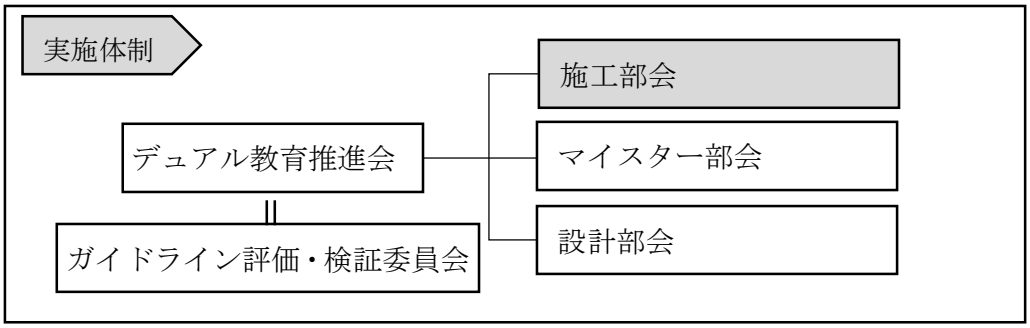
イベント	対象					アクション	担当		文書	備考
	協会	官公庁 施主	建設会 社	学内	その他		理事長	講師		
事前	○				○	情報収集（場所・時期・参加校等）	○	○		
実施準備				○		参加希望者の把握		○		
	○				○	参加人数の折衝・確保	○	○		
				○		参加者の選考・決定	○ 承認	○	試験問題 申込書・同意書 名簿	面接・筆記 現場への交通手段の調査
	○		○			事前打ち合わせ会議		○	打合せ記録	
			○			ロッカー・装備品の搬入		○		運搬用トラック手配
実習	○		○			開・閉講式挨拶	○			
			○			日報チェック 記録・写真撮影 最終レポート（作文）		○	実習記録 写真	
				○		アンケート		○	アンケート	
			○			体験入学担当者　日程調整		○		
			○			ロッカー・装備品の搬出		○		運搬用トラック手配
報告	○					トライアングル誌レポート作成	○	○	トライアングル誌レポート	
				○		発表者の人選・リハーサル 発表用PPスライド作成		○	発表用PPスライド	生徒に作成させる
データ整理				○		実施報告書 実習内容集計 アンケート集計 実施現場一覧　作成		○	実施報告書 実習内容集計 アンケート集計 実施現場一覧	

（２）施工部会における意義と課題の抽出

❑現状の年間スケジュール



❑施工部会実施体制図



① 企業内実習の意義

【学校・学生側】

・現場の「生」の姿を知る機会となり、就職の際のミスマッチが解消できる。

・現場に出ると自分のやりたいことと実際との違いを知ることができる。

・技術力（職人の技を見て実感）・コミュニケーション能力等が養われる。

・仕事の嫌な面を事前に知る事ができる（例：職人との給与面の違い等）。

【企業・業界団体側】

・人材不足の中、就職へつなげる機会となる（人材確保のため）。

・学生の態度・能力を見極めることができる。

・経験の少ない指導担当者（社会人４～５年生）のよい勉強の機会となる。

② 企業内実習の課題

【学校・学生側】

・安全に関する指導をしても、認識まで高まらない（安全についてしっかりと自覚しないと現場での足手まといになる）。

・企業側の学生評価をどのようにするか。（担当者で意見交換、職長の指導、アンケート等）

・傷害保険への加入等の事故対応を明確にする。

【企業・業界団体側】

・企業のトップに理解がないと実習受入れは難しい。

・受入体制が整っていない企業では、効果的な実習は難しい。

・入社が内定した学生でないと、長期に毎日の実習を受け入れることは難しい。

・施工会社が魅力的に見えるような現場の継続的な提供を工夫する。

③ 企業内実習のあり方

【適切な実習期間の設定】

・地べた周りから内装まで一連の流れを体験するには４ヶ月間、週１回の現場実習が必要。

・１～２ヶ月間、ぶっ通しは、職人の場合はよいが、監督業は行程の進捗が分かりにくいし、一通り覚えるには個人差もあるが、１～３年掛かるため現実的ではない。

【適切な十種現場の設定】

・興味・関心を喚起する現場を選定する必要がある（工期が厳しい・人数が少ない現場は見送る)。

・行程の進捗を見ながら、タイミング　よく実習を開始する。

・プロを目指す学生に、見学会的な実習はよくない。

④ 安全整理のあり方

【学校・学生側】

・学校では、実習を行う前に、参加学性に対して 90 分１コマの安全教育を行っている（服装や態度、危険回避等)。

・安全に関することは、繰り返し指導しないと行動に結びつかない。

・まず、大きな声で挨拶をすることが基本である。

・体調を万全にして来ない学生がいる

【企業・業界団体側】

・一番多い事故は物的要因ではなく、人的要因である（ヒューマンエラー)。

・職員の特性を把握し、資質向上に努めている。

・危険予知（ＫＹ）活動から、危険源を見つけ提言するリスクアセスメントへと取組を転換し、毎朝、朝礼後、実施している。

今後の指導の工夫
・書店にある「新入社員テキスト」等を参考にし、安全に関するマニュアルやチェックシートを作成するとともに、事故が起きた場合の行動マニュアルも作成する。 ・作成したマニュアルをもとに学校で指導し、自覚・認識しているか企業内実習（インターンシップ）で検証する。

⑤ 評価のあり方

【学校側の意見】

・学校で評価したものを企業側へフィードバックし、企業の目で評価することが必要である。

・企業評価は、学生に企業側が自分をどう見ているかを意識させるためにも進めたい。

【企業側の意見】

・学生の動きだけを見て評価するのは難しい。

・評価する手間の問題ではなく、評価する基準の難しさの問題である。

・仕事に対する姿勢などの簡単なチェックシートがあれば評価できる。

今後の指導の工夫

・企業と学校が合致した評価方法・評価内容を検討していく。

・企業評価チェックシートを作成し、企業の目線での学生評価を進める。

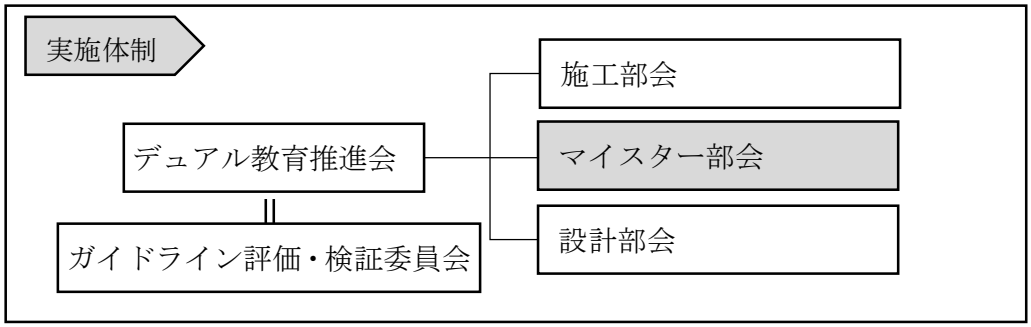
・日報を安全と品質に分けて記述させ、学校だけでなく企業側もコメントを書くことも検討する。

（3）マイスター部会における意義と課題

❑現状の年間スケジュール

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
マイスター	1年次						3泊4日						
	2年次						3泊4日						

❑マイスター部会実施体制図



① 企業内実習の意義

【学校・学生側】

・仕事ができないことを実感する。
・自分の志望と実際の職場とのギャップに気づく。
・職人技術で飯が食えるという間違いに気づく。
・学校（授業）と社会（現場）の違いを知る。

【企業・団体側】

・現場の雰囲気を感じてもらう。
・現場の実際を知る。
・職人が何を考えて仕事をしているか学ぶ。
・現場の流れを理解する。
・他人との関係（ネツトワーク）の必要性を知る。

企業内実習の効果の検討
■長期の企業内実習であれば効果が期待できる。 ・長期間の夏休みの現場でのアルバイトが一番、身になっている。２～３日の実習は仕事体験レベルになってしまう。 ・学校ではどうしても甘えが出てしまう（緊張感の持続性がない)。

② 企業内実習の課題

【学校・学生側】

・社会生活上のマナーやルールを守る指導を徹底する（特に挨拶、遅刻等)。
・やる気、一所懸命さ、集中力等を重点的に指導する。
・授業時間で終わる指導から、課題解決で終わる指導へ。
・現場のルール、安全衛生法違反などについて、企業・学校が協力して指導する。
・長期企業内実習と単位認定、授業との関係を整理する。

【企業・業界団体側】

・受入現場があるか。
・２人の現場では学生指導が難しい。
・職種による長期企業内実習のあり方を整理する（一時期集中か年間定期的等)。
・職種による無償・有償を整理する。
・傷害保険加入方法を整理する。
・事故時の責任の所在を明確にする協定書等を検討する。

③ 学生の実習中の事故等への対応方法（主に保険等）

【学校・学生側と企業・業界団体側との共通認識】

・学校が現在加入しているインターンシップ活動賠償保険、学生災害傷害保険で対応

する。

④ 企業内実習の期間と実施時期・受入れ方法と課題

【学校・学生側と企業・業界団体側の共通認識】

・実施期間：長期間として１ヶ月程度、もしくはそれ以上。

・実施時期：３級の技能試験が終わる７月以降（８月から)、２級の技能検定が終わる１月以降、一定水準以上の学習を行った後の２年の 10 月頃。

・受入れ方法：他の職種と違い、大工・左官は無償を原則とする。

【課　題】

・学校のカリキュラムとの関係から適切な実施時期を選定する。

⑤ 実習方法・企業とのマッチング・学校の対応と課題

【学校・学生側と企業・業界団体側の共通認識】

・実習方法：職業への意識の変化と面白さや喜びにも気づくように、会話のしやすい年齢の近い若い職人に指導させる。また、現場の一連の作業を体験させることにより、学生がその職業に対して意識が変わっていくため、普通の見習い職人と同じことをさせる。

・企業とのマッチング：組合・協会が受入窓口となり企業を紹介するとともに、企業の現場の状況や学生の通勤時間等を配慮する。

・学校の対応：日報用紙を作成する。教員は、週に１～２回程度職場を訪問して学生と面談し、学生の状況を把握する。実習したことをまとめ、発表する場を設ける。

【課　題】

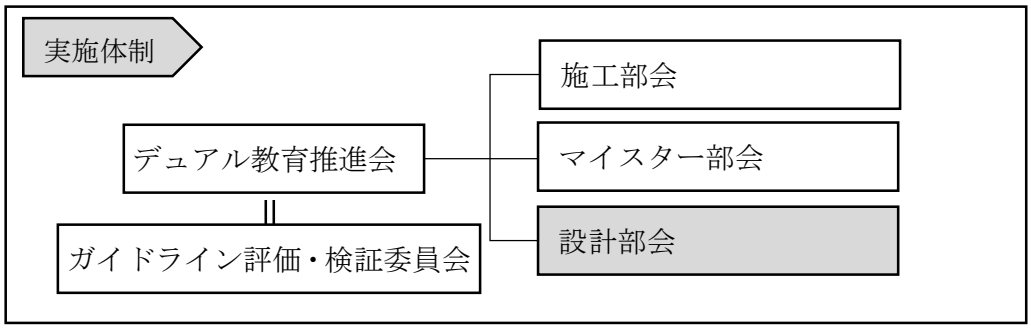
・受入れ調整から実習終了までの一連の流れを作成する。実習中の学校の関わり方や実習を振り返る場や方法を検討する。

（４）設計部会における意義と課題

❑現状の年間スケジュール

<table>
<tr><td rowspan="4">設計</td><td rowspan="2">1年次</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>7日間</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">2年次</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td><td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td></tr>
<tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td>7日間</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr>
</table>

❑設計部会実施体制図



① 企業内実習の意義

【学校・学生側】

・設計という職場の雰囲気を味わうことができる。

・設計の仕事をやりたいと思って入学しているが、途中で施工の仕事に変わる学生がいる。その場合、実習により早い段階で施工へと軌道修正できる。

・企業とのミスマッチ解消の機会となっている。

【企業・団体側】

・人材不足の中、就職へつなげる機会となる（人材確保のため）。

・実習を行うことにより、地元企業に目を向けさせる機会となる。

・採用時のマッチングを図るための学生の態度・能力を見極めることができる。

② 企業内実習のあり方

【適切な実習期間の設定】

・授業や資格試験対策などで、長期に実習を行うことは課題がある。

・現在のカリュキュラムを大きく変えず、夏季休業日を短縮して実習を実施すると課題は解消できる。

・実習により、単位取得できることから、学生も納得する。

【企業内実習の内容】

・設計は発注者から思いを聴き取る能力が必要であり、そのような場面に立ち会えるような実習が好ましい。

・現在は設計と施工が一体化してきているため、様々な場面に出会えるような実習が望ましい。学生の今後の設計、施工を選択する参考にもなるために必要である。

③ 企業内実習に向けて

【実習企業の調整】

・設計事務所協会が仲介をして、企業と学生の調整を図る。

・一度、実習を受入れてくれれば、その後も要請があれば配慮してくれる。

・毎年継続するのであれば、企業も受け入れる体制ができる。

【実習時期等の検討】

・学校としては、１年生の夏季休業日前後が望ましいため、その時期に受入企業があるか検討を進める。
・最低１週間とし、可能な範囲で長期化する方向で検討する。
・設計実習実施プログラムのようなものを作ることを検討する。

（５）企業実習に使用する様式の検討

①企業内実習・安全チェック表

下記の（旧）施工用・マイスター用の企業内実習・安全チェック表について議論を行った。

マイスター実習用

企業内実習・安全チェック表

施工実習用

企業内実習・安全チェック表

平成　　年　　月　　日（　　）曜日　　学年（　　）　氏名（　　）

実習指導の指導者名：（　　）

1　健康状態について	
①実習前　：　良好　不調（不調の状況：	報告済・未報告）
②実習後　：　良好　不調（不調の状況：	報告済・未報告）

2　保護具・服装・携行品の点検	
①所定の服装を正規に着用しているか。	:（合格・不合格後の補充合格）
②保安帽を着用し、あご紐をきちんと締めているか。	:（合格・不合格後の補充合格）
③安全靴をきちんと履いているか。	:（合格・不合格後の補充合格）
④腕章及び名札をつけているか。	:（合格・不合格後の補充合格）
⑤安全帯を装着しているか。	:（合格・不合格後の補充合格）
⑥必需品を携帯しているか。〈スケール、筆記用具、軍手、雨具〉	:（合格・不合格後の補充合格）

3　厳守事項の再確認（□にチェック）
□①場内において、実習目的以外のことは勝手にしないこと。
□②実習方法、順序をよく聞いて十分に理解を深めること。
□③安全手順を確認するなど慎重さに心がけること。
□④周囲の人に迷惑をかけないように配慮すること。
□⑤場内の美化に努めること。
□⑥場内・外の交通（建設機械、トラックなど）に注意すること。
□⑦「立ち入り禁止」のところへは絶対に入らないこと。

4　危険回避の再確認（□にチェック）
□①クレーンの吊荷の下や建設機械の作業半径にはいらないこと。
□②活動範囲の手すり・柵の安全確認を行うこと。また移動させないこと。
□③開口部に近づかないこと。
□④浮石や釘踏みの恐れがあるときは、指示された対応措置を行うこと。
□⑤小型車量系建設機械の運転はしないこと。
□⑥スコップやつるはし等の道具を使用するときは、道具の欠陥を使用前に点検すること。
□⑦物（ゴミを含む）を落としたり、飛ばしたりしないこと。
□⑧電気機械のスイッチを触らないこと。
□⑨番線、鉄筋、木材を持ったときは、電線に注意すること。
□⑩指示されたとき以外は、足場、脚立には上がらないこと。
□⑪危険な状態を発見したときは、直ちに監督員に報告すること。

5　実習に臨む心構え等に関する再確認（□にチェック）
□①指導者の指示に従い、注意事項を厳守し、積極的に、慎重に取り組むこと。
□②事故・災害があったときは、あわてず、小さな怪我でも現場係員、指導教員に報告すること。
□③現場の一員として、挨拶の励行や気配り、場内でのマナーに心がけること。

6　ミーティングでの安全に関する注意事項
①
②
③

【検討結果】

各項目において大きくな変更は無かったが、全体的に不明確な部分等を各分野（施工とマイスター分野）向けに明確化な表現とした。

②インターンシップ活動日誌

下記の（旧）マイスター用インターンシップ活動日誌について議論を行った。

インターンシップ活動日誌　　平成　年　月　日

学校名　　氏名

活動内容（　　）　指導講師（　　）

≪図示≫作業状況・使用道具・材料など

≪説明文≫　作業手順など

≪本日の作業における注意事項≫説明を受けたり注意したこと

≪感想≫

≪質問等≫

≪指導欄≫

□大変良好

□良好

□もう少し記入しましょう

□図をしっかり描きましょう

【検討結果】

大きくは変更する必要が無かったが、実習指導員が確認した日付と押印場所を下部部分に追加

することになった。

③企業内実習・評価表

下記の（旧）施工用・マイスター用の企業内実習・評価表について議論を行った。

マイスター実習用

企業内実習・評価表

平成　年　月　日

施工実習用

企業内実習・評価表

平成　年　月　日

学生氏名		企　業　名	
実習期間	月　日～　月　日	評価者氏名	
出欠状況	出席（　　）日 遅刻（　　）日	欠席（　　）日 早退（　　）日	

1　意欲・態度面の評価

評価項目	優	良	可
①実習時の身だしなみ			
②実習全般の態度・動作			
③職場での言葉遣い			
④実習意欲・積極性・自発性			
⑤安全に関する適切な行動・態度			
⑥職場規律の遵守			
⑦挨拶・礼儀等の基本的なマナー			
⑧場内美化への努力			
⑨指示事項の確実な実施			
⑩指示・説明事項への理解度			

2　職務能力面の評価

能力	着眼点	優	良	可
主体性・積極性	指示がなくても自ら取り組んでいる			
他に働きかける力	周囲に共に行動するよう声をかけている			
実行力･目標達成力	目標達成に向けて計画的に行動している			
課題発見力	現状を的確に把握し、課題を明確にしている			
課題解決計画力	課題解決方法を考え、最適案を選択している			
創造力	新たな発見・発想が身につく行動している			
発信力・伝える力	要点を押さえて理路整然と情報を伝えている			
傾聴力・聞く力	相手の話を前向きに聞く態度と雰囲気がある			
柔軟性･対応する力	相手の立場や意見を尊重し、行動している			
状況把握力	周囲の状況を把握し自分の役割を自覚できる			

3　総括評価　：　□優　　□良　　□可

4　学生へのアドバイスやお気づきの点がありましたらご記入ください。

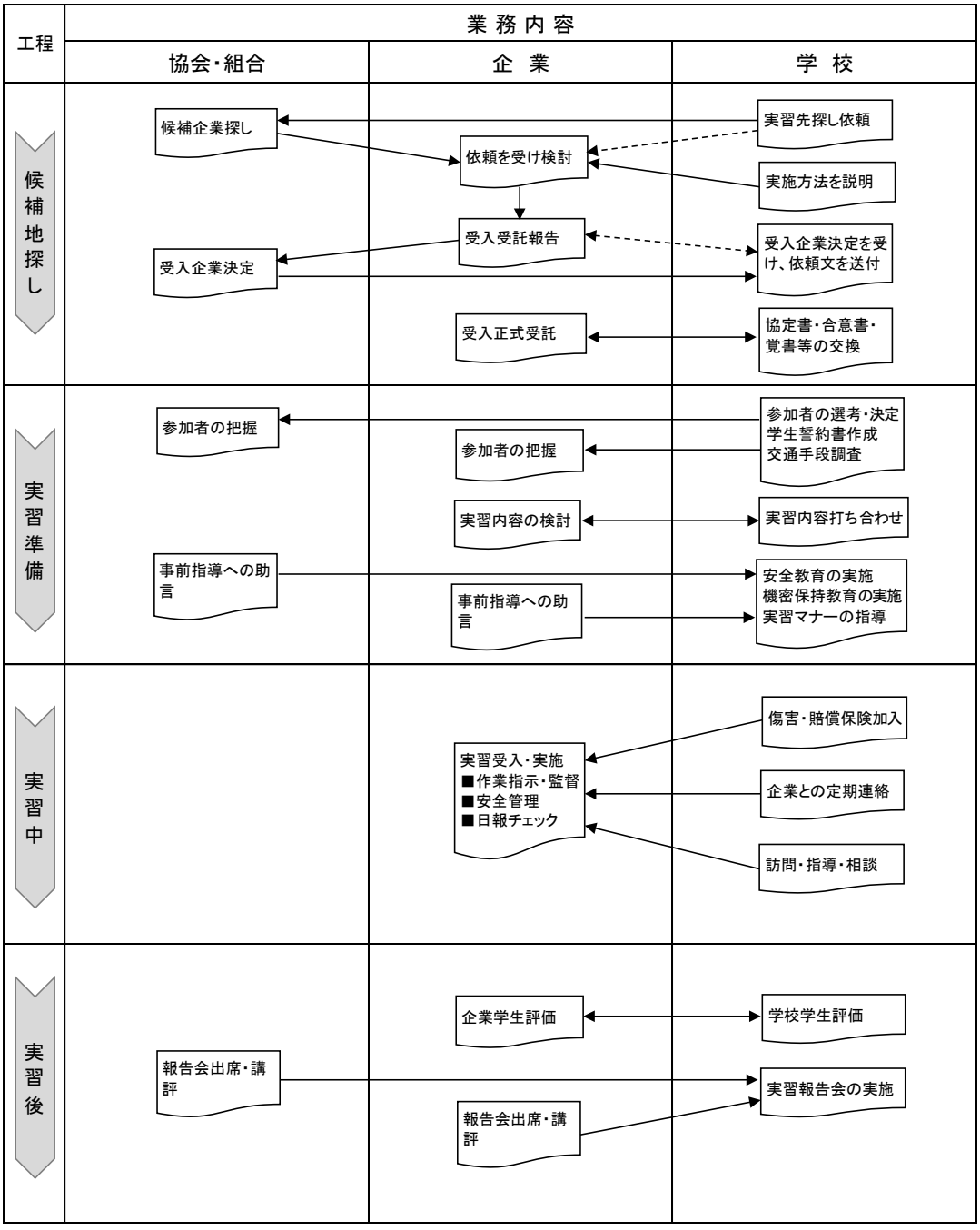
【検討結果】

項目において大きな変更点はないものの、企業からの評価が得られやすいよう、企業評価しにくい部分は未記入でも可能など、企業負担を軽減することにも配慮するとともに、企業方向のみではなく学校との協力による合同評価表として進めることとした。

２．企業内実習の方向性

（１）企業・業界団体（協会・組合等）との連携フロー図

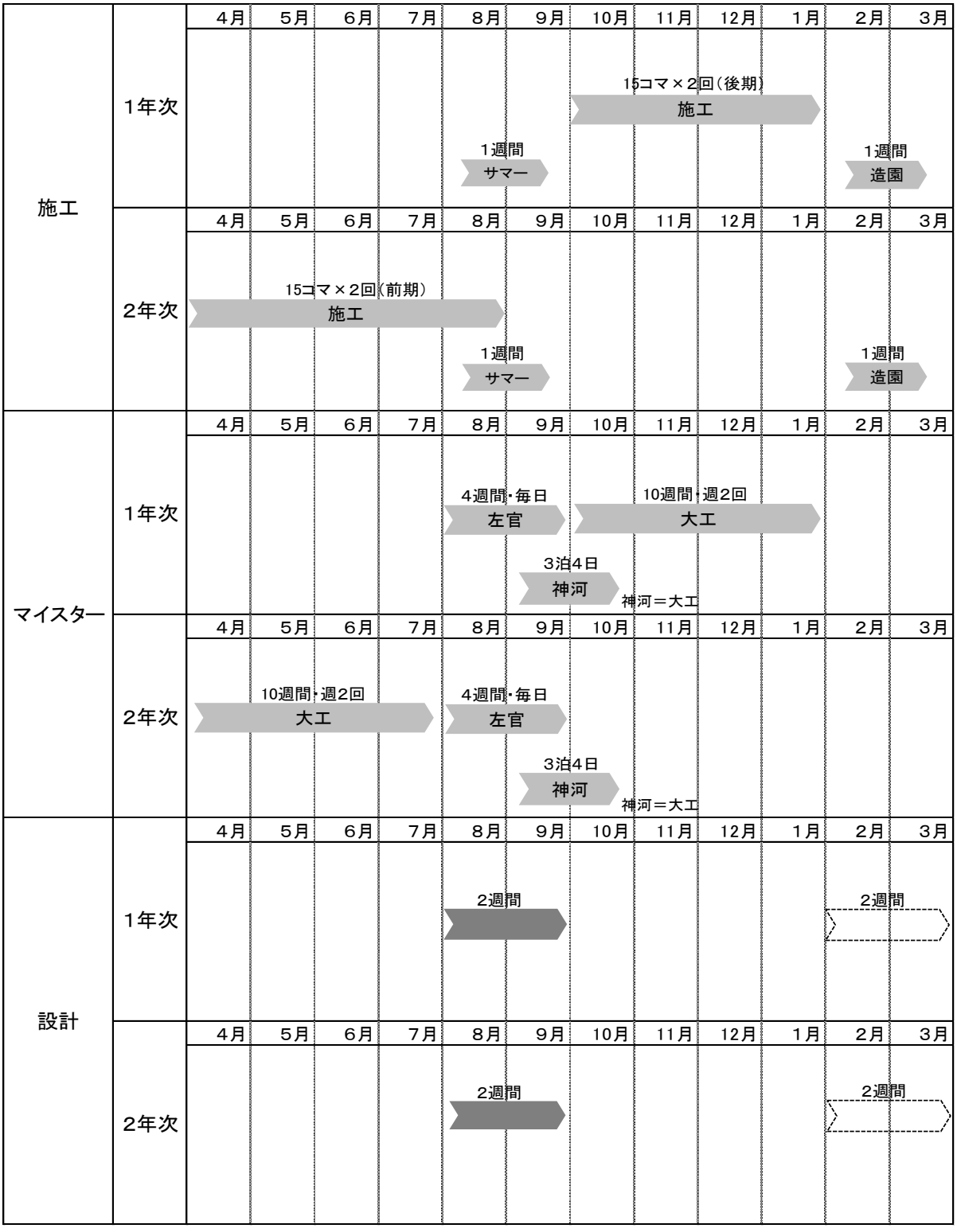
企業内実習を実施することに関し、一企業のみでは安定した実習現場の確保などの限界がある。継続的な企業内実習を実施していくためには、企業・業界団体（協会・組合等）との連携は欠かせない部分であるため、業務内容の役割等を明確にした産学連携フロー図を作成。



（２）企業内実習の年間スケジュールと様式

より円滑かつ充実に企業内実習の取組みを実施するために、年間スケジュールと必要な教育支援ツールとして各様式を作成した（※使用する様式の原寸大は別冊にて作成）。

①年間スケジュール表



※施工・設計：１年次と２年次各約 260 時間／年

※マイスター：１年次と２年次各 352 時間／年

②企業内実習・安全チェック表（施工・マイスター）

【施 工】

施工実習用

企業内実習・安全チェック表

平成　　年　　月　　日（　　）曜日　　学年（　　）　氏名（　　）

実習指導の監督員名：（　　）

1　健康状態について	
①実習前　：　良好　不調（不調の状況：	報告済・未報告）
②実習後　：　良好　不調（不調の状況：	報告済・未報告）

2　保護具・服装・携行品の点検	
①所定の服装を正規に着用しているか。	：（合格・改善合格）
②保護帽を着用し、あご紐をきちんと締めているか。	：（合格・改善合格）
③安全靴をきちんと履いているか。	：（合格・改善合格）
④腕章及び名札をつけているか。	：（合格・改善合格）
⑤安全帯を装着しているか。	：（合格・改善合格）
⑥必需品を携帯しているか。〈スケール、筆記用具、軍手、雨具〉	：（合格・改善合格）

3　厳守事項の再確認（□にチェック）
□①場内において、実習目的以外のことは勝手にしないこと。
□②実習方法、順序をよく聞いて十分に理解を深めること。
□③安全手順を確認するなど慎重さに心がけること。
□④周囲の人に迷惑をかけないように配慮すること。
□⑤場内の美化に努めること。
□⑥場内・外の交通（建設機械、トラックなど）に注意すること。
□⑦「立ち入り禁止」のところへは絶対に入らないこと。

4　危険回避の再確認（□にチェック）
□①クレーンの吊荷の下や建設機械の作業半径にはいらないこと。
□②活動範囲の手すり・柵の安全確認を行うこと。また移動させないこと。
□③必要に応じて安全帯を使用すること。
□④浮石や釘踏みの恐れがあるときは、指示された対応措置を行うこと。
□⑤小型車輌系建設機械の運転はしないこと。
□⑥道具等を使用するときは、道具の欠陥を使用前に点検すること。
□⑦物（ゴミを含む）を落としたり、飛ばしたりしないこと。
□⑧電気機械のスイッチを触らないこと。
□⑨番線、鉄筋、木材など長尺ものを持ったときは、電線に注意すること。
□⑩指示されたとき以外は、足場など高所に立ち入らないこと。
□⑪危険な状態を発見したときは、直ちに監督員に報告すること。

5　実習に臨む心構え等に関する再確認（□にチェック）
□①監督員の指示に従い、注意事項を厳守し、積極的に、慎重に取り組むこと。
□②事故・災害があったときは、あわてず、小さな怪我でも監督員、指導教員に報告すること。
□③現場の一員として、挨拶の励行や気配り、場内でのマナーに心がけること。

6　ミーティングでの安全に関する注意事項
①
②
③

【マイスター】

マイスター実習用

企業内実習・安全チェック表

平成　　年　　月　　日（　　）曜日　　学年（　　）　氏名（　　）
実習指導員氏名　：（　　）

1　健康状態について
①実習前　：　良好　不調（不調の状況：　　報告済・未報告）
②実習後　：　良好　不調（不調の状況：　　報告済・未報告）

2　保護具・服装・携行品の点検	
①所定の服装を正規に着用しているか。	:（合格・改善合格）
②保護帽を着用し、あご紐をきちんと締めているか。	:（合格・改善合格）
③安全靴をきちんと履いているか。	:（合格・改善合格）
④腕章及び名札をつけているか。	:（合格・改善合格）
⑤安全帯を装着しているか。	:（合格・改善合格）
⑥必需品を携帯しているか。〈スケール、筆記用具、軍手、雨具〉	:（合格・改善合格）

3　厳守事項の再確認（□にチェック）
□①各現場・事務所のルールに従うこと。
□②実習方法、順序をよく聞いて十分に理解を深めること。
□③安全手順を確認するなど慎重さに心がけること。
□④周囲の人に迷惑をかけないように配慮すること。
□⑤場内の美化に努めること。
□⑥場内・外の交通（建設機械、トラックなど）に注意すること。
□⑦「立ち入り禁止」のところへは絶対に入らないこと。

4　危険回避の再確認（□にチェック）
□①クレーンの吊荷の下や建設機械の作業半径にはいらないこと。
□②活動範囲の手すり・柵の安全確認を行うこと。また移動させないこと。
□③必要に応じて安全帯を使用すること。
□④浮石や釘踏みの恐れがあるときは、指示された対応措置を行うこと。
□⑤小型車輌系建設機械の運転はしないこと。
□⑥道具等を使用するときは、道具の欠陥を使用前に点検すること。
□⑦物（ゴミを含む）を落としたり、飛ばしたりしないこと。
□⑧電気機械のスイッチを触らないこと。
□⑨番線、鉄筋、木材など長尺ものを持ったときは、電線に注意すること。
□⑩指示されたとき以外は、足場など高所に立ち入らないこと。
□⑪危険な状態を発見したときは、直ちに監督員に報告すること。

5　実習に臨む心構え等に関する再確認（□にチェック）
□①実習指導員の指示に従い、注意事項を厳守し、積極的に、慎重に取り組むこと。
□②事故・災害があったときは、あわてず、小さな怪我でも実習指導員に報告すること。
□③現場の一員として、挨拶の励行や気配り、場内でのマナーに心がけること。

6　ミーティングでの安全に関する注意事項
①
②
③

③企業内実習活動日誌（施工・マイスター）

【施　工】

企業内実習活動日誌（第　　日目）　実習日：平成　　年　　月　　日

受入企業検印			学校検印	

1、今日の職種別活動状況

業者名	職種	人数	作業内容	実習作業に○
合計				

2、現場の進捗状況概要

3、実習活動　　作業場所：　　工種：

≪図示≫作業状況・使用道具・材料など

≪説明文≫　作業手順など

≪本日の作業における注意事項≫説明を受けたり注意したこと

≪感想≫

≪質問≫作業・実務についての質問

《質問に対する回答欄》

≪指導欄≫
□大変良好
□良好
□もう少し記入しましょう
□図をしっかり描きましょう

【マイスター】

企業内実習活動日誌　　平成　　年　　月　　日

学校名　　氏名

活動内容　作業場所（　　）

≪図示≫作業状況・使用道具・材料など

≪説明文≫　作業手順など

≪本日の作業における注意事項≫説明を受けたり注意したこと

≪感想≫

≪質問等≫

≪指導欄≫

□大変良好

□良好

□もう少し記入しましょう

□図をしっかり描きましょう

平成　年　月　日

確認印

④企業内実習・評価表（施工・マイスター）

【施 工】

施工実習用

企業内実習・評価表

平成　　年　　月　　日

学生氏名		企　業　名	
実習期間	月　　日～　　月　　日	監督員氏名	
出欠状況	出席（　　）日 遅刻（　　）日	欠席（　　）日 早退（　　）日	

※実習中の学生の態度・能力について、気づかれた点について評価をお願いします。評価しにくい部分は、空欄としてください。

1　意欲・態度面の評価

評価項目	優	良	可
①実習時の身だしなみ			
②実習全般の態度・動作			
③職場での言葉遣い			
④実習意欲・積極性・自発性			
⑤安全に関する適切な行動・態度			
⑥職場規律の遵守			
⑦挨拶・礼儀等の基本的なマナー			
⑧場内美化への努力			
⑨指示事項の確実な実施			
⑩指示・説明事項への理解度			

2　職務能力面の評価

能力	着眼点	優	良	可
主体性・積極性	指示がなくても自ら取り組んでいる			
他に働きかける力	周囲に共に行動するよう声をかけている			
実行力・目標達成力	目標達成に向けて計画的に行動している			
課題発見力	現状を的確に把握し、課題を明確にしている			
課題解決計画力	課題解決方法を考え、最適案を選択している			
創造力	新たな発見・発想が身につく行動している			
発信力・伝える力	要点を押さえて理路整然と情報を伝えている			
傾聴力・聞く力	相手の話を前向きに聞く態度と雰囲気がある			
柔軟性・対応する力	相手の立場や意見を尊重し、行動している			
状況把握力	周囲の状況を把握し自分の役割を自覚できる			

3　総括評価　：　□優　　□良　　□可

4　学生へのアドバイスやお気づきの点がありましたらご記入ください。

【マイスター】

マイスター実習用

企業内実習・評価表

平成　　年　　月　　日

学生氏名		企　業　名	
実習期間	月　　日～　　月　　日	実習指導員氏名	
出欠状況	出席（　　）日 遅刻（　　）日	欠席（　　）日 早退（　　）日	

※実習中の学生の態度・能力について、気づかれた点について評価をお願いします。評価しにくい部分は、空欄としてください。

1　意欲・態度面の評価

評価項目	優	良	可
①実習時の身だしなみ			
②実習全般の態度・動作			
③職場での言葉遣い			
④実習意欲・積極性・自発性			
⑤安全に関する適切な行動・態度			
⑥職場規律の遵守			
⑦挨拶・礼儀等の基本的なマナー			
⑧場内美化への努力			
⑨指示事項の確実な実施			
⑩指示・説明事項への理解度			

2　職務能力面の評価

能力	着眼点	優	良	可
主体性・積極性	指示がなくても自ら取り組んでいる			
他に働きかける力	周囲に共に行動するよう声をかけている			
実行力・目標達成力	目標達成に向けて計画的に行動している			
課題発見力	現状を的確に把握し、課題を明確にしている			
課題解決計画力	課題解決方法を考え、最適案を選択している			
創造力	新たな発見・発想が身につく行動している			
発信力・伝える力	要点を押さえて理路整然と情報を伝えている			
傾聴力・聞く力	相手の話を前向きに聞く態度と雰囲気がある			
柔軟性・対応する力	相手の立場や意見を尊重し、行動している			
状況把握力	周囲の状況を把握し自分の役割を自覚できる			

3　総括評価　：　□優　　□良　　□可

4　学生へのアドバイスやお気づきの点がありましたらご記入ください。

⑤アンケート用紙

【学生用】

9. 企業内実習に参加したことで、自分の成長に役立ったのはどのような体験ですか。具体的に教えてください。

記	

4. あなたが今年度受講した（受講している）企業内実習を体験したことにより、得られたことは何ですか。
次の中から該当するものを全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 知らないことの多さ
□ 2 現場での実践的な技能の習得

学生用

「専修学校版デュアル教育推進」事業のアンケートご協力願い
「建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業」におけるアンケートのご協力をお願いいたします。
あなたが参加した企業内実習について回答願います。

1. 以下ご記入ください。

学校名			
学科名		年生	年生
お名前			
参加したインターンシップ名			

ください。

2. 企業内実習への関心はございましたか。次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 関心があった
□ 2 あまり関心が無かった
□ 3 関心がなかった
□ 4 その他（ ）

→ 2－1. 企業内実習に「関心があった」理由を次の中から該当するもの全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 就職に有利になると思ったから
□ 2 学校では体験できないことがあると思ったから
□ 3 興味・関心があったから
□ 4 将来役立つと思ったから
□ 5 技術を目の前で見れる貴重な体験と思ったから
□ 6 知識力（スキル）をつけたいと思ったから
□ 7 学校の授業だから
□ 8 先生（学校）から進められたから
□ 9 なんとなく
□ 10 その他（ ）

3. 企業内実習への不安はありましたか。

□ 1 あった
□ 2 無かった
□ 3 その他（ ）

→ 3-1. 上記3の「1 あった」と回答の方にお聞きします。
どのようなことがそう思われましたか次の中から該当するものを全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 学校内の勉強だけでよいと思ったから
□ 2 社会人（知らない大人）との接し方が分からないから
□ 3 単位が取れるか不安だったから
□ 4 何を勉強すればよいか分からないから
□ 5 恐いと思ったから
□ 6 めんどくさいと思ったから
□ 7 その他（ ）

→ 3-2. 上記3「無かった」と回答した方にお聞きします。
なぜ不安が無かったのか次の中から該当するもの全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 学校のカリキュラムに入っていたから
□ 2 参加すれば就職に有利になると思っていたから
□ 3 事前に先生、もしくは学校から話があったから
□ 4 自分が知っている会社だったから
□ 5 授業だから（単位が取れるから）と思っていたから
□ 6 みんなが受けるから
□ 7 その他（ ）

【企業用】

14. 来年度以降も企業内実習を受入れてもよいとお考えですか。

□ 1 受入れてもよい
□ 2 受入れてもよいが、現場次第である

9. 安全対策について教えてください。
貴社では、学生を受入れるにあたり、どのような安全対策を心掛けているのか教えてください。

記入	

5. 企業内実習受入れにあたり、学生にはどのようなことが最低限必要と思われますか。
次の中から該当するものを選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 あいさつ
□ 2 忍耐力
□ 3 他人の話を聞く姿勢
□ 4 素直さ

企業用

「専修学校版デュアル教育推進」事業アンケートのご協力願い

「建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業」におけるアンケートのご協力をお願いいたします。

1. 貴社名と部署名を教えてください。

貴社名	
部署名	

2. 貴社の従業員数を教えてください。次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 29人以下
□ 2 30～99人
□ 3 100～299人
□ 4 300～599人
□ 5 600～999人
□ 6 1,000人以上

3. 貴社の企業内実習の受入れについて教えてください。

3-1. 貴社は、依頼があれば企業内実習の受入れを行っていますか。どちらか1つに☑してください。

□ 1 は い
□ 2 いいえ

→ 3-1-1.「1 は い」と回答した方にお聞きします。受入れの頻度を次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 毎年受入れている
□ 2 依頼があったときに受入れている
□ 3 その他（ ）

3-1-2. 貴社は、企業内実習の受入れ時期は決まっていますか。

□ 1 企業でマニュアルがあり決まっている
□ 2 学校と相談している

3-1-3. 受入れの人数について教えてください。
1回の実施で何人まで受入れは可能ですか。

記入欄	人程度

4. 企業内実習の受入れの目的について教えてください。次の中から該当するものを選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 専修学校教育に共感を得たから
□ 2 地域貢献・活性化のため
□ 3 業界全体の向上のため
□ 4 専修学校教育向上の助力
□ 5 専修学校とのネットワーク強化
□ 6 学生を受入れることによる社員への刺激とするため
□ 7 人材確保のため
□ 8 その他（ ）

第3章　企業内実習

１．2016 年度企業内実習（インターンシップ）の取組み

2016 年度のインターンシップの状況を以下の通り実施した。

（１）2016 年度前期インターンシップ報告書

（２）2016 年度サマーインターンシップ報告書

（３）かみかわインターンシップ風景

（４）後期インターンシップ風景

本事業の取組みにおいて、現状の状況把握は欠かせないものであると考えたため、あえて、本事業の報告書に概要を掲載した。

学生が回答した本年度アンケート調査は、これらのインターンシップの経験をした学生が中心となり回答をしている。

「専修学校版デュアル教育」のガイドラインの作成の参考とするべく、学生から「参加する前の不安点」や「何を得られたのか」といった生の声の聞き取りを行うため、アンケートを実施した。

2016 年度前期インターンシップ

【実施報告書】

学校法人　誠和学院

日本工科大学校

2016年度　後期インターンシップ現場実習　実施報告

1　受入企業　　株式会社　赤鹿建設

　受入現場　　パレ･ロワイヤル手柄山公園新築工事

2 参加学生

　建築工学科　2年　 8名

3 担当講師

　建築工学科講師　高原一岐

4 実施期間

　2016年4月21日～2016年8月4日

月　日	実習内容	実習場所
４月９日	開講式	姫路建設会館
４月21日	型枠工事	建設現場内
5月12日	コンクリート工事	建設現場内
5月19日	仮設工事	建設現場内
5月26日	鉄筋工事	建設現場内
6月2日	クロス工事	建設現場内
6月9日	型枠工事	建設現場内
6月23日	左官工事	建設現場内
6月30日	タワークレーンクライミング	建築現場内
7月7日	鉄筋工事・墨出し	建築現場内
7月14日	サッシュ工事	建設現場内
7月28日	ガラス工事	建設現場内
8月4日	ユニットバス・造作工事	建設現場内
10月６日	閉講式（閉開講式）	姫路建設会館

2016年度前期インターンシップ

受入企業:株式会社　ノバック
参加者:日本工科大学校　8名

4月9日　開校式

日本工科大学校　中農理事長

兵庫県建設業協会姫路支部　増田支部長

実習生8名

決意表明　環境建設工学科　2年中妻　君

安全講話　　中西　様

第1回　4月21日　型枠工事

型枠工事担当のひだか建設様より型枠について

型枠の構造について現場で説明を受けました

第2回　5月12日　コンクリート工事

コンクリートの受け入れ試験について説明を受けました

コンクリート打設状況の見学

第3回　5月19日　仮設工事

ブレスの取り付け

根がらみの取り付け

第4回　5月26日　鉄筋工事

鉄筋材の種類等について説明

土間配筋実習

第5回　6月2日　クロス工事

クロス糊つけの見学

パテ工事体験

第6回　6月9日　型枠工事

壁や柱の型枠について説明を受けました

型枠の組立実習

第7回　6月23日　左官工事

セパ穴埋め　説明

左官　実習

第8回　6月30日　クレーンクライミング見学

タワークレーンの構造とクライミングについて見て学びました

リモコン操作について説明を受けました

第9回　7月7日　鉄筋工事・墨出し

超音波探傷試験の見学

墨出しの実習

第10回　7月14日　サッシュ工事

サッシュの取り付けについて

サッシュの取り付け溶接の見学

第11回　7月28日　ガラス工事

様々なガラスの性能について学びました

ガラスの取り付け作業

第12回　8月4日　ユニットバス工事　造作工事

ユニットバスの組立について説明

造作工事の見学

10月6日　閉講式

日本工科大学校　片山校長

兵庫県建設業協会　姫路支部　増田支部長

受入れ企業　㈱赤鹿建設　岩戸様

前期インターンシップ　実施報告

修了書授与

2年生から1年生へ引継ぎ

前期インターンシップに参加して

環境建設工学科　2 年　EA15011　中妻 恭平

現場は、赤鹿建設さんが施工する「パレ・ロワイヤル」という RC 造 13 階建てのマンションでした。赤鹿建設さんの「ロワイヤルシリーズ」というマンションは、僕が住んでいる網干の駅のすぐ近くに一棟あり、電車で通学する時も、英賀保駅の近くにもう一棟あり、とても有名なマンションのシリーズらしいです。自分の身近にある建物を施工した会社が手掛けるマンションということで、とても興味を持ちました。

初日に現場を見学させていただいた時は、仮設の事務所の中で現場の簡単な説明と、注意事項、これからの現場の作業予定などのお話を聞きました。その時に僕が驚いたのが、安全管理の徹底さです。「作業指示書・KY ミーティング実施報告書」という用紙に、本日の作業内容とその作業にどんな危険がひそんでいるか、その可能性や重大性、その対策などを記入する欄があり、安全管理を徹底しているのだと感じました。また、作業員一人ひとりのヘルメットの後ろに、その人の名前や血液型などが記入されていたり、仮設の事務所に入ってすぐ目の前に、救急箱や治療するための道具が入れられている専用の棚があり、もし怪我人が出てしまったとしても、治療がしやすいように工夫しているのだと感じました。

二日目以降は、コンクリートの養生や作業用足場、窓のサッシやガラスの説明などを説明していただきました。今までの授業で習ったり聞いたりしたことがあるものがあり、授業だけではよく分からなかった事を実際に現場で見て、触れて、作業してみることによって、より理解が深まりました。特に製図の授業で描いた RC の図面で、ここの部分は実際にはどうなっているのか、図面だけではよく分からない部分があったのですが、実際に現場を見ることによって、実際にはこうなっているのか、と理解することができました。

今回のインターンシップに参加して、実際の現場の作業工程や施工方法などを知ることができ、とても良い経験になりました。また、授業で習ったことを実際に現場で見ることはすごく重要で、実際に現場を見るのと見ないのとでは大きく違うことが分かりました。

今回お世話になった赤鹿建設の皆様に大変感謝しています。また、インターンシップなど、現場に行くような機会があれば、もっと現場のことを理解し、自分の知識、力にしたいと思います。

2016 年度サマーインターンシップ

【実施報告書】

学校法人　誠和学院

日本工科大学校

平成28年度　西部地域　建築サマーインターンシップ計画

		午前	午後
8月22日	月	開講式	アーバンホテル三木新築工事作業所
			・内装工事・電気給排水設備工事研修
8月23日	火	中田ビル新築工事	中田ビル新築工事
		・生コン・型枠・鉄筋工事研修	・生コン・型枠・鉄筋工事研修
8月24日	水	アーバンホテル三木新築工事作業所	アーバンホテル三木新築工事作業所
		・内装工事・電気給排水設備工事研修	・内装工事・電気給排水設備工事研修
8月25日	木	加西認定こども園建設工事	防災化学技術研究所（兵庫耐震工学研究センター）
		・鉄骨工事研修	E－ディフェンス見学
8月26日	金	アーバンホテル三木新築工事作業所	アーバンホテル三木新築工事作業所
		・内装工事・電気給排水設備工事研修	・内装工事・電気給排水設備工事研修
8月27日	土	アーバンホテル三木新築工事作業所	アーバンホテル三木新築工事作業所
		・内装工事・電気給排水設備工事研修	安全大会
8月29日	月	中田ビル新築工事	閉講式
		・生コン・型枠・鉄筋工事研修	

作業所所在地	アーバンホテル三木新築工事	三木市末広3丁目115-6
	中田ビル新築工事	加古川市平岡町新在家272-8
	加西認定こども園建設工事	加西市中野町11-1
見学会場所在地	兵庫耐震工学研究センター	三木市志染町三津田西亀屋1501-21

開講式

兵庫県建設業協会　加印支部　新井支部長
挨拶

受入企業　　前川建設㈱
代表取締役社長　前川　様　挨拶

前川建設㈱　実習現場所長　多鹿　様
挨拶

日本工科大学校　　中農　理事長　様
挨拶

龍野北高等学校　　〇〇様　挨拶

宣誓　日本工科大学校　佐々木　君

鉄筋工事

配筋状況の説明　見学

鉄筋の圧接体験

コンクリート工事

受入れ検査の説明

コンクリート打設体験

左官工事

材料の練り混ぜ

壁塗体験

タイル工事

タイル張り体験

タイルの引張試験

鉄骨工事

ボルト取り付け

ボルトの締め付け

E-ディフェンス

施設説明

施設見学

軽量鉄骨工事

軽量鉄骨切断

スタットの建込作業

設備工事

設備配管の組立

水圧テスト

電気工事

配線図の説明

配線組立

安全大会

全員で指差呼称

監督さん、職人さんとの懇親会

墨出し

レベルにて高さ出し

施工図の見方説明

閉講式

兵庫県建設業協会　姫路支副部長　三木　様

前川建設㈱　代表取締役社長　前川様

兵庫工業高等学校　〇〇校長

相生学院　〇〇校長

日本工科大学校
中農　理事長

前川建設㈱
多鹿　所長

実習生全員に修了証書が授与されました。

お礼の言葉

参加者全員で記念撮影

かみかわ木造インターンシップ全日程の時間割

■ ９月22日（木）
(8：30)　（日本工科大学校　出発）
9：15　開講式会場着＆会場清掃・設営
9：30　受　付
10：00　開講式（粟賀町公民館）
10：30　講義　「町の紹介」
11：00　町内見学（神崎小学校）
12：00　昼　食（粟賀町公民館）
13：00　プレカット工場見学
15：00　休　憩
17：00　１日目終了　グリーンエコー笠形へ　レポート作成
18：00　夕　飯。勉強会
18：30～20：00　入浴・洗濯
22：00　就　寝　・・・・・グリーンエコー笠形

■ ９月23日（金）
6：30　起床・ラジオ体操（**広場**）・**朝食**（７：００～）
7：30　グリーンエコー笠形　出発
8：00　実習「粟賀の驛及び銀の馬車交流館」・・・**指導員（神崎分会）**
10：00　休　憩　（各作業場）
12：00　昼　食　（粟賀町公民館）
13：00　実習「粟賀の驛及び銀の馬車交流館」・・・**指導員（神崎分会）**
15：00　休　憩　（各作業場）
17：00　２日目終了　グリーンエコー笠形へ　レポート作成後　入浴
18：00　夕　飯
18：30～20：00　入浴・洗濯
22：00　就　寝　・・・・・グリーンエコー笠形

■ ９月24日（土）
6：30　起床・ラジオ体操（**広場**）・**朝食**（７：００～）
7：30　グリーンエコー笠形　出発
8：00　実習「粟賀の驛及び銀の馬車交流館」・・・**指導員（神崎分会）**
10：00　休　憩　（各作業場）
12：00　昼　食　(粟賀町公民館)
13：00　実習「粟賀の驛及び銀の馬車交流館」　・・・**指導員（神崎分会）**
15：00　休　憩（各作業場）
17：00　３日目終了　グリーンエコー笠形　レポート作成
18：00～20：30　地域交流会（夕食）終了後後片付け
20：30～22：00　入浴・洗濯
22：00　就　寝　・・・・・グリーンエコー笠形

■ ９月25日（日）
6：30　起床・ラジオ体操（**広場**）・**朝食**（７：００～）
7：30　グリーンエコー笠形　出発
8：00　実習「粟賀の驛及び銀の馬車交流館改修工事」・・・**指導員（神崎分会）**
10：00　休　憩（各作業場）
12：00　昼　食（粟賀町公民館）
13：00　実習「粟賀の驛及び銀の馬車交流館改修工事」・・・**指導員（神崎分会）**
15：00　休　憩　・片付け、閉講式準備
16：00　閉講式(粟賀町公民館)…**杉板修了証書の授与、お礼（学生２名）**
16：30　後片付け
17：00　全日程終了

◆かみかわインターンシップ風景

プレカット工場見学

栗賀の驛外壁張

井戸屋根組立

格子取り付け

現場全景

左官下地ラス張

左官下地工事

材料塗装

地域交流会

木材加工

2016年度　後期インターンシップ現場実習　実施報告

1　受入企業　　株式会社　ハマダ

受入現場　　(仮称)特別養護老人ホーム美郷宛新築工事

2 参加学生

建築工学科　1年　　6名

3 担当講師

建築工学科講師　高原一岐

4 実施期間

2016年10月13日～2017年2月2日

月　日	実習内容	実習場所
10月６日	開講式	姫路建設会館
10月13日	型枠工事（脱型）	建設現場内
10月20日	鉄筋工事	建設現場内
10月27日	鉄骨　建て方	建設現場内
11月10日	軽鉄工事	建設現場内
11月17日	他現場見学	建設現場内
11月24日	レベル・型枠目地打ち	建設現場内
12月1日	左官工事	建設現場内
12月8日	ガラス工事　タイル工事	建築現場内
12月15日	タイル工事	建築現場内
12月22日	保護コンクリート目地入れ	建設現場内
1月5日	防水工事	建設現場内
1月12日	仮設工事	建設現場内
1月19日	土木工事（丁張）	姫路建設会館
1月26日	木工事	姫路建設会館
2月2日	まとめ	姫路建設会館

◆後期インターンシップ風景

２．アンケートの目的

この度のアンケート調査は、汎用的な「専修学校版デュアル教育」ガイドライン作成に向けて導き出すために、現時点の企業内実習（インターンシップ）について学生と企業にアンケート調査を実施し、アンケートの結果を来年度以降の事業展開の参考とすることを目的としたものである。

【対象者】

①平成 28 年度企業内実習に参加した日本工科大学校の環境建設工学科、建築職人マイスター専攻科の学生（延べ 63 名）

②受入れ先企業（４社）

【対象分野】

＜学 生＞

①施 工：23 名

②マイスター：20 名

③設　計：20 名

＜企 業＞

・受入れ先企業４社

【アンケート手法】

・学校から企業内実習に参加した学生と受入れ先経験がある企業に要請

【実施期間】

平成 29 年 1 月 25 日～２月 16 日

【コメントする主な項目】

学　生	企　業
・インターンシップのへの関心理由 ・インターンシップ参加の不安な点 ・インターンシップの体験から得られたもの ・インターンシップについての保護者の理解 ・インターンシップに参加してどう感じたか	・インターンシップの受入れ頻度 ・インターンシップの受入れ目的 ・インターンシップに参加する学生に求めること ・インターンシップ受入れの課題 ・インターンシップの安全対策 ・インターンシップ受入れの配慮 ・インターンシップの継続性の考え

３．企業内実習（インターンシップ）アンケート【学生】

＜学生用アンケート用紙＞

平成28年度「専修学校版デュアル教育推進」事業
「建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業」におけるアンケートのご協力をお願いいたします。
あなたが参加したインターンシップについて回答願います。
この度のアンケートの内容につきましては、最終的には文部科学省へ成果報告書としてまとめ、提出いたします。

1．以下ご記入ください。

学校名			
学科名		年生	年生
お名前			
参加したインターンシップ名			

※報告書には個人名の記載はしません。

2．インターンシップへの関心はございましたか。次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 関心があった
□ 2 あまり関心が無かった
□ 3 関心がなかった
□ 4 その他（ ）

→ 2－1．インターンシップに「関心があった」理由を次の中から該当するもの全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 就職に有利になると思ったから
□ 2 学校では体験できないことがあると思ったから
□ 3 興味・関心があったから
□ 4 将来役立つと思ったから
□ 5 技術を目の前で見れる貴重な体験と思ったから
□ 6 知識力（スキル）をつけたいと思ったから
□ 7 学校の授業だから
□ 8 先生（学校）から進められたから
□ 9 なんとなく
□ 10 その他（ ）

3．インターンシップへの不安はありましたか。

□ 1 あった
□ 2 無かった
□ 3 その他（ ）

→ 3-1．上記5の「1 あった」と回答の方にお聞きします。
どのようなことがそう思われましたか次の中から該当するものを全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 学校内の勉強だけでよいと思ったから
□ 2 社会人（知らない大人）との接し方が分からないから
□ 3 単位が取れるか不安だったから
□ 4 何を勉強すればよいか分からないから
□ 5 恐いと思ったから
□ 6 めんどくさいと思ったから
□ 7 その他（ ）

→ 3-2．上記4「無かった」と回答した方にお聞きします。
なぜ不安が無かったのか次の中から該当するもの全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 学校のカリキュラムに入っていたから
□ 2 参加すれば就職に有利になると思っていたから
□ 3 事前に先生、もしくは学校から話があったから
□ 4 自分が知っている会社だったから
□ 5 授業だから（単位が取れるから）と思っていたから
□ 6 みんなが受けるから
□ 7 その他（ ）

4．あなたが今年度受講した（受講している）インターンシップを体験したことにより、得られたことは何ですか。
次の中から該当するものを全て選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 知らないことの多さ
□ 2 現場での実践的な技能の習得
□ 3 現場での実践的な知識の習得
□ 4 今後、身に付けるべき知識・技術の明確化
□ 5 将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得
□ 6 業界のマナーや心構えの習得
□ 7 将来の現場に向き合うことができる力
□ 8 社会人としての最低限のマナー（例：あいさつ、遅刻 等）
□ 9 人との繋がりの大切さ（コミュニケーション）
□ 10 その他（ ）

5. 現在のインターンシップの実施時期についてお聞きします。現在の実施時期で良いと思われますか。
次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□　1　現在の実施時期で良い
□　2　他の時期が良い

5-1. 上記6で「2　他の時期が良い」と回答した方にお聞きします。
いつ頃が望ましいですか。次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。また、その理由も教えてください。

□　1　通年
□　2　1～2ヶ月
□　3　季節ごとの1～2週間
□　4　夏休み
□　5　冬休み
□　6　春休み

6. インターンシップに参加することについて、保護者は理解していますか。
次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□　1　よく理解している
□　2　理解している
□　3　あまり理解していない
□　4　全く理解していない

7. インターンシップに参加たことについてお聞きします。インターンシップに参加して良かったですか。

□　1　すごく良かった
□　2　良かった
□　3　わからない
□　4　良くなかった
□　5　その他（　　）

7-1. 上記8で「3　わからない」、「4　良くなかった」と回答した方にお聞きします。
次の中から該当するものを全て選んで☑してください。またその理由も具体的に教えてください。

□　1　厳しかった
□　2　現場の人とコミュニケーション（人間関係）がとれなかった
□　3　仕事がきつかった
□　4　与えられた仕事ができなかった
□　5　その他（　　）

8. インターンシップはどのような内容が行われていましたか。
次の中から該当するものを全て選んで☑してください。他にございましたら、具体的に教えてください。

□　1　事前に安全面や内容についてしっかりと説明を受けた
□　2　事前準備の期間が十分与えられていた
□　3　実施期間中では企業側の指導がしっかりと行われた
□　4　実習・演習に対しての現場の安全配慮がしっかりと行われていた
□　5　コミュニケーション（人間関係）等の配慮がされていた
□　6　その他（　　）

9. インターンシップに参加したことで、自分の成長に役立ったのはどのような体験ですか。具体的に教えてください。

記入欄	

10. インターンシップに関して、学校に期待することについて教えてください。

記入欄	

11. あなたが今年度受講した（受講している）インターンシップを体験したことを踏まえ、
より充実させるためのご提案がございましたらお願いします。

記入欄	

ご協力ありがとうございました

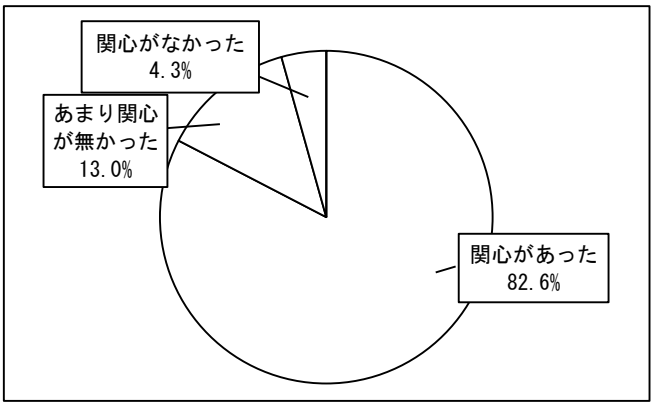
（１）施工アンケート集計

※集計表はアンケートの問いの順番とは異なり、回答数が多いものから順に並べています。

① インターンシップへの関心

n=23

	回答数	割合(%)
関心があった	19	82.6%
あまり関心が無かった	3	13.0%
関心がなかった	1	4.3%
その他	0	0.0%



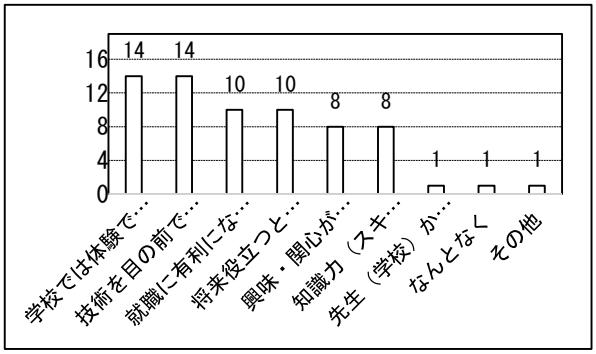
② インターンシップに「関心があった」理由

（複数回答可）

n=23

	回答数	割合(%)
学校では体験できないことがあると思ったから	14	60.9%
技術を目の前で見れる貴重な体験と思ったから	14	60.9%
就職に有利になると思ったから	10	43.5%
将来役立つと思ったから	10	43.5%
興味・関心があったから	8	34.8%
知識力(スキル)をつけたいと思ったから	8	34.8%
先生(学校)から進められたから	1	4.3%
なんとなく	1	4.3%
その他	1	4.3%
学校の授業だから	0	0.0%

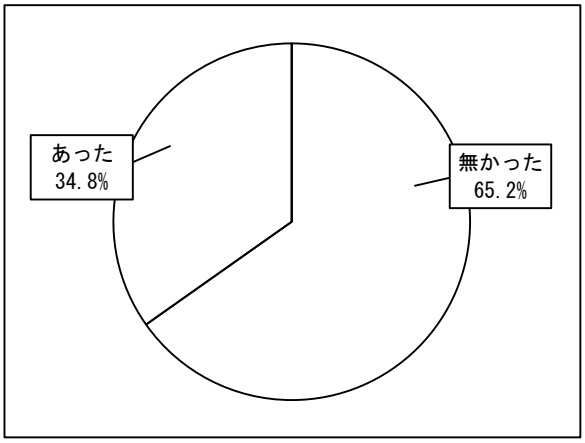
その他：設計か施工で進路を悩んでいたため



③ インターンシップへの不安

n=23

	回答数	割合(%)
無かった	15	65.2%
あった	8	34.8%
その他	0	0.0%

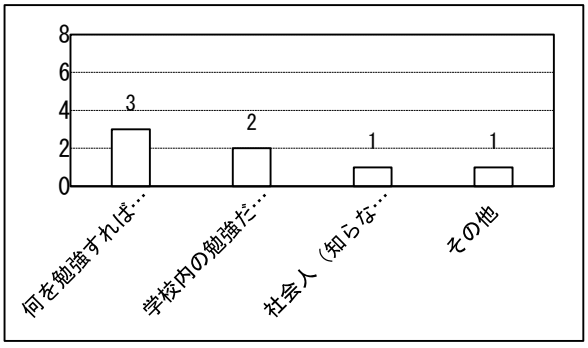


③-１ 不安があった理由（複数回答可）

n=8

	回答数	割合(%)
何を勉強すればよいか分からないから	3	37.5%
学校内の勉強だけでよいと思ったから	2	25.0%
社会人(知らない大人)との接し方が分からないから	1	12.5%
その他	1	12.5%
単位が取れるか不安だったから	0	0.0%
恐いと思ったから	0	0.0%
めんどくさいと思ったから	0	0.0%

その他：朝起きられるか心配だった

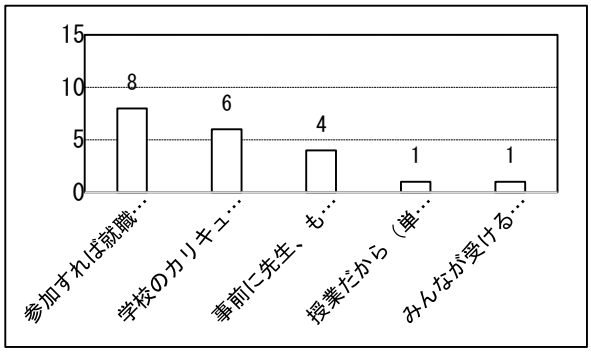


③-２ 不安が無かった理由

（複数回答可）

n=15

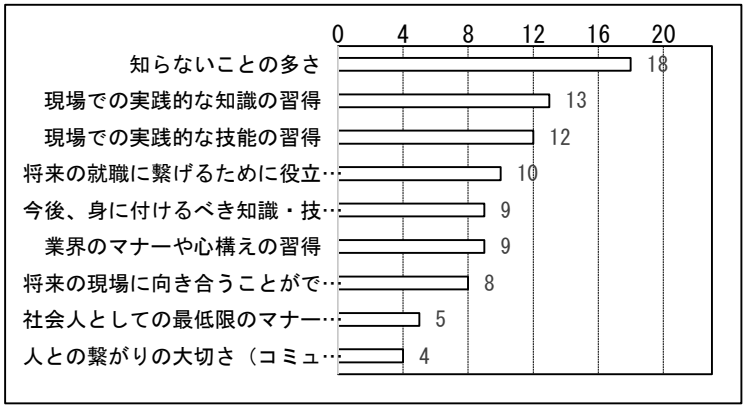
	回答数	割合(%)
参加すれば就職に有利になると思っていたから	8	53.3%
学校のカリキュラムに入っていたから	6	40.0%
事前に先生、もしくは学校から話があったから	4	26.7%
授業だから（単位が取れるから）と思っていたから	1	6.7%
みんなが受けるから	1	6.7%
自分が知っている会社だったから	0	0.0%
その他	0	0.0%



④ 体験して得られたこと（複数回答可）

n=23

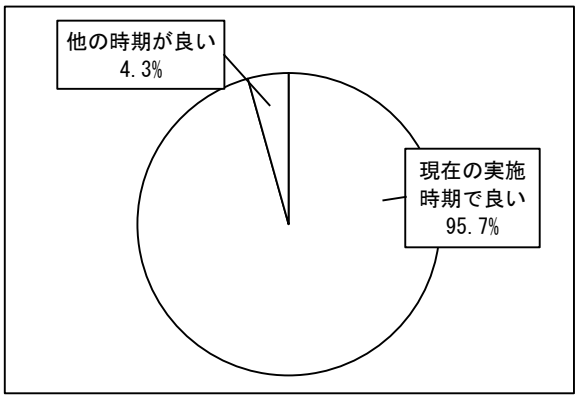
	回答数	割合(%)
知らないことの多さ	18	78.3%
現場での実践的な知識の習得	13	56.5%
現場での実践的な技能の習得	12	52.2%
将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得	10	43.5%
今後、身に付けるべき知識・技術の明確化	9	39.1%
業界のマナーや心構えの習得	9	39.1%
将来の現場に向き合うことができる力	8	34.8%
社会人としての最低限のマナー（例：あいさつ、遅刻 等）	5	21.7%
人との繋がりの大切さ（コミュニケーション）	4	17.4%
その他	0	0.0%



⑤ インターシップの実施時期

n=23

	回答数	割合(%)
現在の実施時期で良い	22	95.7%
他の時期が良い	1	4.3%



⑤-１ いつ頃が望ましいか（複数回答可）

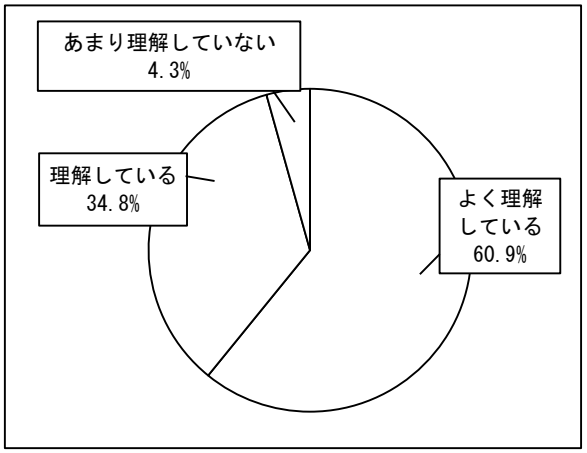
n=1

	回答数	割合(%)
季節ごとの1～2週間	1	100.0%
通年	0	0.0%
1～2ヶ月	0	0.0%
夏休み	0	0.0%
冬休み	0	0.0%
春休み	0	0.0%

⑥ 保護者の理解

n=23

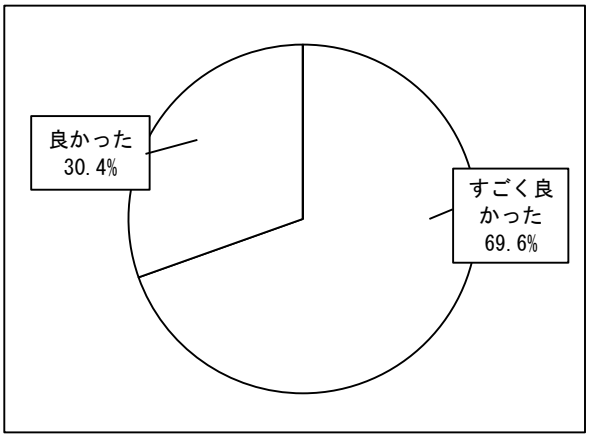
	回答数	割合(%)
よく理解している	14	60.9%
理解している	8	34.8%
あまり理解していない	1	4.3%
全く理解していない	0	0.0%



⑦ 参加した感想

n=23

	回答数	割合(%)
すごく良かった	16	69.6%
良かった	7	30.4%
わからない	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

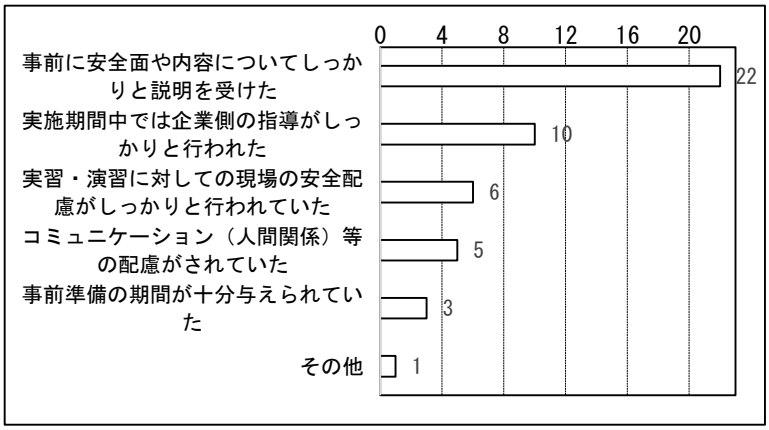


⑧ インターンシップの内容について（複数回答可）

n=23

	回答数	割合(%)
事前に安全面や内容についてしっかりと説明を受けた	22	95.7%
実施期間中では企業側の指導がしっかりと行われた	10	43.5%
実習・演習に対しての現場の安全配慮がしっかりと行われていた	6	26.1%
コミュニケーション(人間関係)等の配慮がされていた	5	21.7%
事前準備の期間が十分与えられていた	3	13.0%
その他	1	4.3%

その他：資料の配布が多く良かった。



⑨ インターンシップに参加して自分の成長に役立ったこと（記述）

・現場での施工者との会話の仕方や造形の技術が身に付いた。
・図面からの読み取り、現場の見学など。
・現場を見ることで資格試験の時に理解しやすかった。
・実際に市役所などのホームページを見ながら規定に合っているか確認する作業など、知らない事が多くあった経験ができたこと。
・職人さんたちと直接話をすることができたこと。
・現場の人とのコミュニケーション、仕事内容、安全管理など。
・色々な職業があるのが分かったこと。
・左官の仕事が体験できたこと。
・学校の座学だけでは分からないこと、聞いているだけでは分からないことがインターンシップで実際に体験することで分かるようになったこと。
・学校の授業だけでは分かりにくかったことも、実際に見ること体験することで分かるようになった。
・職人の人たちと一緒に作業すること。
・施工管理の試験の役に立ったと思うこと。
・社会人としてのマナー、徹底した安全配慮、現場がどのように動いているのか知ることができたこと。
・実際の仕事を近くで体験できたこと。
・全く知らなかった造園の仕事内容が分かったこと。
・造園施工管理士、建築施工管理士、ビオトープ施工管理士、土木施工管理士などの試験に役立ったこと。

⑩ インターンシップにおいて学校に期待すること（記述）

・インターンシップで習ったことを活かしたい。
・色々な体験ができることを期待する。
・木造や住宅に関するインターンシップも増やしてほしい。

・もっと学校の授業で現場見学に行ったりするとよいと思う。
・今後も継続し続けてほしい。
・色々なインターンシップがあるところ。
・公共施設の現場もできれば体験したい。
・インターンシップを辞めないでほしい。
・インターンシップの内容を最初に全て説明して計画を立てられるようにしてほしい。

⑪ インターンシップの体験後気づいた点や提案等（記述）
・今のままでよい。
・サマーインターンシップの期間がもう少し長くしてもらいたい。
・十分に充実していたと感じている。
・時間をもっと多く、内容を厚くしてほしい。
・資格に役立つ現場も見てみたい。
・もう少し長期のインターンシップもあった方が良いと思う。

【アンケート結果】

＜インターンシップのへの関心理由＞

「学校では体験できないことがあると思ったから」60.9%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」60.9%、「将来役立つと思ったから」43.5%が主な回答であった。

＜インターンシップ参加の不安な点＞

「企何を勉強すればよいか分からない」37.5%、「学校内の勉強だけでよいと思った」25.0%、「社会人（知らない大人）との接し方が分からない」12.5%が主な回答であった。

＜インターンシップの体験から得られたもの＞

「知らないことの多さ」78.3%、「現場での実践的な知識の習得」56.5%、「現場での実践的な技能の習得」52.2%、「将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得」43.5%が主な回答であった。

＜インターンシップについての保護者の理解＞

「よく理解している」60.9%、「理解している」34.8%と多くの保護者から理解を得られているとの回答であった。

＜インターンシップに参加してどう感じたか＞

「すごく良かった」69.6%、「良かった」30.4%と全員から良かったとの回答が得られた。

【まとめ】

インターンシップを通して生の現場の雰囲気を知ること、仕事には色々なものが携わっており、

一つの知識のみでは成り立たないという良い体験ができたと考える。

参加する前は感心がなかった学生も、最終的には参加して良かったと回答していることでもインターンシップは少なくとも学生にとっては、「何をするべきか」の道標となる取組みの一つと考える。

また、自分の成長に役立ったことにも明記されているように、インターンシップを通して参加した学生は、業界に携わる者としての自覚が芽生え始めている。

今後もこの取組みを継続しつつ、より充実な内容としていくことが必要と再認識させられる調査内容であった。

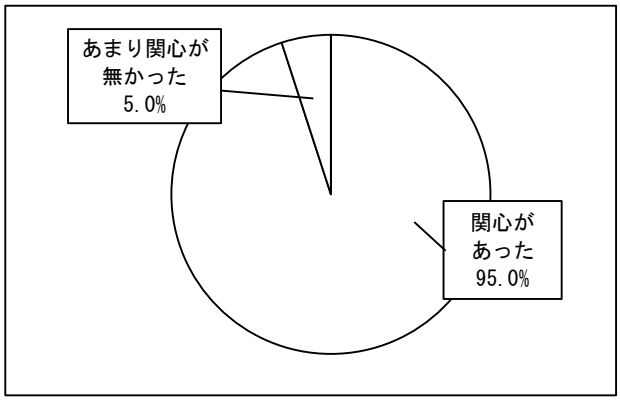
（２）マイスターアンケート集計

※集計表はアンケートの問いの順番とは異なり、回答数が多いものから順に並べています。

① インターンシップへの関心

n=20

	回答数	割合(%)
関心があった	19	95.0%
あまり関心が無かった	1	5.0%
関心がなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

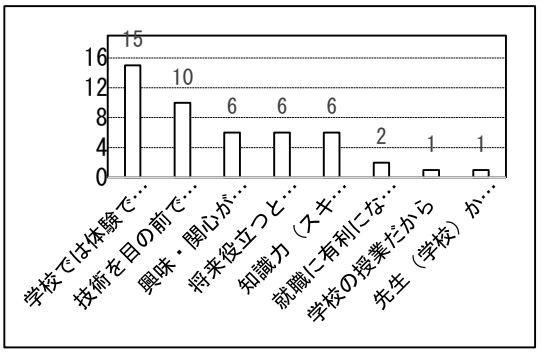


② インターンシップに「関心があった」理由

（複数回答可）

n=20

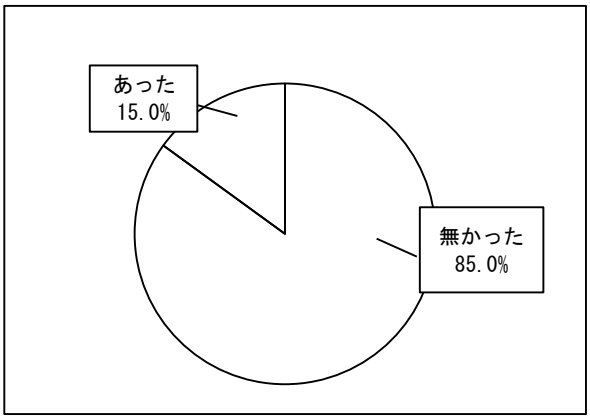
	回答数	割合(%)
学校では体験できないことがあると思ったから	15	75.0%
技術を目の前で見れる貴重な体験と思ったから	10	50.0%
興味・関心があったから	6	30.0%
将来役立つと思ったから	6	30.0%
知識力(スキル)をつけたいと思ったから	6	30.0%
就職に有利になると思ったから	2	10.0%
学校の授業だから	1	5.0%
先生(学校)から進められたから	1	5.0%
なんとなく	0	0.0%
その他	0	0.0%



③ インターンシップへの不安

n=20

	回答数	割合(%)
無かった	17	85.0%
あった	3	15.0%
その他	0	0.0%

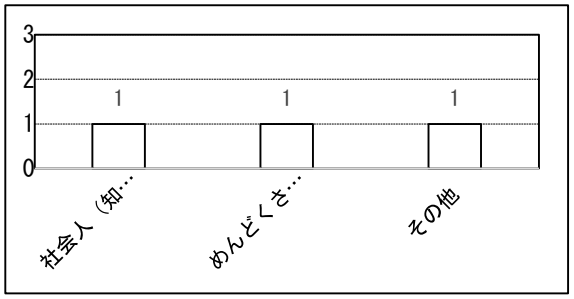


③-１ 不安があった理由（複数回答可）

n=3

	回答数	割合(%)
社会人(知らない大人)との接し方が分からないから	1	33.3%
めんどくさいと思ったから	1	33.3%
その他	1	33.3%
学校内の勉強だけでよいと思ったから	0	0.0%
単位が取れるか不安だったから	0	0.0%
何を勉強すればよいか分からないから	0	0.0%
恐いと思ったから	0	0.0%

その他：人間関係

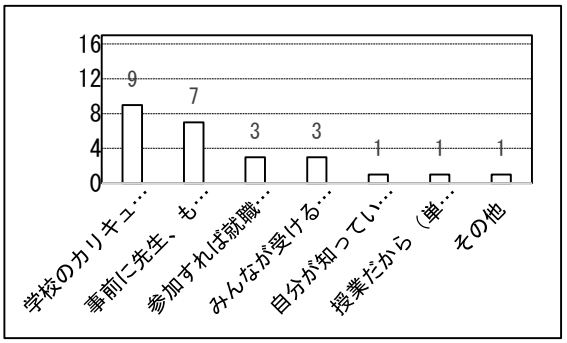


③-２ 不安が無かった理由（複数回答可）

n=17

	回答数	割合(%)
学校のカリキュラムに入っていたから	9	52.9%
事前に先生、もしくは学校から話があったから	7	41.2%
参加すれば就職に有利になると思っていたから	3	17.6%
みんなが受けるから	3	17.6%
自分が知っている会社だったから	1	5.9%
授業だから(単位が取れるから)と思っていたから	1	5.9%
その他	1	5.9%

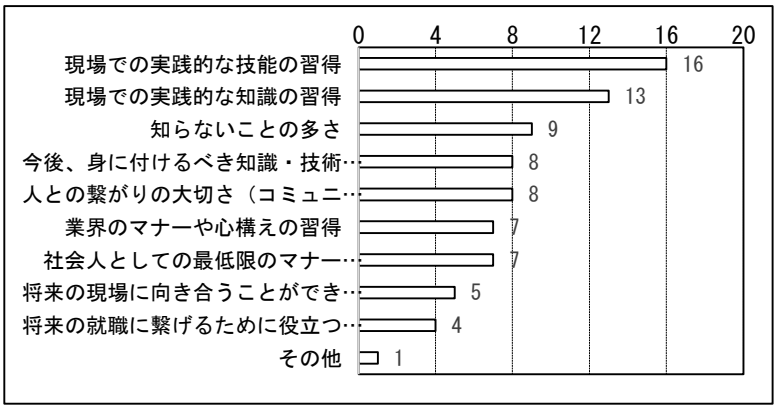
その他：何となく安心感があったから



④ 体験して得られたこと（複数回答可）

n=20

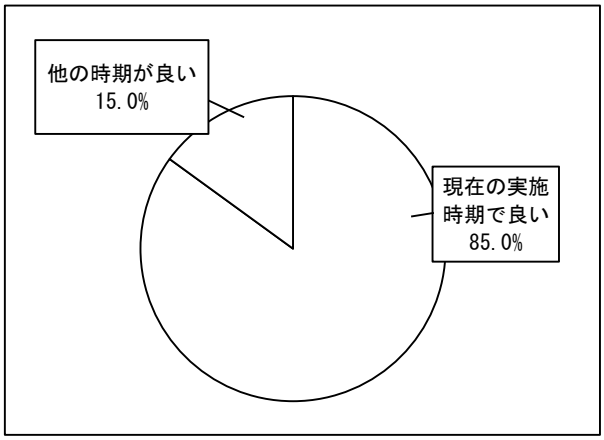
	回答数	割合(%)
現場での実践的な技能の習得	16	80.0%
現場での実践的な知識の習得	13	65.0%
知らないことの多さ	9	45.0%
今後、身に付けるべき知識・技術の明確化	8	40.0%
人との繋がりの大切さ(コミュニケーション)	8	40.0%
業界のマナーや心構えの習得	7	35.0%
社会人としての最低限のマナー（例：あいさつ、遅刻 等）	7	35.0%
将来の現場に向き合うことができる力	5	25.0%
将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得	4	20.0%
その他	1	5.0%



⑤ インターシップの実施時期

n=20

	回答数	割合(%)
現在の実施時期で良い	17	85.0%
他の時期が良い	3	15.0%



⑤-1 いつ頃が望ましいか（複数回答可）

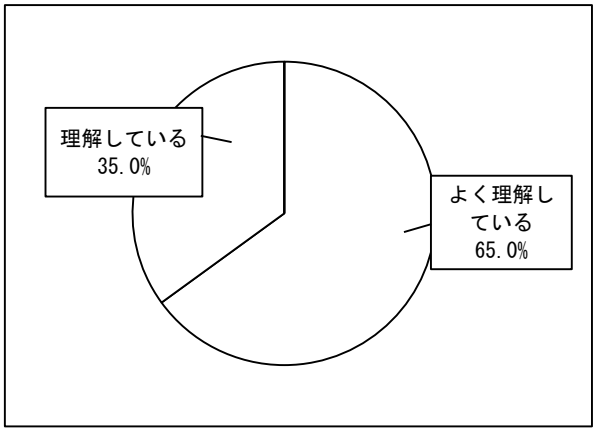
n=3

	回答数	割合(%)
通年	1	33.3%
1～2ヶ月	1	33.3%
夏休み	1	33.3%
季節ごとの1～2週間	0	0.0%
冬休み	0	0.0%
春休み	0	0.0%

⑥ 保護者の理解

n=20

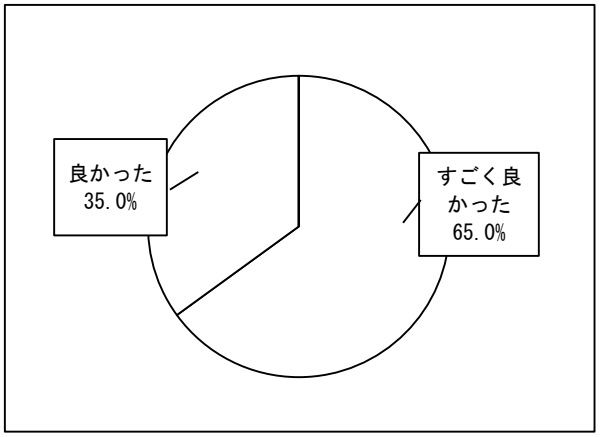
	回答数	割合(%)
よく理解している	13	65.0%
理解している	7	35.0%
あまり理解していない	0	0.0%
全く理解していない	0	0.0%



⑦ 参加した感想

n=20

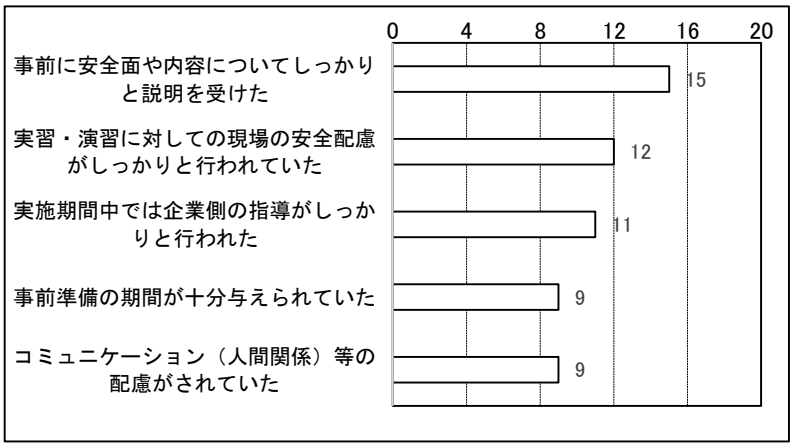
	回答数	割合(%)
すごく良かった	13	65.0%
良かった	7	35.0%
わからない	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%



⑧ インターンシップの内容について（複数回答可）

n=20

	回答数	割合(%)
事前に安全面や内容についてしっかりと説明を受けた	15	75.0%
実習・演習に対しての現場の安全配慮がしっかりと行われていた	12	60.0%
実施期間中では企業側の指導がしっかりと行われた	11	55.0%
事前準備の期間が十分与えられていた	9	45.0%
コミュニケーション（人間関係）等の配慮がされていた	9	45.0%
その他	0	0.0%



⑨ インターンシップに参加して自分の成長に役立ったこと（記述）

・昔のやり方や、現在学んでいる分野とは別の分野のことも体験できたこと。
・現場の体験ができたこと。
・現場での動き方。
・様々な道具の使い方を教えてくれたこと。
・古民家再生：既存のものの良さを残したまま加工していく作業体験ができたこと。
・仕事の難しさを体験できたこと。
・普段学校ではできない事を一から学べることができたこと。
・実際の現場に出たことで職人さんの技術を目の当たりにすることができたこと。
・学校では体験できない現場での作業風景が見られたこと。
・周囲を見て次に何をするべきか、どのように周りを動かすべきかなど。
・現場の人たちとのコミュニケーション。

⑩ インターンシップにおいて学校に期待すること（記述）

・インターンシップの日数を増やしてほしい。
・他の地域でのインターンシップの実施。
・みんなの手を止まらないようにしてほしい。
・食事のこと。
・本校の良さをアピールすること。

⑪ インターンシップの体験後気づいた点や提案等（記述）

・候補先をいくつか出し、自分が一番興味をもったところに行けるようにする。
・宿泊がなく、もう少し手軽に行けるようなものがあれば良い。
・手が止まったり、固まったりすることがあるため、班の中でも学年別の２人ペアを組ませるなどの工夫をしてほしい。
・食事のこと。
・仕事内容の把握。

【アンケート結果】

＜インターンシップのへの関心理由＞

「学校では体験できないことがあると思ったから」75%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」50.0%が主な回答であった。

＜インターンシップ参加の不安な点＞

「社会人（知らない大人）との接し方が分からない」と「めんどくさいと思った」、「人間関係」が各 33.3%の回答であった。

＜インターンシップの体験から得られたもの＞

「現場での実践的な技能の習得」80.0%、「現場での実践的な知識の習得」65.0%、「知らないことの多さ」45.0%が主な回答であった。

＜インターンシップについての保護者の理解＞

「よく理解している」65.0%、「理解している」35.0%との回答であった。参加する学生の保護者からはインターンシップについての理解を得られているという回答であった。

＜インターンシップに参加してどう感じたか＞

「すごく良かった」65.0%、「良かった」35.0%と全員から良かったとの回答が得られた。めんどくさいと思っていた学生からは最終的には良かったと回答していた。

【まとめ】

マイスターのインターンシップにおいては、技術の習得が主な目的の一つでもある。回答にもその傾向が表れている。その中の一つに、職人の技術を目の当たりにすることにより自分の成長に役立ったとある。

一方、企業側が大事にしている社会人としての最低限のマナーやコミュニケーションについては、学生としてはそこに重きを置いていないため、気づいていないという点が見受けられた。

学校の授業だけでは分からないことも、インターンシップを通すことにより、理解できたり気づいたりという得られることは多いと思われる。

今後の取組みにおいては、学生から日数を増やしてほしいとの声もあるため、現状の取組みと並行しながら、長期インターンシップの取組みを検討していく。

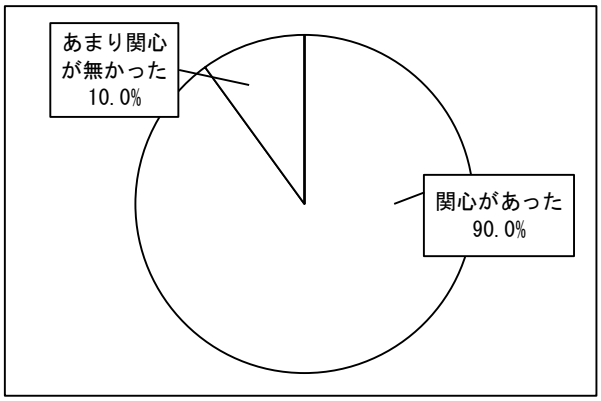
（３）設計アンケート集計

※集計表はアンケートの問いの順番とは異なり、回答数が多いものから順に並べています。

① インターンシップへの関心

n=20

	回答数	割合(%)
関心があった	18	90.0%
あまり関心が無かった	2	10.0%
関心がなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%



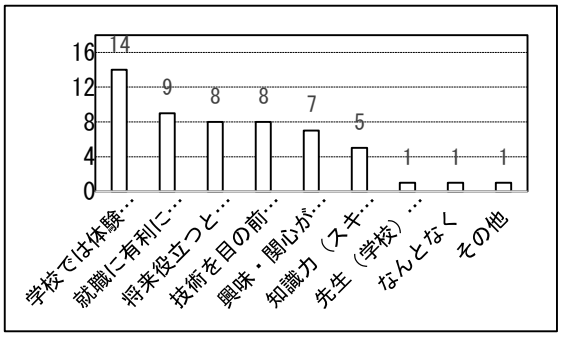
② インターンシップに「関心があった」理由

（複数回答可）

n=20

	回答数	割合(%)
学校では体験できないことがあると思ったから	14	70.0%
就職に有利になると思ったから	9	45.0%
将来役立つと思ったから	8	40.0%
技術を目の前で見れる貴重な体験と思ったから	8	40.0%
興味・関心があったから	7	35.0%
知識力（スキル）をつけたいと思ったから	5	25.0%
先生（学校）から進められたから	1	5.0%
なんとなく	1	5.0%
その他	1	5.0%
学校の授業だから	0	0.0%

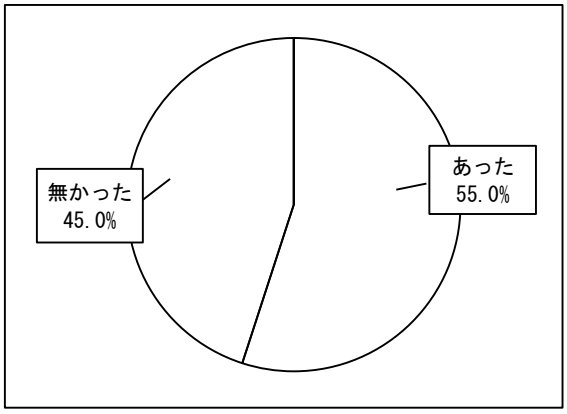
その他：設計か施工で進路を悩んでいたため



③ インターンシップへの不安

n=20

	回答数	割合(%)
あった	11	55.0%
無かった	9	45.0%
その他	0	0.0%

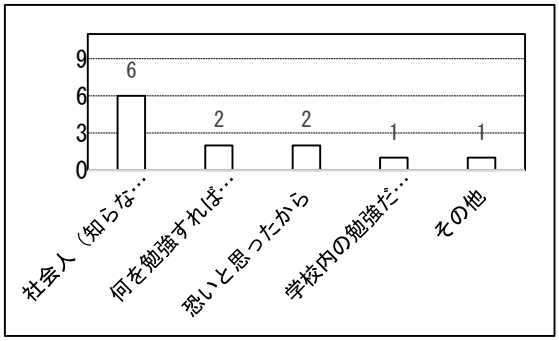


③-１ 不安があった理由（複数回答可）

n=11

	回答数	割合(%)
社会人（知らない大人）との接し方が分からないから	6	54.5%
何を勉強すればよいか分からないから	2	18.2%
恐いと思ったから	2	18.2%
学校内の勉強だけでよいと思ったから	1	9.1%
その他	1	9.1%
単位が取れるか不安だったから	0	0.0%
めんどくさいと思ったから	0	0.0%

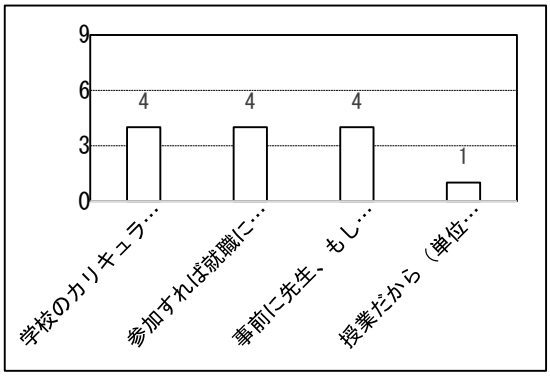
その他：自分の能力で対応できるのかが不安だった



③-２ 不安が無かった理由（複数回答可）

n=9

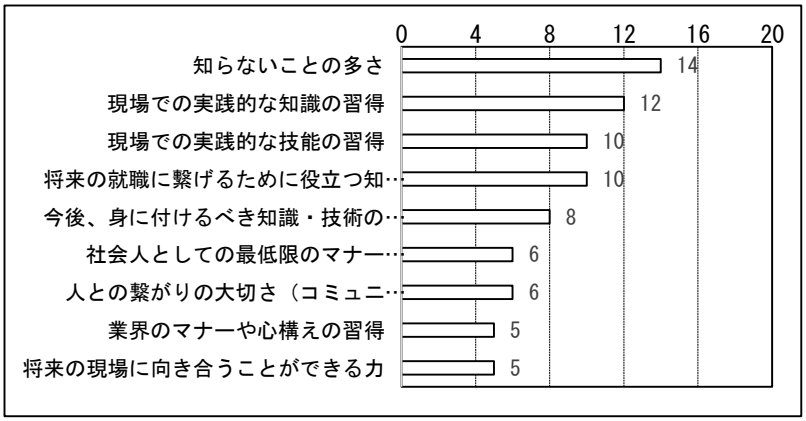
	回答数	割合(%)
学校のカリキュラムに入っていたから	4	44.4%
参加すれば就職に有利になると思っていたから	4	44.4%
事前に先生、もしくは学校から話があったから	4	44.4%
授業だから(単位が取れるから)と思っていたから	1	11.1%
自分が知っている会社だったから	0	0.0%
みんなが受けるから	0	0.0%
その他	0	0.0%



④ 体験して得られたこと（複数回答可）

n=20

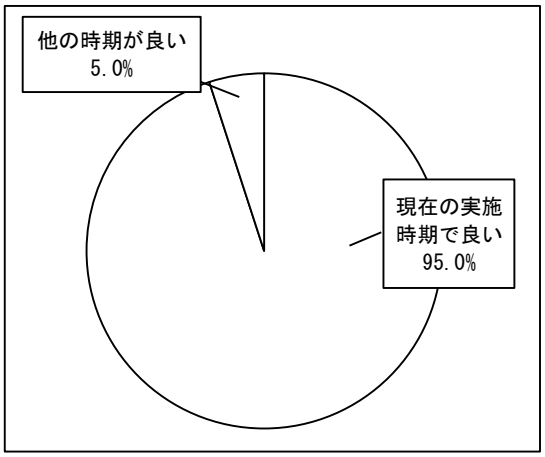
	回答数	割合(%)
知らないことの多さ	14	70.0%
現場での実践的な知識の習得	12	60.0%
現場での実践的な技能の習得	10	50.0%
将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得	10	50.0%
今後、身に付けるべき知識・技術の明確化	8	40.0%
社会人としての最低限のマナー(例:あいさつ、遅刻 等)	6	30.0%
人との繋がりの大切さ(コミュニケーション)	6	30.0%
業界のマナーや心構えの習得	5	25.0%
将来の現場に向き合うことができる力	5	25.0%
その他	0	0.0%



⑤ インターシップの実施時期

n=20

	回答数	割合(%)
現在の実施時期で良い	19	95.0%
他の時期が良い	1	5.0%



⑤-１ いつ頃が望ましいか

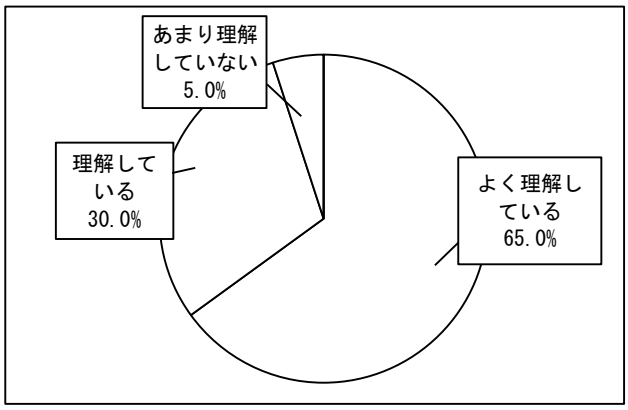
n=1

	回答数	割合(%)
春休み	1	100.0%
通年	0	0.0%
1～2ヶ月	0	0.0%
季節ごとの1～2週間	0	0.0%
夏休み	0	0.0%
冬休み	0	0.0%

⑥ 保護者の理解

n=20

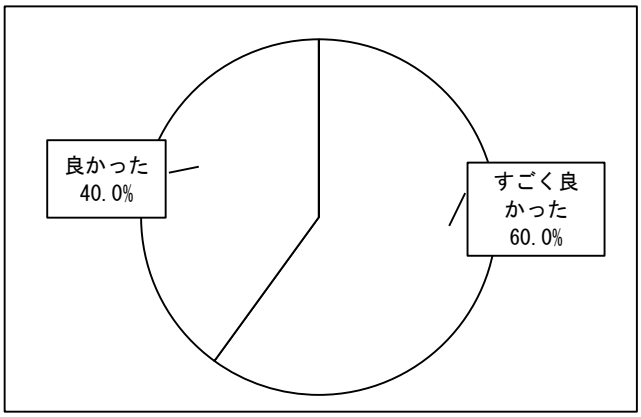
	回答数	割合(%)
よく理解している	13	65.0%
理解している	6	30.0%
あまり理解していない	1	5.0%
全く理解していない	0	0.0%



⑦ 参加した感想

n=20

	回答数	割合(%)
すごく良かった	12	60.0%
良かった	8	40.0%
わからない	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%

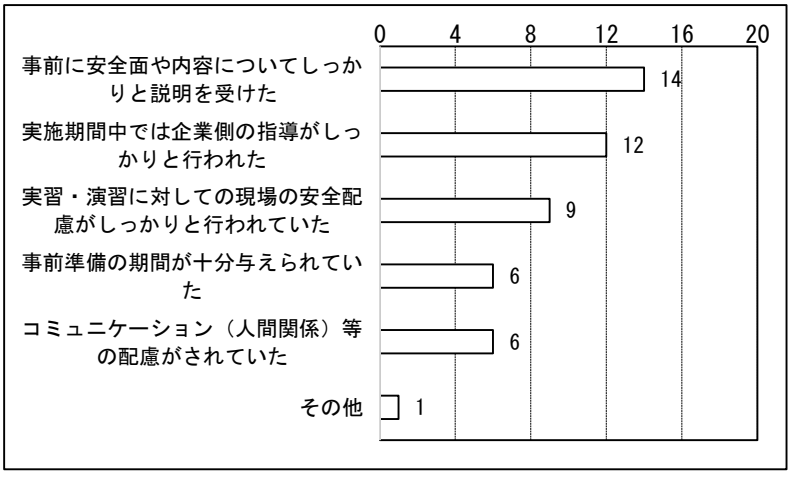


⑧ インターンシップの内容について（複数回答可）

n=20

	回答数	割合(%)
事前に安全面や内容についてしっかりと説明を受けた	14	70.0%
実施期間中では企業側の指導がしっかりと行われた	12	60.0%
実習・演習に対しての現場の安全配慮がしっかりと行われていた	9	45.0%
事前準備の期間が十分与えられていた	6	30.0%
コミュニケーション（人間関係）等の配慮がされていた	6	30.0%
その他	1	5.0%

その他：資料の配布が多く良かった



⑨ インターンシップに参加して自分の成長に役立ったこと（記述）

・授業では教えられていないたくさんの新しい知識が身に付いたこと。
・現場での施工者との会話の仕方や造形の技術が身に付いた。
・設計事務所の仕事の内容を間近で体験できたこと。
・実際の現場の雰囲気を味わえたこと。
・本読み。
・図面からの読み取り、現場の見学など。
・実際の仕事で使う資料の作成ができたこと。
・現場を見ることで資格試験の時に理解しやすかった。
・模型造りやＣＡＤ。
・模型を作る際に、部材の切断面の綺麗な出し方など教えてもらったこと。
・実際に市役所などのホームページを見ながら規定に合っているか確認する作業など、知らない事が多くあった経験ができたこと。
・学校では分からないことを実際に見て学べたこと。
・実際の図面や現場を見ることができることや、授業では分からなかったことが分かるようになったこと。

⑩ インターンシップにおいて学校に期待すること（記述）

・協力。
・インターンシップで習ったことを活かしたい。
・色々な体験ができることを期待する。
・木造や住宅に関するインターンシップも増やしてほしい。
・このままで良いと思う。

⑪ インターンシップの体験後気づいた点や提案等（記述）

・今のままでよい。
・学校側が内容を決めてほしい。
・サマーインターンシップの期間がもう少し長くしてもらいたい。

【アンケート結果】

＜インターンシップのへの関心理由＞

「学校では体験できないことがあると思ったから」70.0%、「就職に有利になると思ったから」45.0%、「将来役立つと思ったから」と「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」各 40.0%が主な回答であった。

＜インターンシップ参加の不安な点＞

「社会人（知らない大人）との接し方が分からない」54.5%、「何を勉強すればよいか分からな

い」と「恐いと思った」各 18.2%が主な回答であった。

＜インターンシップの体験から得られたもの＞

「知らないことの多さ」70.0%、「現場での実践的な知識の習得」60.0%、「現場での実践的な技能の習得」と「将来就職に繋げるために役立つ知識・技能の習得」各 50.0%が主な回答であった。

＜インターンシップについての保護者の理解＞

「よく理解している」65.0%、「理解している」30.0%とほとんどの学生の保護者から理解を得られている。

＜インターンシップに参加してどう感じたか＞

「すごく良かった」60.0%、「良かった」40.0%と全員から良かったとの回答が得られた。

【まとめ】

インターンシップを通して生の現場の雰囲気を知ること、仕事には色々なものがあり、それを体験できたことが良い経験となったと思える。

参加する前は感心がなかった学生も、最終的には参加して良かったと回答していることでもインターンシップは少なくとも学生にとっては、「何をするべきか」の道標となる取組みの一つと考える。

また、自分の成長に役立ったことにも明記されているように、多くの体験をしたことで、好奇心が芽生えてきている。

学生に対して仕事の楽しさを伝えることができていることが励みとなる。今後もより充実した内容を実施し、参加する学生に仕事の楽しさを伝えていくことが必要と再認識させられる調査内容であった。

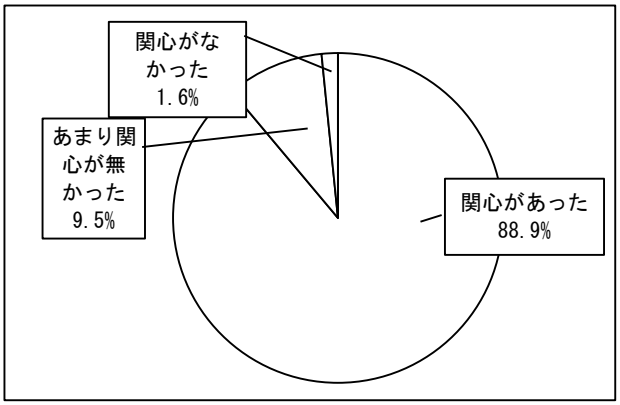
（４）学生アンケート全体

※集計表はアンケートの問いの順番とは異なり、回答数が多いものから順に並べています。

① インターンシップへの関心

n=63

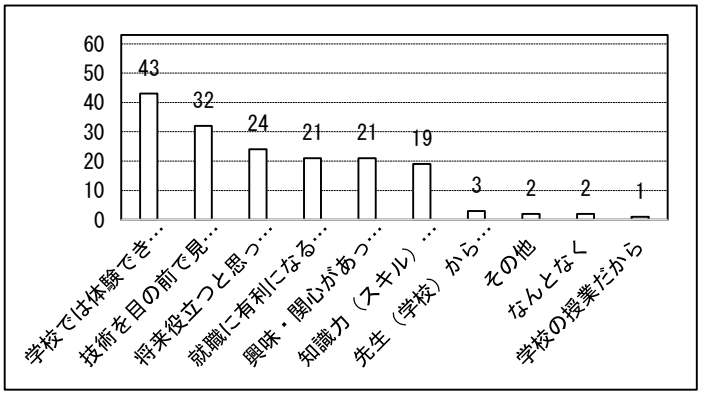
	回答数	割合(%)
関心があった	56	88.9%
あまり関心が無かった	6	9.5%
関心がなかった	1	1.6%
その他	0	0.0%



② インターンシップに「関心があった」理由（複数回答可）

n=63

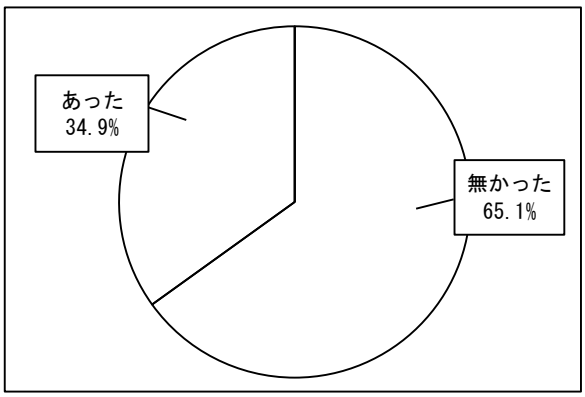
	回答数	割合(%)
学校では体験できないことがあると思ったから	43	68.3%
技術を目の前で見れる貴重な体験と思ったから	32	50.8%
将来役立つと思ったから	24	38.1%
就職に有利になると思ったから	21	33.3%
興味・関心があったから	21	33.3%
知識力(スキル)をつけたいと思ったから	19	30.2%
先生(学校)から進められたから	3	4.8%
その他	2	3.2%
なんとなく	2	3.2%
学校の授業だから	1	1.6%



③ インターンシップへの不安

n=63

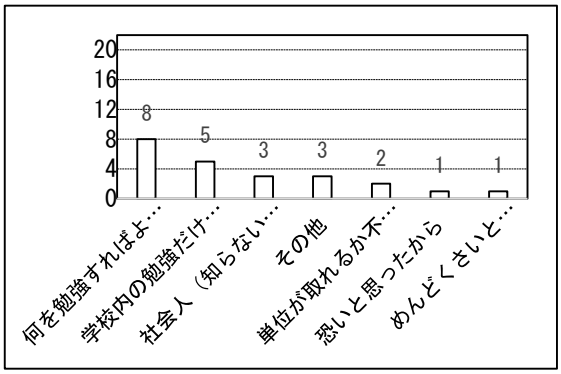
	回答数	割合(%)
無かった	41	65.1%
あった	22	34.9%
その他	0	0.0%



③-１ 不安があった理由（複数回答可）

n=22

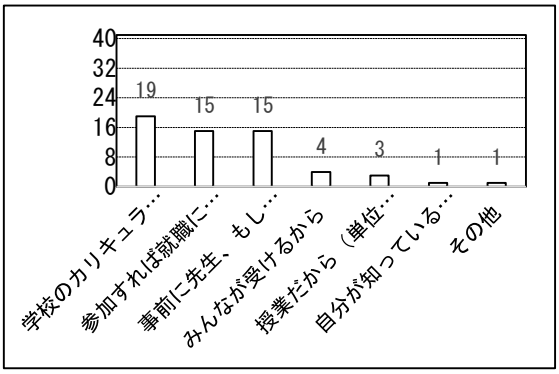
	回答数	割合(%)
何を勉強すればよいか分からないから	8	36.4%
学校内の勉強だけでよいと思ったから	5	22.7%
社会人(知らない大人)との接し方が分からないから	3	13.6%
その他	3	13.6%
単位が取れるか不安だったから	2	9.1%
恐いと思ったから	1	4.5%
めんどくさいと思ったから	1	4.5%



③-２ 不安が無かった理由（複数回答可）

n=41

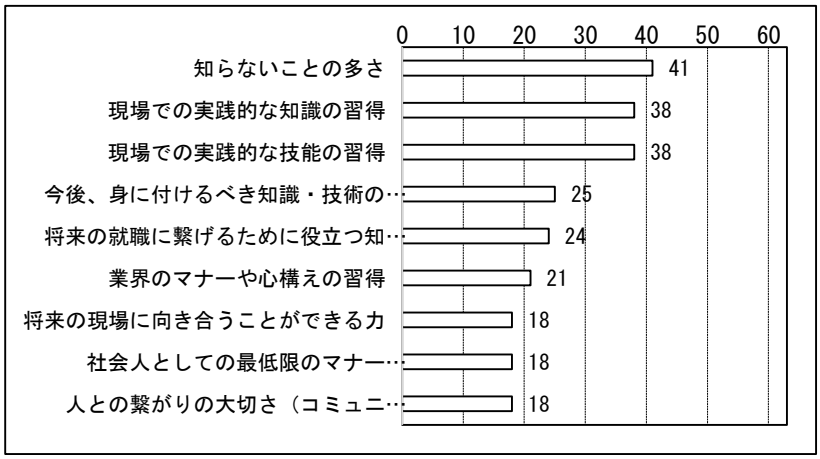
	回答数	割合(%)
学校のカリキュラムに入っていたから	19	46.3%
参加すれば就職に有利になると思っていたから	15	36.6%
事前に先生、もしくは学校から話があったから	15	36.6%
みんなが受けるから	4	9.8%
授業だから(単位が取れるから)と思っていたから	3	7.3%
自分が知っている会社だったから	1	2.4%
その他	1	2.4%



④ 体験して得られたこと（複数回答可）

n=63

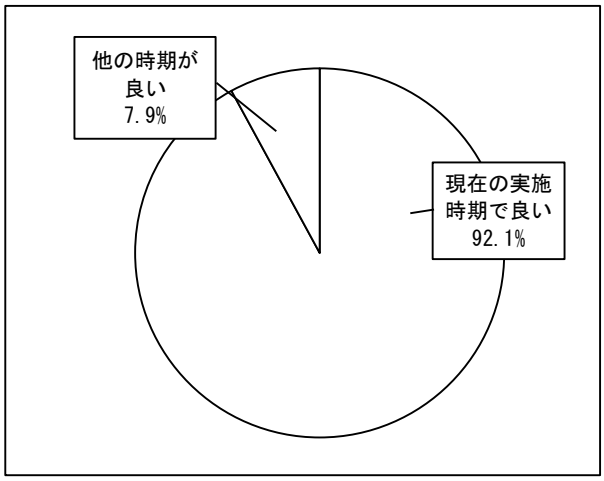
	回答数	割合(%)
知らないことの多さ	41	65.1%
現場での実践的な知識の習得	38	60.3%
現場での実践的な技能の習得	38	60.3%
今後、身に付けるべき知識・技術の明確化	25	39.7%
将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得	24	38.1%
業界のマナーや心構えの習得	21	33.3%
将来の現場に向き合うことができる力	18	28.6%
社会人としての最低限のマナー(例:あいさつ、遅刻 等)	18	28.6%
人との繋がりの大切さ(コミュニケーション)	18	28.6%
その他	1	1.6%



⑤ インターシップの実施時期

n=63

	回答数	割合(%)
現在の実施時期で良い	58	92.1%
他の時期が良い	5	7.9%



⑤-1 いつ頃が望ましいか

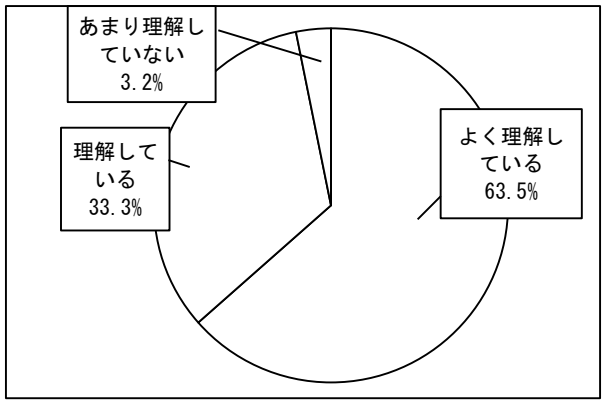
n=5

	回答数	割合(%)
季節ごとの1～2週間	1	20.0%
通年	1	20.0%
1～2ヶ月	1	20.0%
夏休み	1	20.0%
春休み	1	20.0%
冬休み	0	0.0%

⑥ 保護者の理解

n=63

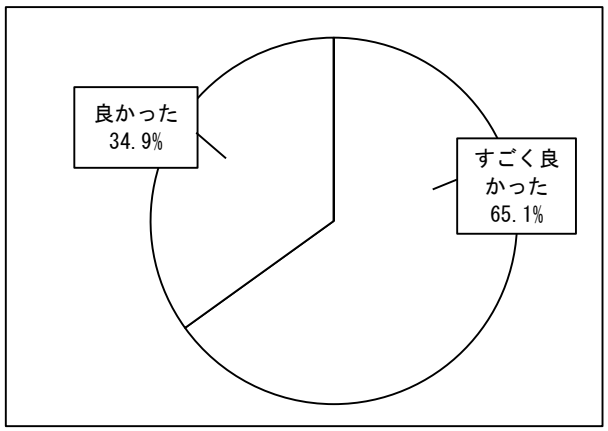
	回答数	割合(%)
よく理解している	40	63.5%
理解している	21	33.3%
あまり理解していない	2	3.2%
全く理解していない	0	0.0%



⑦ 参加した感想

n=63

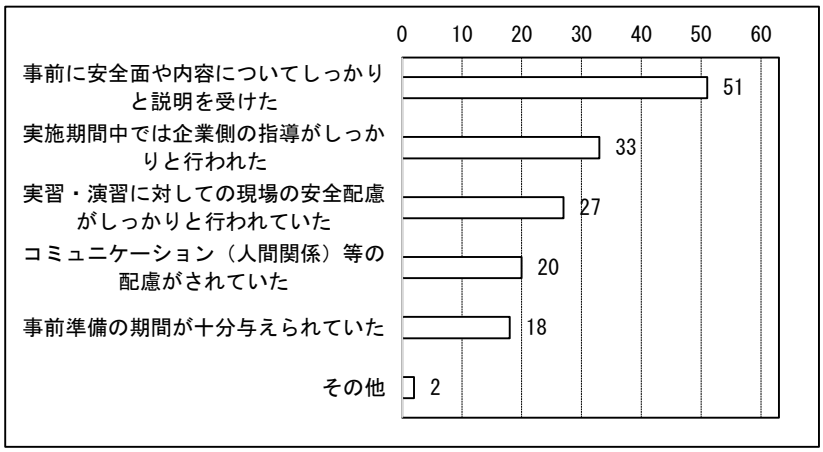
	回答数	割合(%)
すごく良かった	41	65.1%
良かった	22	34.9%
わからない	0	0.0%
良くなかった	0	0.0%
その他	0	0.0%



⑧ インターンシップの内容について（複数回答可）

n=63

	回答数	割合(%)
事前に安全面や内容についてしっかりと説明を受けた	51	81.0%
実施期間中では企業側の指導がしっかりと行われた	33	52.4%
実習・演習に対しての現場の安全配慮がしっかりと行われていた	27	42.9%
コミュニケーション(人間関係)等の配慮がされていた	20	31.7%
事前準備の期間が十分与えられていた	18	28.6%
その他	2	3.2%



【アンケート結果】

＜インターンシップのへの関心理由＞

「学校では体験できないことがあると思ったから」68.3%、「技術を目の前で見られる貴重な体験と思ったから」50.8%、「将来役に立つと思ったから」38.1%が主な回答であった。

＜インターンシップ参加の不安な点＞

「何を勉強すれば分からないから」36.4%、「学校内の勉強だけで良いと思ったから」22.7%が主な回答であった。その他「自分の能力で対応できるのか」などの意見も出ていた。

＜インターンシップの体験から得られたもの＞

「知らないことの多さ」65.1%、「現場での実践的な知識の習得」と「現場での実践的な技能の習得」各 60.3%が主な回答であった。

＜インターンシップについての保護者の理解＞

「よく理解している」63.5%、「理解している」33.3%とほとんどの保護者から理解を得られた上で学生は参加している。

＜インターンシップに参加してどう感じたか＞

「すごく良かった」65.1%、「良かった」34.9%と全員から良かったとの回答が得られた。

【まとめ】

施工、マイスター、設計と全体を通して見ると、学生が参加する前に不安な部分はあるのが見受けられたが、最終的には、参加者全員が学校では学ぶ事のできない多くのものを学んで満足した様子であった。

社会人（知らない大人）とのコミュニケーション（人間関係等）に不安を抱えていた学生も現場の雰囲気に慣れることができた。

また、実際の現場においては学ぶ事が多く、社会人として当たり前のことでも学生にとっては「できない」ということを経験し、自分自身が知らないことが多々あることに気づかされた点は、学生にとっても良い刺激になったと思える。

学生からの声にもあるように、もっとインターンシップの時間数を増やしていくことが必要と思われるが、現在のカリキュラムとの兼ね合いもあり、検証を重ねる必要がある。

ある程度の最低限の資格を有することは必要前提であるが、より即戦力になり得る人材を数多く育成する目的の手段として、現場の雰囲気を知る必要がある。

インターンシップは現場の雰囲気を知る最も良い方法の一つとかんがえる。今後は、企業と学生にとっても有意義となるようなカリキュラム作りが求められている。

（５）各職種と全体の回答表

①インターンシップへの関心

		回答数	割合(%)
関心があった	施工	19	82.6%
	マイスター	19	95.0%
	設計	18	90.0%
	全体	56	88.9%
あまり関心が無かった	施工	3	13.0%
	マイスター	1	5.0%
	設計	2	10.0%
	全体	6	9.5%
関心がなかった	施工	1	4.3%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	1	1.6%
その他	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	0	0.0%

②インターンシップに「関心があった」理由（複数回答可）

		回答数	割合(%)
学校では体験できないことがあると思ったから	施工	14	60.9%
	マイスター	15	75.0%
	設計	14	70.0%
	全体	43	68.3%
技術を目の前で見れる貴重な体験と思ったから	施工	14	60.9%
	マイスター	10	50.0%
	設計	8	40.0%
	全体	32	50.8%
将来役立つと思ったから	施工	10	43.5%
	マイスター	6	30.0%
	設計	8	40.0%
	全体	24	38.1%
就職に有利になると思ったから	施工	10	43.5%
	マイスター	2	10.0%
	設計	9	45.0%
	全体	21	33.3%
興味・関心があったから	施工	8	34.8%
	マイスター	6	30.0%
	設計	7	35.0%
	全体	21	33.3%
知識力（スキル）をつけたいと思ったから	施工	8	34.8%
	マイスター	6	30.0%
	設計	5	25.0%
	全体	19	30.2%
先生（学校）から進められたから	施工	1	4.3%
	マイスター	1	5.0%
	設計	1	5.0%
	全体	3	4.8%
その他	施工	1	4.3%
	マイスター	0	0.0%
	設計	1	5.0%
	全体	2	3.2%
なんとなく	施工	1	4.3%
	マイスター	0	0.0%
	設計	1	5.0%
	全体	2	3.2%
学校の授業だから	施工	0	0.0%
	マイスター	1	5.0%
	設計	0	0.0%
	全体	1	1.6%

③インターンシップへの不安（複数回答可）

		回答数	割合(%)
無かった	施工	15	65.2%
	マイスター	17	85.0%
	設計	9	45.0%
	全体	41	65.1%
あった	施工	8	34.8%
	マイスター	3	15.0%
	設計	11	55.0%
	全体	22	34.9%
その他	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	0	0.0%

③-１不安があった理由（複数回答可）

		回答数	割合(%)
社会人（知らない大人）との接し方が分からないから	施工	1	12.5%
	マイスター	1	33.3%
	設計	6	54.5%
	全体	8	36.4%
何を勉強すればよいか分からないから	施工	3	37.5%
	マイスター	0	0.0%
	設計	2	18.2%
	全体	5	22.7%
学校内の勉強だけでよいと思ったから	施工	2	25.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	1	9.1%
	全体	3	13.6%
その他	施工	1	12.5%
	マイスター	1	33.3%
	設計	1	9.1%
	全体	3	13.6%
単位が取れるか不安だったから	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	2	9.1%
恐いと思ったから	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	2	18.2%
	全体	2	9.1%
めんどくさいと思ったから	施工	0	0.0%
	マイスター	1	33.3%
	設計	0	0.0%
	全体	1	4.5%

③-２不安が無かった理（複数回答可）

		回答数	割合(%)
学校のカリキュラムに入っていたから	施工	6	40.0%
	マイスター	9	52.9%
	設計	4	44.4%
	全体	19	46.3%
参加すれば就職に有利になると思っていたから	施工	8	53.3%
	マイスター	3	17.6%
	設計	4	44.4%
	全体	15	36.6%
事前に先生、もしくは学校から話があったから	施工	4	26.7%
	マイスター	7	41.2%
	設計	4	44.4%
	全体	15	36.6%
みんなが受けるから	施工	1	6.7%
	マイスター	3	17.6%
	設計	0	0.0%
	全体	4	9.8%
授業だから（単位が取れるから）と思っていたから	施工	1	6.7%
	マイスター	1	5.9%
	設計	1	11.1%
	全体	3	7.3%
自分が知っている会社だったから	施工	0	0.0%
	マイスター	1	5.9%
	設計	0	0.0%
	全体	1	2.4%
その他	施工	0	0.0%
	マイスター	1	5.9%
	設計	0	0.0%
	全体	1	2.4%

④体験して得られたこと（複数回答可）

		回答数	割合(%)
知らないことの多さ	施工	18	78.3%
	マイスター	9	45.0%
	設計	14	70.0%
	全体	41	65.1%
現場での実践的な知識の習得	施工	13	56.5%
	マイスター	13	65.0%
	設計	12	60.0%
	全体	38	60.3%
現場での実践的な技能の習得	施工	12	52.2%
	マイスター	16	80.0%
	設計	10	50.0%
	全体	38	60.3%
今後、身に付けるべき知識・技術の明確化	施工	9	39.1%
	マイスター	8	40.0%
	設計	8	40.0%
	全体	25	39.7%
将来の就職に繋げるために役立つ知識・技術の習得	施工	10	43.5%
	マイスター	4	20.0%
	設計	10	50.0%
	全体	24	38.1%
業界のマナーや心構えの習得	施工	9	39.1%
	マイスター	7	35.0%
	設計	5	25.0%
	全体	21	33.3%
将来の現場に向き合うことができる力	施工	8	34.8%
	マイスター	5	25.0%
	設計	5	25.0%
	全体	18	28.6%
社会人としての最低限のマナー(例:あいさつ、遅刻 等)	施工	5	21.7%
	マイスター	7	35.0%
	設計	6	30.0%
	全体	18	28.6%
人との繋がりの大切さ(コミュニケーション)	施工	4	17.4%
	マイスター	8	40.0%
	設計	6	30.0%
	全体	18	28.6%
その他	施工	0	0.0%
	マイスター	1	5.0%
	設計	0	0.0%
	全体	1	1.6%

⑤インターンシップの実施時期

		回答数	割合(%)
現在の実施時期で良い	施工	22	95.7%
	マイスター	17	85.0%
	設計	19	95.0%
	全体	58	92.1%
他の時期が良い	施工	1	4.3%
	マイスター	3	15.0%
	設計	1	5.0%
	全体	5	7.9%

⑤-１いつ頃が望ましいか（複数回答可）

		回答数	割合(%)
季節ごとの1～2週間	施工	1	100.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	1	20.0%
通年	施工	0	0.0%
	マイスター	1	33.3%
	設計	0	0.0%
	全体	1	20.0%
1～2ヶ月	施工	0	0.0%
	マイスター	1	33.3%
	設計	0	0.0%
	全体	1	20.0%
夏休み	施工	0	0.0%
	マイスター	1	33.3%
	設計	0	0.0%
	全体	1	20.0%
春休み	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	1	100.0%
	全体	1	20.0%
冬休み	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	0	0.0%

⑥保護者の理解

		回答数	割合(%)
よく理解している	施工	14	60.9%
	マイスター	13	65.0%
	設計	13	65.0%
	全体	40	63.5%
理解している	施工	8	34.8%
	マイスター	7	35.0%
	設計	6	30.0%
	全体	21	33.3%
あまり理解していない	施工	1	4.3%
	マイスター	0	0.0%
	設計	1	5.0%
	全体	2	3.2%
全く理解していない	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	0	0.0%

⑦参加した感想

		回答数	割合(%)
すごく良かった	施工	16	69.6%
	マイスター	13	65.0%
	設計	12	60.0%
	全体	41	65.1%
良かった	施工	7	30.4%
	マイスター	7	35.0%
	設計	8	40.0%
	全体	22	34.9%
わからない	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	0	0.0%
良くなかった	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	0	0.0%
その他	施工	0	0.0%
	マイスター	0	0.0%
	設計	0	0.0%
	全体	0	0.0%

⑧インターンシップの内容について（複数回答可）

		回答数	割合(%)
事前に安全面や内容についてしっかりと説明を受けた	施工	22	95.7%
	マイスター	15	75.0%
	設計	14	70.0%
	全体	51	81.0%
実施期間中では企業側の指導がしっかりと行われた	施工	10	43.5%
	マイスター	11	55.0%
	設計	12	60.0%
	全体	33	52.4%
実習・演習に対しての現場の安全配慮がしっかりと行われていた	施工	6	26.1%
	マイスター	12	60.0%
	設計	9	45.0%
	全体	27	42.9%
コミュニケーション（人間関係）等の配慮がされていた	施工	5	21.7%
	マイスター	9	45.0%
	設計	6	30.0%
	全体	20	31.7%
事前準備の期間が十分与えられていた	施工	3	13.0%
	マイスター	9	45.0%
	設計	6	30.0%
	全体	18	28.6%
その他	施工	1	4.3%
	マイスター	0	0.0%
	設計	1	5.0%
	全体	2	3.2%

４．企業内実習アンケート【企業】

＜企業用アンケート用紙＞ 1／4

「専修学校版デュアル教育推進」事業アンケート協力願い
「建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業」におけるアンケートのご協力をお願いいたします。

１．貴社名と部署名を教えてください。

貴社名	
部署名	

２．貴社の従業員数を教えてください。次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 29人以下
□ 2 30～99人
□ 3 100～299人
□ 4 300～599人
□ 5 600～999人
□ 6 1,000人以上

３．貴社のインターンシップの受入れについて教えてください。

３−１．貴社は、依頼があればインターンシップの受入れを行っていますか。どちらか1つに☑してください。

□ 1 は い
□ 2 いいえ

→ ３−１−１．「1 は い」と回答した方にお聞きします。受入れの頻度を次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 毎年受入れている
□ 2 依頼があったときに受入れている
□ 3 その他（ ）

３−１−２．貴社は、インターンシップの受入れ時期は決まっていますか。

□ 1 企業でマニュアルがあり決まっている
□ 2 学校と相談している

３−１−３．受入れの人数について教えてください。
１回の実施で何人まで受入れは可能ですか。

記入欄	人程度

４．インターンシップの受入れの目的について教えてください。次の中から該当するものを選んで☑してください（複数回答可）。

□ 1 専修学校教育に共感を得たから
□ 2 地域貢献・活性化のため
□ 3 業界全体の向上のため
□ 4 専修学校教育向上の助力
□ 5 専修学校とのネットワーク強化
□ 6 学生を受入れることによる社員への刺激とするため
□ 7 人材確保のため
□ 8 その他（ ）

５．インターンシップ受入れにあたり、学生にはどのようなことが最低限必要と思われますか。
次の中から該当するものを選んで☑してください（複数回答可）。

☐ 1 あいさつ
☐ 2 忍耐力
☐ 3 他人の話を聞く姿勢
☐ 4 素直さ
☐ 5 責任感
☐ 6 コミュニケーション
☐ 7 知識力
☐ 8 資格
☐ 9 技術力
☐ 10 知識力（スキル）
☐ 11 その他（ ）

６．インターンシップを受入れている企業様にお聞きします。
インターンシップの受入れに当たってどのような課題がございますか。最も必要なものを**2つ**教えてください。

記入欄	

記入欄	

７．学校に求めるもので次の中から該当するものを選び☑してください（複数回答可）。

☐ 1 実習カリキュラムの相互検討
☐ 2 学生の性格や日常の態度の情報
☐ 3 安全対策について学生に徹底した教育
☐ 4 スケジュール管理
☐ 5 学生の管理（同伴等含む）
☐ 6 保険の加入
☐ 7 その他（ ）

８．インターンシップの受入れに対して、指導する体制について教えてください。

８-１．指導する担当者（職人等）は何人でしょうか。次の中から該当するものを選び☑してください。

☐ 1 １人
☐ 2 ２人
☐ 3 ３人
☐ 4 ４人以上
☐ 5 その他（ ）

８-２．指導する担当者の部署名と役職名を教えてください。

部署名	役職名

部署名	役職名

部署名	役職名

部署名	役職名

部署名	役職名

部署名	役職名

８-３．指導する担当者の年齢を次の中から該当する全てに☑してください。

☐ 1 20代未満
☐ 2 20代前半
☐ 3 20代後半
☐ 4 30代前半
☐ 5 30代後半
☐ 6 40代前半
☐ 7 40代後半
☐ 8 50代前半
☐ 9 50代後半
☐ 10 60代以上

9. 安全対策について教えてください。
貴社では、学生を受入れるにあたり、どのような安全対策を心掛けているのか教えてください。

記入欄	

10. 学生の態度はどうでしたか。次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 すごく良かった
□ 2 良かった
□ 3 やや悪かった
□ 4 悪かった
□ 5 その他（ ）

→10−1.「3 やや悪かった」、「4 悪かった」と回答した方にお聞きします。
どのような点でそう思われたのか下記の記入欄へ具体的に教えてください。

記入欄	

11. 学生の理解度はどうでしたか。次の中から該当するものを1つ選んで☑してください。

□ 1 理解できた
□ 2 なかなか理解できなかった
□ 3 理解できなかった
□ 4 その他（ ）

→11−1.「2 なかなか理解できなかった」と「3 理解できなかった」と回答した方にお聞きします。
次の中から該当するものを全て選び☑してください（複数回答可）。

□ 1 学生の事前学習が不足していたため
□ 2 学生の意欲が欠けていたため
□ 3 遅刻があったため
□ 4 企業と学校の打ち合わせが不足していたため
□ 5 コミュニケーションがとれなかったため
□ 6 その他（ ）

12. インターンシップの受入れ実習が終了し、事前準備を含め、改めて学校に対してご要望やお気づきの点はございますか。

□ 1 あ る
□ 2 な い

→12−1.「1 あ る」と回答した方にお聞きします。どのようなところか具体的に教えてください。

記入欄	

13. 貴社がインターンシップを受入れの際に、主にどのようなことに配慮しましたか。
次の中から該当するものを選び☑してください（複数回答可）。

□ 1 生徒とのマッチング
□ 2 教育プログラム内容
□ 3 安全対策
□ 4 従業員の指導方法
□ 5 知識（スキル）・技術力を習得させること
□ 6 コミュニケーション
□ 7 その他（ ）

他にございましたら、下記記入欄へご記入いただき教えてください。

記入欄	

14. 来年度以降もインターンシップを受入れてもよいとお考えですか。

□ 1 受入れてもよい
□ 2 受入れてもよいが、現場次第である
□ 3 わからない
□ 4 受入れを見送る

14-1.「4 受入れを見送る」と回答した方にお聞きします。どのようなところか具体的に教えてください。

記入欄	

15. 貴社（あなた）が思うインターンシップのメリットとデメリットについて教えてください。個人的な感想でも構いません。

メリット	
デメリット	

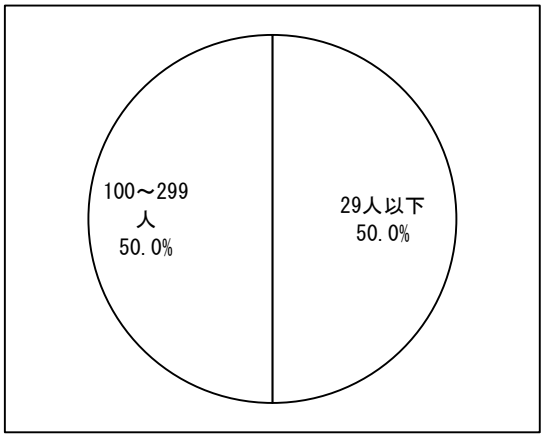
16. 最後に、インターンシップについて、改善点を含め、ご意見をお願いいたします。

ご協力ありがとうございました。

（１）アンケート集計

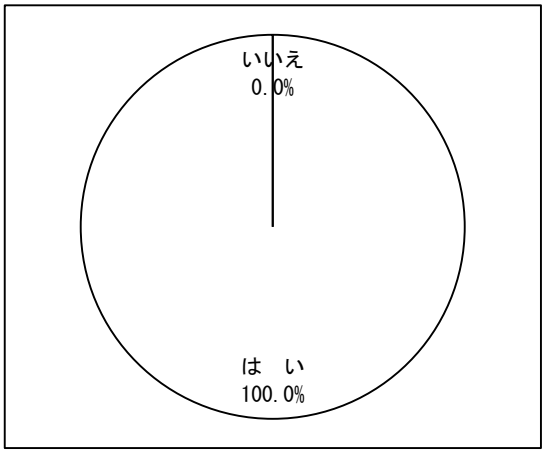
■会社の従業員数について

実習先は、29 人以下と 100～299 人の規模の企業に同数で実施



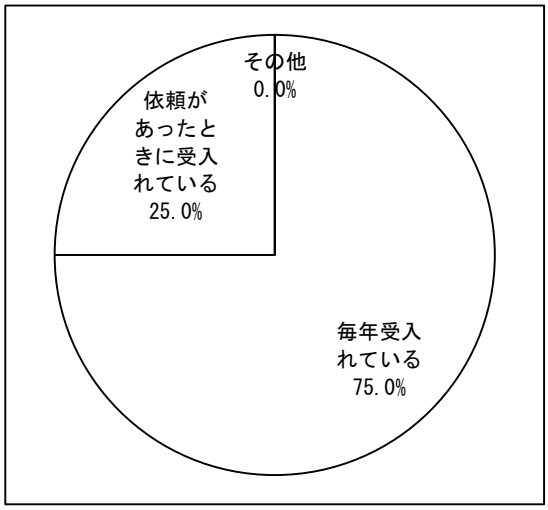
■依頼があればインターンシップの受入れを行っているかについて

受入れ先企業は、積極的に企業が企業内実習の取組みを実施しているのが分かる。



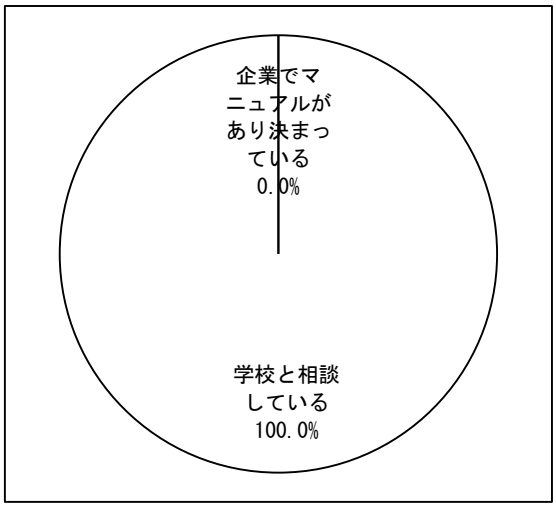
■受入れの頻度について

企業毎の手法にもよるが、声を掛ければ受け入れる体制は整えてあるのが分かる。



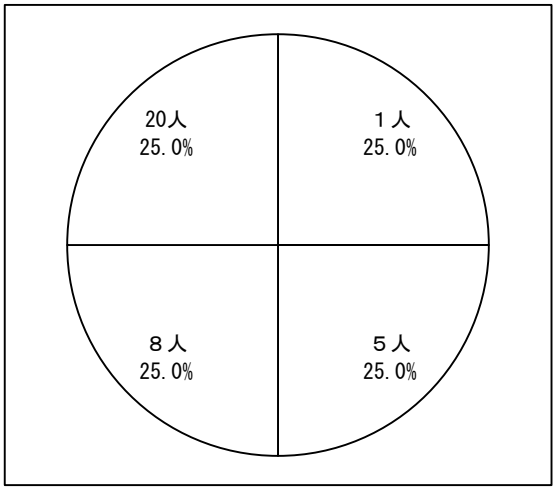
■インターンシップ受入れ時期が決まっているかについて

受入れるには現場にもよるため、特別に決まった時期的なものは無いようであるが、学校との相談で受入れの時期を決めていることが分かる。



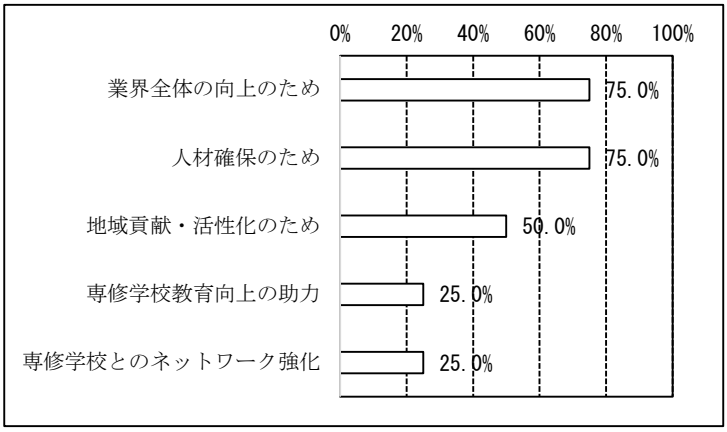
■１回の実施の受入れ人数について

職種にもよるが、現場によっては一箇所でも大人数で受入れてもらえていることが分かる。



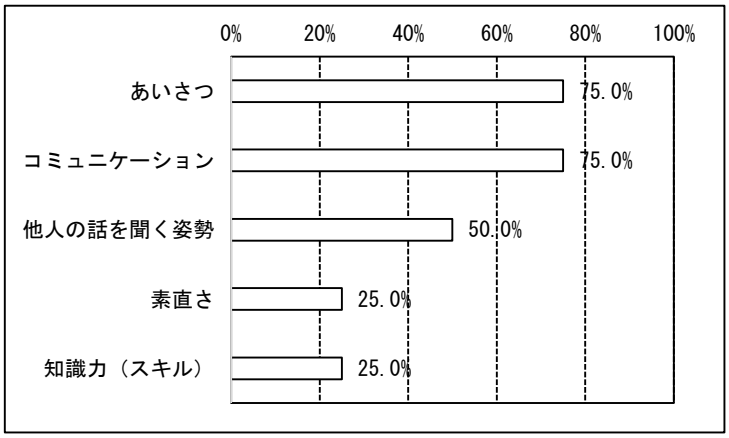
■インターンシップ受入れの目的について

業界全体を盛り上げることと同時に優秀な人材確保という企業面が目立つ。



■インターンシップ受入れにあたり、最低限必要と思われる学生への要望について

人間関係に関する「あいさつ」、コミュニケーション」、「他人の話を聞く姿勢」が目立つ、技術力等は学生には求めていないようである。

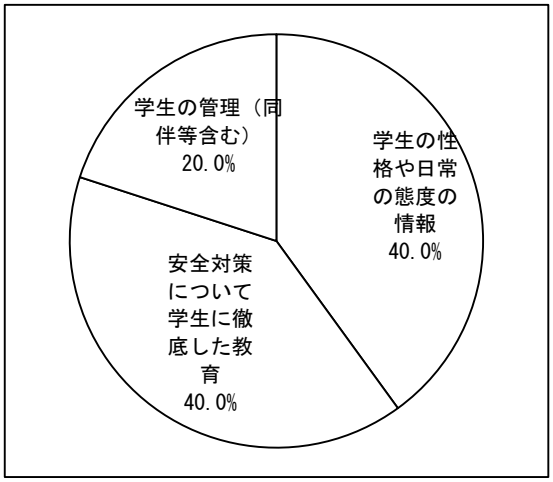


■インターンシップ受入れの課題について（記述）

- 年度末の繁忙期の受入れは避けたい。
- 社会人として最低限の礼儀。
- 長期となる場合には、受入れる現場が無い可能性がある。
- 会話ができること。

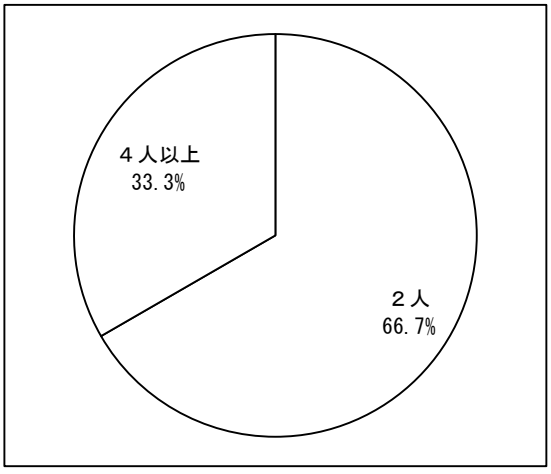
■学校に求めるものについて

学生人間性と安全対策が主に目立ち、次に学校の管理面となっている。
人間性と安全対策は、会議の中でも協議された。



■指導する担当者（職人等）の人数について

企業内実習期間中の現場の指導者は、職種毎に違いがあるものの、少なくとも２人以上で学生の指導に当たっているようである。

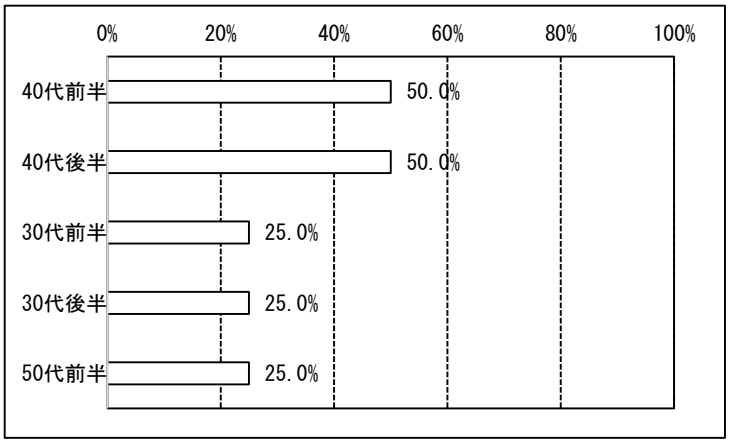


■指導する担当者の部署名と役職名について（記述）

・設計部：全員可能
・工事部：係員・所長
・協力業者：職長

■指導する担当者の年齢層について

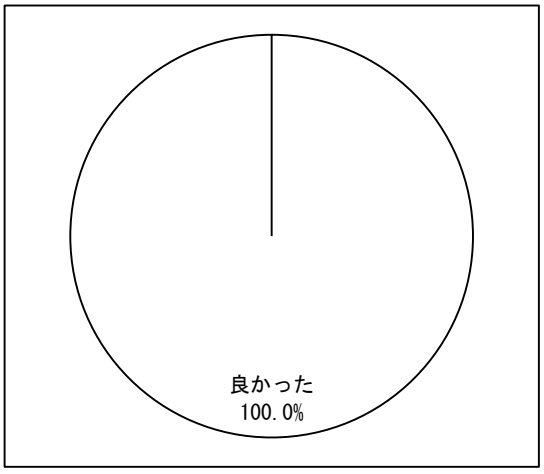
現場の指導者の年齢層は 30 代前半～50 代前半であり、今回の調査では、40 代が多く見受けられた。



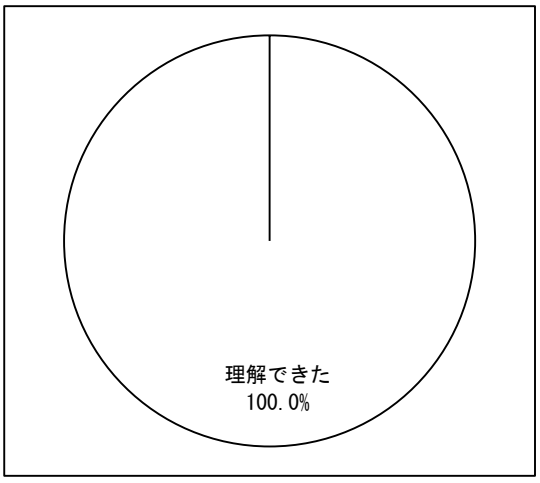
■企業内実習に学生を受入れるにあたり、どのような安全対策を心掛けているのか（記述）

・足場上など墜落の危険がある場所へは立ち入らない。
・通勤時（朝・夕）。
・高所作業、電動工具の取り扱い等にはミーティング、その他ケースバイケースでその都度安全対策に望んでいる。

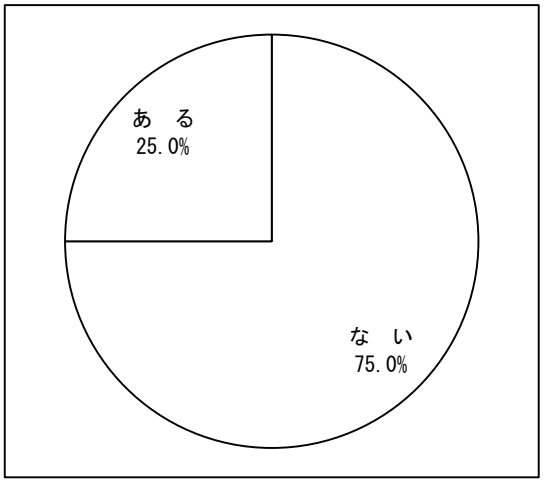
■学生の態度について



■学生の理解度について



■インターンシップの受入れ実習が終了し、事前準備を含め、改めて学校に対しての要望や気づいた点について

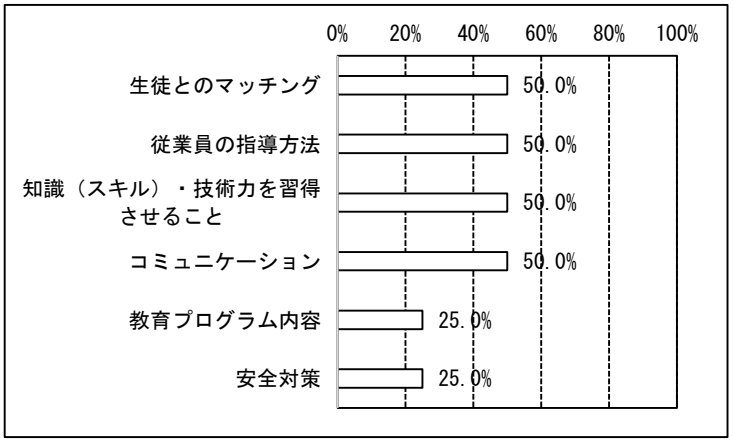


■具体的な要望について（記述）。

・１日の受入れ時間を１．５時間程度にしてほしい。

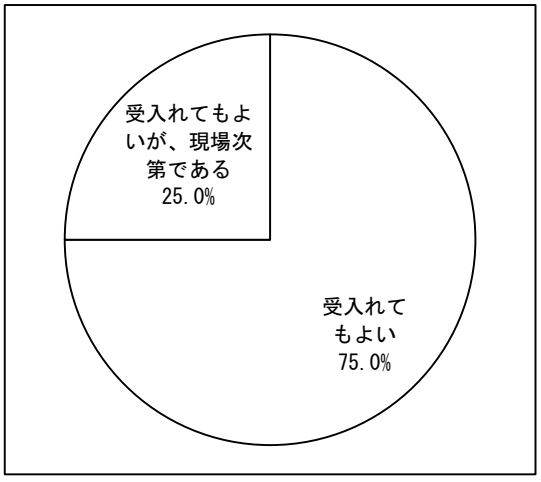
■インターンシップを受入れの際に、主に配慮したことについて

学生を成長させるための企業内実習を充実させるための配慮が見受けられる。



■来年度以降のインターンシップの受入れについて

現場の状況にもよるが、全社とも好意的に受入れてもらえることが分かる。



■インターンシップのメリットとデメリットについて（個人的な感想でも可）（記述）

【メリット】
・実際に体験することで就活に活かし、就職後に思っていた事との相違の問題が減る。
・企業にとっては良い人材の確保に継げる事ができる。
・ＣＡＤ化に役立つ。
・若手育成、地域活性化につながり、良い事業と思う。いかなる理由があるにしても、都市部また地元と何らかの形で交流ができることは大事なことと思う。
・人材の確保。

【デメリット】
・特になし。
・実習日の作業内容（工程の調整）。

■インターンシップについての改善点を含めた意見（記述）

・学生がインターンシップで何をし、何を学びたいかを事前に知ることができれば、より内容のある体験になったと思う。
・ＰＣ、ＣＡＤを少しでも習得させていてほしい。
・実行日までの段取り打ち合わせなどの世話打ち合わせが大変である。
・今までケガもなくお互いの協力で 12 年間続いている。今後も安全第一で実りのあるインターンシップになるよう心掛けたい。

（２）アンケート結果

＜インターンシップの受入れ頻度＞

「毎年受入れている」75.0%、「依頼があったときに受入れている」25.0%であった。

＜インターンシップの受入れ目的＞

「業界全体の向上のため」と「人材確保のため」各 75.0%、次に「地域貢献・活性化のため」50.0%であった。

＜インターンシップに参加する学生に求めること＞

「あいさつ」と「コミュニケーション」各 75.0%、次に「他人の話を聞く姿勢」50.0%であった。

＜インターンシップ受入れの課題＞

・年度末の繁忙期の受入れは避けたい。

・社会人として最低限の礼儀
・長期となる場合には、受入れる現場が無い可能性がある。
・会話ができること。
などが挙げられた。

＜インターンシップの安全対策＞
・足場上など墜落の危険がある場所へは立ち入らない。
・通勤時（朝・夕）。
・高所作業、電動工具の取り扱い等にはミーティング、その他ケースバイケースでその都度安全対策に望んでいる。
などの対策が行われている。

＜インターンシップ受入れの配慮＞
「生徒とのマッチング」、「従業員の指導方法」、「知識（スキル）・技術力を習得させること」、「コミュニケーション」各 50.0%であった。

＜インターンシップの継続性の考え＞
現場次第との回答もあったが、インターンシップに適した現場があること望ましいことが前提としてある。アンケート協力先企業では全社から継続して受入れるとの回答が得られた。

（3）まとめ
アンケート協力した企業は、精力的に学生の受入れの体制を整えている。その目的として、業界全体の向上と人材確保という明確な答えがある。
しかしながら、企業としては良い人材は優先的・独占的に採用したいものだが、今回のアンケート協力の企業は、業界の発展が第一とした奉仕の精神でインターンシップを受入れている考えである。このような考えが基礎となっていることで、ワンランク上の人材育成への協力が成り立っている。
特定企業でのインターンシップは現場の状況にもよるため厳しいものの、今回のアンケート協力企業のような、インターンシップの受入れに賛同の回答をいただいた企業が数多く集まることにより、安定した現場の確保が可能となり、産学連携の継続的なインターンシップが成り立つと考える。

５．企業内実習アンケート総括

アンケート結果から、現在取組んでいるインターンシップにおいて、現場の「生」の雰囲気を経験できた学生と受入れた企業ともに好印象である。
インターンシップについて、参加した学生からは感心が無かった者も最終的には参加して良かったとの回答が返ってきていること、企業側も現場の問題はあるが、継続して受入れ体制は整え

てもらっていることが、今後も必要不可欠な教育手法の一つであると確信した。

これは、学生が得られたこととして「知らないことの多さ」、「現場での実践的な知識の習得」、「現場での実践的な技能の習得」が上位に位置していることに対して、企業側も配慮の上位に「従業員の指導方法」と「知識（スキル）・技術力を習得させる」と応えているところにある。

ただし、学生は現在よりも長い期間で色々な体験をしたいと望んではいるものの、企業側としては工程の調整など受入れる時間には限界があるのも垣間見える。

今後は、学生の就職先となる業界に対して、企業と業界団体との連携を図りながら、インターンシップのスケジュール調整（繁忙期等の問題考慮）を上手くコーディネートする能力が学校側に求められている。

第4章　ま と め

今後の課題

15 年に渡り取組んできた企業内実習（インターンシップ）をベースに、「専修学校全国版デュアル教育」のガイドラインを作成するべく、年間 300 時間の企業内実習を実施することを想定した議論を重ね、建設分野における職種毎の年間スケジュールをはじめ、産学連携フロー図、必要な様式類の教育支援ツールを開発した。

各学校とも地域毎の特徴を活かした企業内実習のやり方は異なり様々な形で実施しているが、学校で勉強した事の確認をする見学会的なものが多く見受けられ、技術習得という実務に直結した内容を体系化して企業内実習している学校はまだまだ少ないと思われる。

なぜ見学会的なものが多いのか、それは産学連携といっても特定した企業との連携が多く、企業内実習を行う現場の安定確保ができていない実態があると推測される。

この解決策の一つとしては、特定の企業に偏らず業界団体を巻き込み、業界全体の取組みとして業界に対して精力的な働きかけをし、理解を得ることが必要と考える。

また、汎用的な「専修学校全国版デュアル教育」ガイドラインの作成を行う上では、本年度開発した教育支援ツールの検証をする上でも、地域で実証を実施すること。

その上で、その評価を第三者から得ることが求められていることも重要なことである。これらを今後の課題として挙げる。

次年度に向けて

上述の通り、課題として明確な内容が抽出できた。

これらの課題をクリアしていくには、地域の協力校とともに産学連携に向け、協働で企業内実習が実施できる環境の安定化を図る必要がある。

そのためには、企業と業界団体が自らの業種に対して、企業内実習活動を通すことにより、若い方に知ってもらう機会であると業界団体全体で盛り上げる意識を持ってもらうことが重要である。

また同時に、開発した教育支援ツールを活用して地域による実証を実施することで教育支援ツールの検証を行い、汎用性を持たせることが必要である。

汎用的なガイドラインの作成をするにあたり、来年度は主に次の事項を実施する。

① 他地域での企業内実習の実証
② 開発した教育支援ツールの精査・改善
③ 第三者評価　等

この取組みを実施することにより、汎用性の高い「専修学校全国版デュアル教育」ガイドラインを作成する。

第5章　参考資料

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	デュアル教育推進会議（第１回）
開催日時	平成 28 年 12 月５日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・井上雅二、宇高雄志、内海秀明、柏本　保、片山俊行、 酒井直樹、嶋田　聡、高嶋靖生、高原一岐、田中政人、 中農一也、難波利行、長谷川武義、林　雅彦、増澤清嗣、 増田和仁、水野和哉、毛利幸弘、森本徹之、山口政勝、 吉川隆治、鷲尾和正、和田秀勝 （計 23 名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計 24 名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・専修学校版デュアル評価に関する方向性、成果提出までの確認等を目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 28 年 12 月５日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．事業代表挨拶 ３．委員紹介 ４．議　事 （１）事業説明 ①文部科学省の事業趣旨 ②事業計画

	③ガイドライン作成要領 （２）検討事項 ①各部会での検討事項 ②部会等開催スケジュール ５．事務連絡 （１）次回会議日程　１月 30 日　17：00～19：00 （２）その他 ６．閉　会 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・建設分野・デュアル教育推進会委員表 ・文部科学省委託事業「専修学校版デュアル教育推進事業」趣旨 ・「専修学校版デュアル教育」ガイドライン作成要領 ・事業計画書一部抜粋 ・各部会での検討事項（案） ・会議開催スケジュール 【内容】 以下、次第に沿って会議が進められた。 １．開会・・・ 事業責任者の校長片山から開催の言葉で第１回のデュアル教育推進会議が開催された。 ２．事業代表挨拶・・・ ・本校は文科省の認可の学校であり、これまで建設業界の皆様にはインターンシップ等をはじめ、ご支援をいただきながらお世話になっています。との言葉より事業代表校の理事長中農から挨拶が行われた。 ・現在、文部科学省は職業教育に力を入れはじめている。３年前より職業教育実践課程という業界団体と連携した専門教育の認定を実施している。 しかし、業界団体との連携は難しいのが現状である。文科省としては､業界団体との連携をますます推進していくことを目的としている。 ・本事業は建設分野の３年計画である。日頃からご支援をいただいている委員の皆様には更なるお力をいただき、産官学協力の上で実施していきたい。

	・非常に厳しい期間ではございますが、よろしくお願いいたします。 ２．委員紹介・・・ 事務局より、本推進会委員の紹介が行われた（配布資料：建設分野・デュアル教育推進会委員表参照）。 ３．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）事業説明 ①文部科学省の事業主旨（配布資料：文部科学省委託事業「専修学校版デュアル教育推進事業」趣旨参照） ・企業内実習が重視されてはいるが、各学校でしっかりとした実施されている制度として高まっていない。それで、この度の事業はそのガイドラインを作成するものである。 ・平成 28 年度から３年間が委託期間である。 ・定義としては、企業での実習と学校の講義等の教育を組み合わせて実施することにより、若者を一人前の職人に育てる仕組み。企業実習と専門学校教育の相乗効果で実施。実務と教育を連携させた実践的な人材育成システムである。 ②事業計画 ・分野と事業名の確認が行われた。（配布資料：事業計画書一部抜粋１ページ参照） 事業の趣旨と目的として、教育界と産業界の連携の必要性、また雇用のミスマッチの社会問題への課題を改善していくことが求められている。今まで取組んできた経験を活かして実施していく。 ・事業の実施体制について次の説明が行われた（配布資料：事業計画書一部抜粋２ページ参照）。 本推進委員会の他に必要に応じて各部会・委員会「施工部会」、「設計部会」、「マイスター部会」、「ガイドライン評価・検証委員会」に参加していただきたい。と各部会・委員会の概要と構成員の名前が述べられた（配布資料：事業計画書一部抜粋３～７ページ参照）。 ・ガイドラインの説明、本推進会委員会で行う内容の確認が行われた（配布資料：事業計画書一部抜粋８ページ参照）。 ①本推進委員会は、産学連携によるデュアル教育を目指す者である。 ②業界と企業との連携のあり方（連携手順や効率的に事務処理を進め

	る工夫等)、③実習指導のあり方（事前指導や効果的な実習の手順のツールで事例、評価表等の開発、事後指導等)、④企業内のカリキュラムの開発、⑤アクティブ・ラーニング（授業と実習の絡み等)、⑥人間教育としてのあり方。といったことを探る。 ・ＰＤＣＡサイクルで評価しながら進める（配布資料：事業計画書一部抜粋９ページ参照)。 ・平成 28 年度～30 年度毎の取り組みの内容の説明が行われた。29 年度は長期を中心とし、検証は設計を中心に考える（配布資料：事業計画書一部抜粋 10 ページ参照)。 ・作成するガイドラインの活用方法として全国の建設系専門学校等に配布し、企業内実習を推奨する契機とし、フォローアップ体制については、①ガイドライン概要版の作成、②ポイントの解説、③活用の説明会の実施、④ＨＰに全資料に掲載による普及・啓発活動、⑤他の専門学校等の支援、などの説明が行われた（配布資料：事業計画書一部抜粋 11 ページ参照)。 ③ガイドライン作成要領 分野別ガイドラインで､最終的には三菱総研の意向で作成していく(配布資料：｢専修学校版デュアル教育」ガイドライン作成要領参照)。 以下、委員の意見交換が行われた。 ・日本工科大学校においては､平成 13 年度から協会の支援をいただきながらインターンシップを行っている｡｢木造建築」では３泊４日､｢鉄筋コンクリート」では通年型で毎週週１回や夏休みに１週間の集中型、「造園」では１週間、「設計」などを実施。 　今年度は、現在、実際に実施いるものを検証する。来年度については、１ヶ月、２カ月の長期を検証し、最終的には、全体的なガイドラインを作成していく方向で実施する。 ・２週間ほど設計事務所で受け入れているが､設計先を想定して設計、パーツを作成することから模型を作成させている。業者とのやり取りも見せている。好感を得られている。 →受け入れ側の課題もあると思われる。 ・建設業協会においても前期、後期と見学会も含め支援している。受け入れ側の体制もあるが、可能な限り支援をしていく。すぐ辞める方が多いため就業の継続率が必要。 ・左官協同組合から 11 月に工業高校に行ったが､左官について問い合

	わせたが、建築を専攻しているにも関わらず誰一人知らなかった。今は若い世代に知ってもらう努力を始めている。周知できるのであれば協力を惜しまない。 ・造園の１週間を有意義にするために、組合員にモノづくりのタイミングで受入れるようにしている。昨年はビオトープ、その前は古民家の修復など、タイミングがあり、受入れることができたが、企業１社だけで請け負うことは困難と思われる。 　物事を覚えるより､広域的な広い視野をもつことが必要と思われる。インターンシップの機会で知ってもらえるようにしている。 →現場のタイミングが必要である。 ・ニーズとニュアンスは理解できたが、大変な量がある。学校の主体で私どもに宿題をいただければ良いと思われる。 →検討事項について具体的に協議内容を提供していく。 ・過去に長期的な受け入れは企業の負担が大きいので難しく、現在の１週間程度に落ち着いたが、今回目指すのは、長期的なインターシップの取組みを目指すのか。 →やり方の検討をするのが本事業の取組み。デュアル教育は、今回のような企業内実習と学校があり、一方では働きながら夜に行うとの意見もあった、本来のデュアル教育とは何なのかとなるが、文科省が提示しているのが２年間の過程で 300 時間の企業内実習、４年間の過程で 600 時間の企業内実習を目標としている。これは職業大学を視野に入れている。その２年間の 300 時間実習がどのようなものであれば可能かどうかの検証も含めて教育プログラムを作る。 →２年間 300 時間（１年間 150 時間）というのは、すごい時間と思われるがどうか。 →本校が現時点で実施していることを検証しながら実施しようと思っている。 →既存の資格取得や単位取得も条件として関わっているのか。 →その通りである。実際にどのような企業な実習が良いのか、継続できるような教育システムを作る。どの専門学校に対しても定着出来るような教育プログラムの開発をする。 ・全国の地位毎に推奨する工務店等のリストはあるのか。 →これまでの実績でしかない、推奨するリストはない。 ・過去に１ヶ月間ほど、さいたまのものつくり大学からインターンシップで預かったが、たつの市出身の学生が学校にある企業リストの中から希望して来た。

	しかし、来る学生の学習レベルやどのような将来像を持っているが分からないことや学校から教えてほしいことが明確に来ないことが困っている。自社なりの方針で教えてはいるが、この度の取組みにおいて御校の考え方を教えて欲しい。 →本校では、即戦力（技術力、資格等）と人間力（あいさつ、コミュニケーション能力等）の教育２本柱を方針としている。 自分たちが学んだ技術でボランティア精神を持ち、世のため人のために活動する。 例えば、東日本大震災においては、木造の仮設住宅を造ったり、日本カーシェアリング協会と連携で冬用のタイヤ交換や日常点検等を実施した。 現時点において具体的にインターンシップでどこまで教えてほしいということについては企業側の思いと当校の思いを照らし合わせながら、今後の部会の中で行っていきたい。 →企業は教育者ではないため、共通マニュアルの作成についても本事業において明確化すべく検討していきたい。 →本会議の委員の皆様には産業界においては、当校の学生や卒業生と少なからず何らかの関わりがあるため、その姿勢を見ていただきながらご意見をいただきたいと思っている。 ・第１回～３回会議各部会の検討事項について次のように説明された（配布資料：各部会での検討事項（案）参照）。 第１回目は、基本的な意義としてメリット、デメリットに対しての意見や学校側・企業側の課題等、第２回目はどういう形の実習がよいのか、実習に形態について。第３回目は、実習の事前指導の工夫について、実習中、実習後のことに考えてもらう。 ・全体の会議開催スケジュールの説明が行われた。設計部会は福島で開催予定（配布資料：会議開催スケジュール参照）。 →会議開催は月曜の 17：00～、会議時間は２時間と考えてよいのか。 →開催日は予定として提案しているため変更はできるが、会議時間は２時間である。 →第一回の施工部会を 21 日 17：30～で変更。他は、この開催スケジュールで実施していく。 ・現状での課題を検証することを含め、アンケート調査を行う予定としているのでご協力いただきたい。企業側の捉え方等についてお願いしたい。 どういったインターンシップを行うのが望ましいのか、３回目はま

	とめたもので行っていきたい。現在のベースのものを参照して検証していきたい。 ・協議の参考となるものを示して会議を開催していく。 ５．事務連絡 ・国のアンケート調査を委員の皆様の中からお願いすると思いますので、その際にはご協力よろしくお願いいたします。 ・次回の会議開催は１月 30 日 17：00～。 第一回のデュアル教育推進委員会会議を終了します。本日はお忙しい中ありがとうございました。との言葉で本会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	デュアル教育推進会議（第２回）
開催日時	平成 29 年１月 30 日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・井上雅二、内海秀明、柏本　保、片山俊行、高嶋靖生、高原一岐、田中政人、所　達弘、中農一也、難波利行、長谷川武義、林　雅彦、増澤清嗣、増田和仁、森本徹之、山口政勝、吉川隆治、鷲尾和正（計 18 名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計 19 名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・施工部会、マイスター部会の各部会の会議内容の報告と企業内実習の守秘義務・機密保持義務について意見を求めることを目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年１月 30 日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．事業代表挨拶 ３．議　事 （１）施工部会、マイスター部会での協議事項について （２）企業内実習と守秘義務・機密保持義務について ４．事務連絡 （１）今後の日程確認 （２）次回会議日程　２月 20 日　17：00～19：00

	５．閉　会 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・施工部会会議整理 ・マイスター部会会議整理 【内容】 以下、次第に沿って会議が進められた。 １．開会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第２回のデュアル教育推進会議が開催された。 ２．事業代表挨拶・・・ ・昨年 12 月に第一回実施した。また、施工部会、マイスター部会の会議を各２回開催した。設計部会は２月に１回実施する。 　この度は､施工部会とマイスター部会の協議内容の報告とその確認、企業内実習となると守秘義務・機密保持義務等が関係されることについて意見を聞いていきます。 ３．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）施工部会、マイスター部会での協議事項について ・配布資料の「施工部会会議整理」､「マイスター部会会議整理」について以下の説明が行われた。 「施工部会会議整理」についての説明が行われた。 ・企業内実習の意義について 【学校側】: ①現場の「生」の姿を知る機会となり、就職の際のミスマッチが解消できる、②現場に出ると自分のやりたいことと実際との違いを知る事ができる、③技術力・コミュニケーション能力が養われる、④仕事の嫌な面を事前に知ることができる。 【企業側】: ①人材不足の中、就職へつなげる機会となる（人材確保のため)、②学生の態度、能力を見極めることができる、③経験の少ない指導担当者の勉強の機会となる。 ・企業内実習のあり方 【適切な実習期間】: ①地べたの周りから内装まで一連の流れを体験

	するには、これまで通りと同じ４ヶ月間、週１回の現場実習が必要、②１～２ヶ月間つきっきりで連日通すことは、職人には向くが、監督業においては、工程の進捗が分かりにくく現実的ではないため、見送るべきである。 【適切な実習現場】：①興味・関心を喚起する現場を選定する（工期が厳しい、人数が少ない現場は見送る等）、②工程の進捗を見ながら、タイミングよく実習を開始する、③プロを目指す学生には、見学会的な実習は好ましくない。 ・企業内実習の課題 【学校側】：①安全に関する指導をしても、なかなか認識までにはいかない、②企業と合致した学生評価方法について、③傷害保険への加入等の事故対応を明確にする。 【企業側】：①企業のトップの理解がないと企業内実習の受入れは難しい、②受け入れ体制が整っていない企業では、効果的な実習は難しい、③内定者でないと長期間毎日実習を入れることは難しい、④施工会社が魅力的に見えるような現場を継続的に提供する。 ・安全指導のあり方 【学校側の状況】：①実習を行う前に参加者に対して服装や危険回避等の安全教育を 90 分行っている、②安全に関することは繰り返し行う、③大きな声で挨拶をさせる、④体調が万全でない学生がいる。 【企業側の状況】：①一番多い事故は物的要因ではなく、人的要因（ヒューマンエラー）である、②職員の特性を把握し、資質向上に努めている、③危険予知（ＫＹ）活動から危険資源を見つけ提言するリスクアセスメントと取組みの変換をし、毎日の朝礼後に実施している。 【今後の指導の工夫】：①安全に関するマニュアルやチャックシートを作成する、②事故が起きた場合に備え、その行動マニュアルも必要である、③作成したマニュアルを基に、学校で指導し、学生が自覚・認識しているか検証する。 ・学生評価のあり方 【学校側】：①学校で評価したものを企業側へフィードバックし、企業からも評価を受けることが必要、②学生に企業が自分たちをどう見ているか意識させるためにも企業評価は進めたい。 【企業側】：①学生の動きだけを見て評価するのは難しい、②評価する手間の問題ではなく評価する基準の難しさがある、③仕事に対する姿勢などの簡単なチェックシートがあれば評価できる。

	【今後の指導の工夫】：①企業と学校が合致した評価方法・評価内容を検討していく、②企業チェックシートを作成し、企業目線の学生評価を進める、③日報を安全と品質に分けて記述させ、学校と企業の両方にコメントができるように検討する。 「マイスター部会会議整理」についての説明が行われた。 ・企業内実習で何を学ぶのか、何を教えるのかについて 【職業・職場への理解】：①現場の雰囲気を感じる、②現場の実際を知る、③職人は何を考えて仕事をしているのかを知る、④現場の流れを理解する、⑤他人との関係（ネットワーク）の必要性を知る。 【自分気の気づき】：①仕事ができないことを実感する、②自分の志望と実際の職場とのギャップに気づく、③職人技術のみで普通水準の生活ができるという間違いに気づく、④学校（授業）と社会（現場）の違いを知る。 【どのような企業内実習が必要か】 ＜長期の企業内実習であれば効果が期待できる＞：①夏休み等の現場でのアルバイト経験が一番、身に付いている、②２～３日は仕事体験レベルである、③学校では甘えがある。 【長期企業内実習の課題】：①受入れ現場。②２人などの少人数の現場は受入は難しい、③職種による長期企業内実習のあり方を整理する、④職種による無償・有償を整理する、⑤傷害保険加入法を理解する、⑥事故時の責任の所在を明確にする協定書等を検討する。 【学校指導と体制】：①社会生活上のマナーやルールを守る指導を徹底する（特に挨拶・遅刻等）、②やる気、一所懸命、集中力を重点的に指導する、③授業時間で終わる指導から課題解決で終わる指導、④現場のルール、安全衛生法違反などについて、企業・学校が協力して指導する、⑤長期企業内実習と単位認定、授業との関係を整理する。 ・学生の実習中の事故等への対応方法 ①対応方法：学校が現在加入しているインターンシップ活動賠償保険、学生災害傷害保険、受入れ企業先の労災、学生個人毎に労災に加入。 ②問題点：有償・無償で対応が異なる、２～３人の現場では労災保険加入は難しい、短期間の場合労災適応は難しい。 【今後の検討課題】：①学校が現在加入している２種類の保険の適用範囲、賠償額等について調べる、②企業内実習の場合の労災保険の加入の必要性、及び適用範囲について調べる、③有償・無償の場合に分けて調べる。

	・企業内実習の期間と実施時期・受入れ方法 ①実施期間：長期が望ましい。１か月以上。 ②実施時期：３級の技能検定試験が終わる７月以降、２級の技能検定試験が終わる２月以降、一定水準以上の学習を行った後の２年生の10月頃。 ③受入れ方法（無償か有償か）：他の職種と違い、大工・左官は学生では役に立たないため無償が原則、無償と有償ではやる気の問題に関係する、優勝の場合には通勤時の事故対応も必要となる。 【今後の検討課題】 ①学校のカリキュラムとの関係から、適切な実施時期を検討、②有償いよる企業内実習いついては、さらに可能性と課題を検討する。 ・実習方法・企業とのマッチング・学校の対応 ①実習方法：会話し易い年齢が近い職人に指導させるとその職業への意識が変わり、面白さや喜びに気づく、現場の一連の作業を体験させると学生もその職業への意識が変わるため、普通の見習い職人と同じことをさせることが大切。 ②企業とのマッチング：組合・協会が協力して受入れ窓口となり企業を紹介する、企業の現場の状況や学生の通勤時間等を配慮する。 ③学校の対応：実習したことをまとめ発表する場を設ける、日報用紙を作成する、教員は週１～２回程度に現場を訪問し、学生と面談して状況の把握を行う。 以下、意見交換が行われた。 施工部会委員、マイスター部会委員とも会議整理内容の説明通り。 →第２回マイスター部会の検討事項の労災についてだが、有償・無償に関わらず、労災＝労働者災害保険の適応はできないはずである、適応できる保険としては任意保険と思われる。インターンシップではなく、アルバイトとした場合には別であるが。 →インターンシップでの有償はあり得るのか。 →サービス業などでは、アルバイトみたいに多少の金銭が発生する場合がある。基本的には無償ではある。 →アルバイトとインターンシップは何が違うのか。 →学校が教育の一貫として単位認定を与えるかどうかになる。 →ガイドラインを作成するにおいては、有償と無償があってはいけないと思う。 →会社の方で受入れた大学の中には、交通費だけの支給をした前例は

	ある。 →企業としては交通費支給はやり易い。 →就職先が決まった先に、夏休み期間に一連の流れの体験として有償で入社前研修的な事例はある。 →受入れ側としては、どうしたらよいのか分からないと思われるため、有償・無償を決めた方が良いと思われるが、企業側で交通費程度は任意でということもある。 →基本的には、無償の方が良いと思われる。 →保険関係も学校と学生で対応策を取る方向でよいのではないのか。 →学校の保険が２つあり、インターンシップ活動賠償保険が学校の成果として位置付けていれば、施設や生産物破損等１事故について最大１億、保険料は 250 万／人、個人的なものは適応外である。また、学生生徒災害損害傷害保険があるが、同様の内容で学校教育の一貫であれば、施設内外にかかわらず適用されており、死亡、入院、通院等が対象となる。特約として、現場までの通勤時も適用できる。その他、建設業協会の本部で加入してもらっている保険もある。 →無償であってもこのような保険があることでカバーできる。無償で進めて良いと思われる。 ・マイスター部会で提示された１ヶ月という連続した期間の受入れについて、何故企業として負担があるにも関わらず、受入れているのか、インターンシップを受けた学生がどの程度就職したのか教えてほしい。 →マイスター部会と施工部会とでは携わる物が異なる。マイスター部会としては、職人を育てることを目標とし、職人技術の取得をするためには仕事の連続性を理解することが重要であるため、一覧の流れを体験する上で連続した方が良い。施工部会は、基本的にはビルやマンション等の大きな建物であるため、主に現場監督業としてということであり、短期間ではなかなか動きが見ることができないため、週１回４ヶ月となりとしている。ともに、協会や組合を通じて行う。 →左官においては、地域的なものがあるとは思われるが、姫路地域では組合全体として受入れる形を作っている。一連の流れを経験することが必要である。 →協会と学校の連携が必要であり、一企業だけでは難しい。現場の状況がある。 →学生と見習い工 →施工でも最低でも４ヶ月いれば、一連の流れが体験できる。

	→業界に入るかどうか分からない学生も受入れるのはどういった考えなのか教えてほしい。 →業界としては、若手の育成にも力を入れている。少なくてもこの学校の学生においては、例えば弊社に来ていたインターンシップの学生が入社していなくてもどこかの左官会社に就職している。という状況である。地域にもよるが、業界に携わる人数が増加することが目的である。 →当校の学生は 100%業界に就職する。大学とは異なる。 →マイスターは違う業界に進んだ学生はいない。設計・施工においては、インターンシップによって進路を変える学生がいる。それは、全く違う業界ではなく、設計から施工に変えるなど職種の進路を変えることはある。 →教員、看護、介護等の実習手法等（単位認定）、リスクを含んだしくみを参考としてはどうか。 （２）企業内実習と守秘義務・機密保持義務について 以下の意見交換が行われた。 【設　計】 →公的な仕事に関係した場合もあるため、基本的には必要である。 →その誓約書はあるのか。 →学生等を受入れる場合には、誓約書に企業内実習において知り得たことは外部に公開しないことなどの文章が明記されている。 →測量においてはどうか。 →そこまで関わるようなことは学生を入れない。 →どうしても公共事業の川上になるため、誰も知らない事前計画の段階で勝手に話されても困るため、今後は必要と考える。 →仕事を受けるためには今でも絶対条件となっているため必要と考える。 【施　工】 →建設業は事故災害が多い現場でもあるため、行政責任、司法責任、刑事責任等があるが、他に社会的責任において、新聞等からではなく、学生が勝手にスマホなどを使って発信することを止めることは必要である。 →企業秘密等もあるので、必要と考える。 【マイスター】 →施主（依頼者）等の個人情報はあるが、現場に入っていれば特に無

	いとは思える。 →リフォーム等で施主（依頼者）がいる場合があるので、その時には気をつける。個人情報については気を付ける。 →スマホの携帯に気を付けて仕事を進めることが必要と考える。 →重要文化財などの材料の配合についても気を付けることが必要である。 →特に設計においては守秘義務が必要である。 →現実的に現段階では大きな問題ではないが、書名させることにより、重大な事であると学生に認識させることは教育として必要と考える。 ４．事務連絡 （１）今後の日程確認（施工部会・マイスター部会の３回目、設計部会１回目の会議日程の確認） （２）次回会議日程　２月 20 日　17：00～19：00 本日はありがとうございます。お忙しい中ではございますが、次回参加もお願いいたします。との言葉で会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	デュアル教育推進会議（第３回）
開催日時	平成 29 年２月 20 日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・安孫子勇一、井上雅二、内海秀明、柏本　保、片山俊行、 嶋田　聡、高嶋靖生、高原一岐、田中政人、所　達弘、 中農一也、難波利行、長谷川武義、林　雅彦、増田和仁、 毛利幸弘、森本徹之、山口政勝、吉川隆治、鷲尾和正（計 20 名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計 21 名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・本年度開催した各部会会議の協議内容における活動報告と意見交換や来年度の取組みの方向性の確認等を目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年２月 20 日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．事業代表挨拶 ３．議　事 （１）平成 28 年度活動報告 ・各部会協議内容の報告と様式の確認等について （２）平成 29 年度の方向性 ・平成 29 年度デュアル教育実証計画について ４．事務連絡 ５．閉　会

	＜配布資料＞ ・議事次第 ・平成 28 年度専修学校デュアル教育推進事業活動報告 ・企業内実習・安全チェック表（様式） ・企業内実習・評価表（様式） ・企業内実習フロー ・インターンシップ活動日誌（様式） ・平成 29 年度デュアル教育実証計画 【内容】 以下、次第に沿って会議が進められた。 １．開会・・・ 事業責任者の校長片山から開催の言葉で第３回のデュアル教育推進会議が開催された。 ２．事業代表挨拶・・・ 本日の会議は本年度の最終会議となります。施工部会、マイスター部会、設計部会を開催してきた。 施工部会とマイスター部会では、現状を踏まえた上で、来年度の取組みの方向性が見えてきた。設計部会は来年度、もう少し検討が必要である。 本日の会議は、これまでの活動のまとめと来年度に向けた取組みの内容となります。よろしくお願いいたします。 ３．　議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）平成 28 年度活動報告が行われた（配布資料：平成 28 年度専修学校デュアル教育推進事業活動報告参照）。 ・活動の結果の報告が行われた。実習意義は「施工」、「マイスター」、「設計」とも同じ意見であった。 ・「施工」と「マイスター」は現状と同じ手法で「組合・協会」等を通して進めて行く。「設計」については、先日の福島の会議で、兵庫を見習い、同じ手法で実施していきたいとのことであった。 ・安全指導は全てにおいて重要という事であった。 ・有償・無償については、無償で実施する。 ・保険においては、学生は労働者ではないため、労災保険に適用でき

	ない。学校が加入する。 ・守秘義務等においては、特にスマートフォン等が危惧される。 ＜安全チェック表＞ ・「施工」と「マイスター」の内容は、ほぼ同じである。 ＜企業内実習・評価表＞ ・評価項目をある程度絞り、事務局で作成した内容でほぼ良いということであった。 ・評価の監督員や実習指導員の負担にならないように、評価しにくい箇所は空欄でも構わないとしている。 ＜企業内実習フロー＞ ・「協会・組合」に「企業」のコーディネートをしてもらいながら候補地探し、実習準備、実習中、実習後といった流れで企業内実習（インターンシップ）を行う。 【候補地探し】 ・学校が実習先を「協会・組合」に依頼し、「協会・組合」から「企業」に依頼をする。点線の矢印は学校から直接お願いする可能性がある箇所。本来は実線部分で行う。等 【実習準備】 ・参加者の選考、誓約書・交通手段等を協会に報告、企業と実習内容の打ち合わせを行う。学校は事前に安全指導を学生に行う。等 【実習中】 ・受入れ先企業には、安全管理、日報チェックを行ってもらう。学校は保険に加入、現場訪問、相談等を行う。等 【実習後】 ・企業に学生の評価を行ってもらう（学校も行う）。実習報告会を実施し、可能な限り「協会・組合」、「企業」に参加をしてもらう。等 　このように企業内実習「学校」と「協会・組合」、「企業」の連携で進める。 ＜インターンシップ活動日誌＞ ・従来の様式を使用する。 以下、意見交換が行われた。 ・目標設定はしているのか。 →現場によって内容が異なるため、現時点では考えていない。スキル目標ではなく、業界の仕事を体験することを目的としている。 →本格的な実証はこれからであるため、次年度以降に検討材料として

	挙げると良いのでは。 →考え方の一つとして、10 年先を見据えた長期的な目的を掲げた上で、そこに至るための年度毎の中・短期的な目的として落とし込んでいくことが現時点での企業内実習（インターンシップ）に合っていると思われる。 →評価に点数は付けないのか。数字で見えるような見える化とした評価表にした方が良いと思われる。評価がバラバラになる恐れがあるため、ベースを決めた方が良いと思う。 →企業内実習（インターンシップ）は総合学習のようなものである。学校で学習したものがどのように役立つのか関連するのかという総合的な学習としている。 →評価には「可」と「不可」にした方が良い。 →「不可」が無いため混乱すると思われる。「優」と「良」の判断は難しい。点数制にしないと主観が入るため難しいと思われる。 →意欲・態度面などは、「可」と「不可」とシンプルにした方が良いと思われる。 →評価方法は企業では良いとは思われるので、学校としての評価方法を今後の課題として検討していく。 →職務能力については現場によって異なるために「優」、「良」、「可」でも良いと思われる。 ・設計は、ビル系や木造建築などといった専門の設計事務所があるが、学生には将来を見越した実施先の要望を聞いて実施するのか。 →１年生が中心となるが、学生に聞いても職種の要望はない。仕事の内容や雰囲気を知ることが重要と考える。 →設計は、構造、木造、鉄筋といった仕事内容に区別がある。学生が向いている職種が良いと思う。 →評価をしながら検討を重ねることになる。今後の課題である。 →ふるい落とすような評価は避けるべきと思う。 →出席率が良いが成績が悪い学生は必ず居るが、この企業内実習（インターンシップ）では、そのような評価はここで出て来るのか。 →現在は担当教員の独断に近い状態で評価している。この度の評価は受入れ先企業の意見をフードバックしたいと考えた評価表である。 　担当教員の目が届かない部分の評価を受入れ先企業でお願いしたい。あくまで参考とさせていただくものである。 ・大学のインターンシップの評価については、事後評価に重点を置いている。企業側からの評価と学生がプレゼンする自己評価とを合わせ

	て行っている。インターンシップによって本人がどれほど成長したのかを見る。企業には、負担増とならないように本人が気づかない点を教えてもらう。 　専門学校は学生が考えている将来のビジョンと企業とが結びついている。平均的な部分を示して評価してもらうのが良いと思う。 →評価基準（＝標準的なもの）を作成することが必要と思う。 →詳細に基準を作りすぎると企業の負担増となることが懸念される。 　企業内実習（インターンシップ）で技術的なものを取得してほしい面はあるが、重要なことは将来進もうとする職業観について身をもって体験してもらうことを必要とする。 →設計の評価としては、実務能力的な部分に重きを置く。デザインと実務能力向きの２つのタイプにどうしても分かれてしまう。能力面で評価する傾向であるため、真面目に遅刻しないなどだけでは評価をしない。この評価表で評価するには難しいと思われる。 →今年度は必要な部分の改善点は行われている。来年度、実証をしながら各部会で改めて評価表を見直す方向で進める。 　来年度の実証に関係する様式は、本日のこれらの様式を使用し、改善点等などがあれば、反映し修正をかけていくこととする。 （２）平成 29 年度の方向性の説明が行われた（配布資料：平成 29 年度デュアル教育実証計画参照）。 【設計】 ・８～９月の期間内（１・２年生）で２週間（各約 96ｈ）企業内実習を行う（例年通り）。来年度は学生数も増えるため、企業の負担増を抑えるため分けで実施することを考え、新たに２～３月の期間内（１・２年生）で２週間（各約 96ｈ）の企業内実習を行うことを考えている。 【施工】 ・従来通り、４～７月の期間内（２年生の前期）で 15 週間・毎週１回午後（約 60ｈ）、10～１月の期間内（１年生の後期）で 15 週間・毎週１回午後（約 60ｈ）、夏休み期間内（１・２年生）で１週間（各約 56ｈ）の企業内実習を行う。 【マイスター】 ＜大工＞ ・新たに取組む期間：４～７月の期間内（２年生の前期）で 10 週間・週２回（約 160ｈ）、10～１月の期間内（１年生の後期）で 10 週

	間・週２回（約 160ｈ）を考えている。しかし、２年生の４月から開始の予定の部分は、文部科学省との契約時期によって変更する。 ・夏休みのかみかわ木造を従来通り３泊４日で行う。 ・４月からの部分は初の取組みであるため、受入れ先企業等の問題も含めて２～３月で考えて行きたい。 ＜左官＞ ・期間変更：８～９月の夏休み期間内（１・２年生）で４週間毎日（各約 160ｈ）を考えている。 来年度は、特に設計部会は検討する必要があるため、事業開始早々に会議を開催し進めて行く。他の施工部会とマイスター部会は、実証後に会議を開催して精査・検証する方向である。その際に、評価表についても合わせて精査する。 本日はありがとうございました。この会議をもちまして本年度の活動は終了となります。との言葉で会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	デュアル教育推進会議（第４回）
開催日時	平成 29 年３月２日（木） 13：30～15：30（２ｈ）
場所	福岡建設専門学校　会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、吉川隆治（計２名） ②オブザーバ ・赤松有希（計１名） （参加者合計３名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・来年度以降に向けた汎用性を見据えた地域版の実証の企業内実習を実現するべく、福岡地域における現状の把握と確認を目的とする会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年３月２日（木）13：30～15：30 会 場：福岡建設専門学校　ミーティングルーム １．開　会 ２．議　事 （１）平成 28 年度事業計画の説明 （２）平成 28 年取組活動概要の説明 （３）平成 29 年度活動に向けて ３．その他　事務連絡等 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・平成 28 年度事業計画書 ・平成 28 年度専修学校デュアル教育推進事業活動報告書

	【内容】 １．開　会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第４回のデュアル教育推進会議が開催された。 ２．議　事・・・ 　以下、配布資料の確認後、次第に沿って進められた。 （１）平成 28 年度事業計画の説明が行われた（配布資料：平成 28 年度事業計画書参照）。 ・専修学校版デュアル教育推進事業の先導的な取組みを行い、ガイドラインの作成の委託を受けている。 ・３年計画で実施している。 →建設分野は日本工科大学校が窓口で行っているということですね。 ・本事業は異形分野の全国で６団体が受けている。当校では建設分野として取組んでガイドラインの作成をはじめている。 ・違う地域の専門学校と連携して取組んでいる。福島の専門学校は設計分野で参加していただいているといった説明が行われた。 ・ガイドラインの内容の説明が行われた。企業の効果・メリットをはじめ事前指導、実施中の指導、実習後の指導等といったツールの作成をしている。本年度は、施工や大工・左官業といったものがある程度できあがった。来年度の平成 29 年度は設計を中心に行いつつ、施工、大工、左官については、作り上げた教育支援ツールを活用して実証・検証していく。 （２）平成 28 年取組活動概要の説明が行われた（配布資料：平成 28 年度専修学校デュアル教育推進事業活動報告書参照） ・就職の際のミスマッチがあり、それを無くすためには、本当の仕事内容が分かるように企業内実習が必要となると考える。 ・企業にとっても若手の社員の指導者教育も兼ねることができる。施工は、監督業を目指す学生については、４カ月間週１回建て始めから完成までの流れが体験できる。 ・大工などは長期になると現場が異なるため、１ヶ月程度の短期集中的に行うこととしたが、学校の教育課程との兼ね合いがある。 ・設計は夏休み期間中に単位認定として行う。福島では来年度１週間という期間で実施する予定である。 ・協会等から企業を紹介してもらい、その後学校からアプローチする

	業界団体との関係を作り上げる方向で進めて行く考えである。 →その方が取組みやすいと思える。 ・実習後に一皮むけて成長できていたら良いと思われる。 ・建設分野は安全面が第一のため、この度は安全チェックリストを作成した。 ・評価は単位認定を行うことが必要であり、企業側からも評価してもらうチェックシートを作成した。 →企業も学生の評価をするということなのか。 →教員とは違う視点で評価してもらうが、企業の負担にならないようにあくまでも参考評価とするチェックシートである。 ・企業内実習は無償で行う。本来の専門学校の目的であることを考えて無償とする。 ・建設分野では、特に設計関係は守秘義務に関わるものがあるのを注意する。他の分野においてもスマートフォンで勝手に撮ることを注意する。 （３）平成 29 年度活動に向けて 以下の意見交換が行われた。 ・来年度の取組みとして、新たに第三者評価と中国・九州のいずれかの地域の専門学校を連携校として参加を募っている。九州地域では御校に参加していただきたい。 →参加する会議は定期的になるのか。 →各部会年間２～３回程度を予定している。委員としての参加会議は推進委員会と他の部会への参加となる。 →推進委員会の他としては施工部会が当てはまる。 ・インターンシップは行っているのか。 →実施しているのは現場研修として見学会的なものはあるが、学校としては資格対策が主である。 →少しの期間でもインターンシップを考えてほしいと思われるがどのような考えを持っているのか教えてほしい。 →マッチングの話は良く出てきているため、必要と考えてはいるが、企業の受入れ体制の問題もある。インターンシップの人数はどの程度で実施しているのか。 →６～８人／回ぐらいである。希望者を募り、学生に対して学校がフィルターをして行っている。 →１学年の対象人数が 60 人程度と多い。現在は、企業へ負担を考え

	て現場見学としてお願いしている状況で、学生に平等の機会を与えている。 　学生に見せたい工程の動きの現場があるといった話は企業から情報をいただいたりしながら、タイミングが合えばお願いしている。 　色々なコースが分かれていればある程度の少人数になるのだが、現時点では学校のカリキュラムのこともあるため、どういった形で携わることが良いのか学校内で検討する必要がある。 →大人数の場合においての検討も必要である。このような福岡地域の情報をいただきたい。連携校ということでお願いする。 →夜間の学生を見ると、昼間建設分野で働いて夜学習している。このような姿が本来のインターンシップではないかと考えはじめた。 →昼間の学生だけがメインでは無い、夜間にも学生がいるという視点も大事なことと思われる。 →インターンシップを取入れるためには、色々な時間帯で受講できる形態を提供できることが望ましいと考える。例えば、設計は昼間には必ず事務所に居てほしいという希望がある。 　本事業のガイドラインは、皆さんが活用できる汎用性のものが求められている。本日はありがとうございました。来年度以降、また参考意見を色々とお聞きします。との言葉で本会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	施工部会会議（第１回）
開催日時	平成 28 年 12 月 21 日（水） 17：30～19：30（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、田中政人、中農一也、難波利行、増田和仁、森本徹之、吉川隆治（計７名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計８名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・専修学校版デュアル評価に関する施工部会の取組む方向性の確認等を目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 28 年 12 月 21 日（水）17：30～19：30 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．委員紹介 ３．議　　事 （１）現在の取組み状況（報告） （２）施工部会においての検討 ①企業実習の意義 ②実施上の課題 ③課題に対する対応策 ４．事務連絡 （１）次回の施工部会会議日程 １月 16 日（月）　17：00～19：00

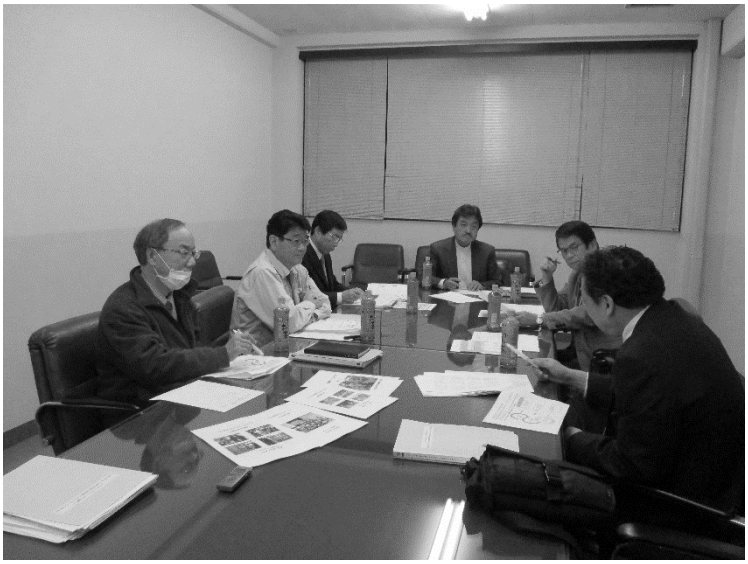
	（２）その他 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・インターンシップ：現状の流れ 【内容】 以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。 １．開　会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第１回の施工部会会議が開催された。 ２．委員紹介・・・ 　委員紹介が行われた。 ３．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）現在の取組み状況（報告） ・経営理念と連携体制の説明が行われた（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」３～４ページ参照）。 ・「即戦力」が身につくインターンシップの現状の取組みについて、次の説明が行われた配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」５ページ参照）。本校は、「鉄筋コンクリート」と「鉄骨構造」のインターンシップを実施している。全３回、通年型は前期と後期それぞれ半年間毎週木曜日に実施、サマーインターンシップ（夏季集中型）は実質７日間で実施、ほとんどＲＣ系の実習である。１年次の夏から始めて、１年次の後期、２年次の前期に行っている配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」６～７ページ参照）。 　インターンシップの状況報告として報告書にまとめている。その他、造園系のインターンシップが２～３月に入っている。 　場所の選定は、講師が実施の２～３カ月ほど前から調べている。その後、協会に相談する。企業への申し入れは協会からしている。学校から直接企業へ申し入れは行っていない（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」８ページ参照）。 　候補地探しは学校、申込みは原則協会、実施準備は受入れ先企業と学校で行うなどのインターンシップの業務を分けて行っている（配布

	資料：「インターンシップ：現状の流れ」９ページ参照）。 　インターンシップの前期と後期の取組み状況であると写真の解説が行われた（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」10 ページ参照）。 　最終的には報告書としてまとめ、次につなげていくように取り組んでいる。 （２）施工部会においての検討 　企業内実習をする上で委員の方々からそれぞれの検討課題について意見を聞きたい（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」11 ページ参照）。 　①企業実習の意義 ・学生の意義としては、就職する際にミスマッチがない。現場に出ると現場監督や職人さんのやることが分かる。企業側は、良い人材確保ができる。現在はなかなかできない。 →面接だけでは分からないことがインターンシップで分かる。 →技術をつけるためにも現場を知ることで良いと思われる。コミュニケーション能力も身に付けられれば良いと思われるが、短い期間では難しい。 →賃金についても事前に知ることで我慢ができる。実情を教えることができる。 →業界の生の声が聞ける。 →実際に、実務を経験させることが重要である。職人技を間近で見ることが大事である。 →弊社ではマニュアルを作成しているので特に問題はない。測量はさせた方が良いと思う。機会が高価であることをはじめにしっかりと教えることが必要である。道具を大事に扱うことに繋がる。 →学生に興味があるものでないと面白く思えない。 →事前研修を受けるようなもの、素人より少しでも技術を学んでいれば良い。 　②実施上の課題 ・学校の課題としては、インターンシップ先としての現場を見つけ出すことが一つ。 ・短期過ぎるものは止めてほしい。２日間程度のインターンシップの受入れの話も受けたが邪魔なだけである。

	学校として安全教育をしっかりとしてほしい。御校ではないが、ある学校ではインターンシップの実績のみがほしいのか２日間の単発として学生を送って来た。安全教育など何も行われていなかった。短くても必要である。 →現在のインターンシップの期間はどうか。 →４カ月程度は５階建て程度であれば良いが、それ以外の大きなものは現場が動かない。経験できる現場のタイミングが合えば良いと思われる。 →１ヶ月連続はどうか。他のマイスター部会で職人として長期間が居る事が望ましいと意見が出たがどうか。 →職人は良いが、現場監督が困ることになる。躯体業と設備業の職種の職人毎に気性が違うため、連続は避けた方が良いと思う。 →１年通しはどうか。 →長すぎるのも困る半年程度が望ましい。現在の期間が望ましい期間と思う。 ・現場の見学会になってはいけない、学生に興味を持ってもらうような、実務を経験させる現場を用意する。 →単なる見学会になると業界が面白くないと感じる。施工の魅力が無くなる。 →見学会は素人向けである。プロを目指すのであれば見学会のようなものは避ける。 ・受け入れ企業の現場の雰囲気が良いといけない。 ・企業側の課題としては、インターンシップにタイミングが良い現場があっても、工期、金銭的、現場の人数が厳しいところは避けるべきである。 ・トイレが汚いといけない。 →整理整頓ができている印象が良い現場にする。地域住民に不快な思いをなるべくさせない行動。騒音、振動、粉塵について配慮する。 ③課題に対する対応策 ・本校は良いが、単発的にインターンシップの実績のために来る学校は遠慮したい、学生に安全教育をしていない状況では困る。 →文科省からやり方とガイドラインを全国版として作成する事業を請負っているが何が重要なのか。 →学生を見て感じることは、学校で安全教育は最も重要なため、しっかりとしてほしい。目の行き届かないところで何かあったからでは遅

	い。社風としてピアスしている者は現場に入れない。 学校は学生に知識を与えてはいるが、学生には吸収して認識し、自覚するようにしてほしい。人間は忘れるものであり、見て書くという行動を取らせてほしい。 ・インターンシップの受け入れ企業はどういったところなのか。 →トップに理解が無い会社は無理と思う。業務に支障が無いという理解の上で行う。一つの部署だけではインターンシップの受入れはできない。 →企業の受入れ体制が整っていないと無理である。 →学生に教えるために４～５年の従業員が勉強する。 →受け入れ側が何を学生にやらせるのか。ということが問題の一つである。 ・長期の受入れは負担が大きいというが、アルバイトではどうか。 →一通り覚えるのに早くて１年、遅くて３年は掛かる。掃除ばかりさせられる状況になるため難しい。入社の確約ができている人材であれば可能である。 →就職が安定した状況でのインターンシップとして単位取得授業であれば可能ということか。 →学生が納得することが大事である。 →労働とする場合に有償・無償契約形態の検討が必要である。 →授業の一環のため、無償と考える。 ・企業側からのＰＤＣＡ評価が少ないと思われる。 →この形態では評価していない。最後に、所長・監督・携わった従業員・職人等と意見交換をしていることで評価している。就職もしていない卵である学生に対してＡＢＣなどの評価はしていない、発言録を取ることでそれを評価としている。 →アンケート調査をお願いしたいと思っている。 →職人の長である職長からの意見を聞き、それを評価とするのも一つの評価と思われる。 →インターンシップを通して施工会社に行きたいと思う学生が増えれば良いと思う。 ４．事務連絡 ・次回の会議開催は１月 16 日（月）17：00～19：00 です。 ５．閉　会・・・

（様式）

	本日はお忙しい中ありがとうございました。次回の会議もよろしくお願いいたします。との言葉で本会議散会となった。 【会議風景】 

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	施工部会会議（第２回）
開催日時	平成 29 年１月 16 日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、田中政人、中農一也、難波利行、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、吉川隆治（計８名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計９名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・専修学校版デュアル評価に関する施工部会として企業内実習を取組む上で必要不可欠な安全面等について会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年１月 16 日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．議　事 企業内実習の効果的な実施方法の検討 ①第１回会議の整理（報告） ②安全に関する点についての検討 ３．その他　事務連絡等 （１）次回の施工部会会議日程 ２月６日（月）　17：00～19：00 （２）次回会議について 第２回会議決定事項を情報共有した上で、第３回の概要説明。

	＜配布資料＞ ・議事次第 ・第１回会議「議論の整理」 【内容】 以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。 １．開　会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第２回の施工部会会議が開催された。 ２．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 　以下、配布資料：第１回会議「議論の整理」を基に進められた。 企業内実習の効果的な実施方法の検討 　①「第１回会議の整理（報告）」について以下の報告が行われた。 【企業内実習の意義について整理・報告】 ＜学生・学校＞ ・現場の生の声により、実際の姿を知ることで、就職の際のミスマッチが解消できる。 ・技術力・コミュニケーション能力が養われる。 ・仕事の嫌な面が事前に見える。　等 ＜企業・業界＞ ・人材不足の中、就職へつなげる機会となる。 ・学生の態度・能力を見極めることができる。 ・経験の浅い（社会人４～５年生）指導担当者のよい勉強の機会となる。　等 【企業内実習の在り方について整理・報告】 ＜適切な実習の期間について＞ ・地べた周りから内装までの一連の流れを体験するには、４ヶ月程度で毎週１回の現場実習が必要。 ・１～２ヶ月は一通り覚えることは現実では無い。また、職人には向いているが、監督業は行程が分かりにくい。一通り覚えるのに１～３年程かかるため現実的ではない（個人差あり）。　等 ＜適切な実習現場について＞ ・興味・関心がある現場が望ましい。 ・行程の進捗を見極めながら、タイミングよく実習をする。

	・プロを目指す学生には見学的な実習は避けるべきである。　等 【企業内実習の課題整理・報告】 ＜学生側＞ ・安全に関する指導をしても認識の域まで行かない。 ・企業側の評価をどのようにするのか。 ・傷害保険等の問題（事故対応の明確化）。　等 ＜企業側＞ ・企業のトップに理解がないと受入れは難しい。 ・受入れ態勢が整っていない企業では効果的な実習は難しい。 ・入社の内定者でないと長期の受入れは難しい。 ・施工会社が魅力的となるような現場の継続的な提供の工夫。　等 ②「安全に関する点について」意見交換が行われた。 本日は、②の安全に関する点について検討、企業による学生の評価について特にご意見を伺いたい。 以下、安全に関して意見交換が行われた。 ・安全指導について学校では、インターンシップの前に参加学生のみ集めて、１コマ 90 分掛けて実施している。 →内容を簡単で構わないので教えてほしい。 →基本的には、服装や態度、現場の作業員の指示を守ること。入所者教育について現場に合わせて従う事としている。 →労働調査会の「新入社員教育用テキスト」が社員にも渡しているが、学生レベルとしてもちょうど良いと思われる。服装から４Ｓや５Ｓといった基本的なものが心構えから分かり易く記載されている。 事故・災害が起こるのは、「物的要因」や「人的要因」、「金的要因」があるが、その中でも「人的要因」が最も大きい。躾関係を含めその人の資質をどのように上げるのかが問題である。 特に人間特性を先に知っておく必要がある。人間は「危険警鐘する」、「思い込む」、「場面誤導をする」ことと、学生には「無知無経験」などといった事があるのを知っておく。 60%以上はヒューマンエラー（「人的要因」）が先にあり、それが「物的要因」や「金的要因」に繋がっている。 よって、「人的要因」を排除する方法を取ることが最も良いと思われる。チェックシート等がこの書籍の中に入っているので、人間特性の学習について参考としてはどうか。 →学校としては、始まる前に学生を集め、求められるような指導がで

	きてはいないと思われるが、基本的な対応をしている。 →安全に関する教育は反復研修である。一度だけでは身に付かない。行動としてついていかない。 →動作や行動について反復していかないと身に付かない。 →事故が起きると動揺している。 →御校の学生は指導するときちんと守っている。指導しても守らない人間もいる。 　例えば、安全帯一つにしてもお腹に巻いている人間が多い、きちんと腰骨に巻かないといかない。70kg ほどの人間が１．５ｍの高さから落ちてぶら下がると 900kg ほどの衝撃がお腹にかかり、腸が切れ、内臓破裂などといった事故に繋がる。 →挨拶をはじめ、声を大きく出すことが最も大事な基本であるため、この点はしっかりと指導してほしい。 →学生の新規入場者教育において、日報等とは別にその日の体調等を含めた安全等のチェック資料を使用しているのか。 →実施している。 →実際の現場において、職長も同じように職人に対して厳しい指導をしている。 →学生が体調不良を訴え、現場を途中退場する場合がある。日々の生活の面での体調管理が必要である。 →学生にはインターンシップの期間はアルバイトを中止するように指導しているがなかなか難しい。 →アルバイトには経済的な部分が絡むと難しいと思われる。 →学費に関係している部分もある。 →現場では、ＫＹ活動（危険予知活動）＋リスクアセスメント（事業場にある危険性や有害性の特定、リスクの見積り、優先度の設定、リスク低減措置の決定の一連の手順）。４年前から厚労省がリスクを数値化する推奨をしている。 　10 年近く掛かって、何とか職人に定着しつつあるが、職種ごとに当てはまるようにしなければならなく、会社には様式がある。10～15 分程度の時間をかけて行っている。企業によって時間のかけ方が違う。 　ただし、職人は頭で考えず、身体で覚えてきたためにどうしても時間はかかる。 →安全は一言では難しい、一度マニュアルを作成して学生の反応を見るのが一番だと思う。机上だけは頭に思い浮かばない。 →安全が全てに優先する。120 年ほど前にＵＳスチールの有名な話で、

	第一に「安全」、第二に「品質」、第三に「生産」をすると、安全で製品が良くなった。 →学校は安全の基本的な部分を指導してほしい、実際の安全はインターンシップ受入れ企業が行う。 →事故対応に注意してほしい。例えば、目が届かないところで学生に事故が起こった場合には、直ぐに救急車を呼ばずに、現場の職員に声をかけるようにしてほしい。現場の事故対応に関しては職員に教育している。勝手に連絡を入れると警察が事件性有りと判断して出動してしまう。 →あるインターンシップ期間中に、学生が切り傷程度（ヨウドチンキ対応程度）の傷をしたことに対して、慌てて職人が連絡したために、事件性が高いとして警察が出動した例がある。 ・企業内実習の評価は企業側の意見を一方的に行うのか。 →やはり、企業内実習となると企業の評価が気になる。 →学生が日報を記入していることに対して確認をしてもらう。 →現場が大変と思われる。 →企業が評価するのは難しい。動きだけで判断ができない。習得する知識も必要である。 →学校は成績表の有・良・可であって、付き添いの先生が評価するが、果たしてそれが正しいのかの判断を企業側に求めて行きたい。 →それは必要と思う。例えば、動きが悪いが、図面を読む力があるなどの評価をどうするのかという点においては、現場監督に聞けば良い。 　企業側の評価に関しては、全て企業の評価を求めるのではなく、学校が学生の評価をしたことに対して意見を求めてもらう方が良い。 →指導する社会人４～５年生にとって見て評価することが勉強になるが、そのことの継承が必要と思われる。学生の評価は企業と学校が合致した意見ということが学生に向けることができるのが望ましい。 →受入れの現場に、理想とする４～５年生が居れば良いが、現場によっては 10 年以上しか居ないという技術レベルが違う現場もある企業事情は理解してほしい。 →簡単な評価・チェックシートがあれば良いと思われる。技術的な面は仕方がないが、仕事に対する姿勢などのものがあるのが望ましい。 →最後に簡単なチェックするところがあれば良い。 →安全に関しての記入欄があれば良いと思われる。 →「安全・品質・行動」といった必須項目の記入欄があれば良いと思われる。

	→日報のＡＢＣ評価をかける。 →インターンシップ中についてはどうなのか。 →学生の日報についてはファイルに綴じて見ている。学生も見ることができるため、学校側だけではなく、企業も見ているということで学生の意識を変えて行く。 →企業と学校で意見交換をしていることが学生に分かれば良いと思っている。 →例えば、設計を希望する学生も現場を経験することが大事である。 →勉強することが多く見つかる。 →学生がインターンシップに参加することによって、実際の現場の経験をすることにより、将来を見直す機会となる。 →設計事務所のインターンシップでは、学生が帰った後が本来の仕事に取組めるということを学生に言ってもらうようにしている。 本日は貴重な意見をいただきまして､誠にありがとうございました。これらのご意見をまとめ、２月６日（月）に安全チェックリスト、評価様式を作成し、検討したいと思います。 これをもちまして、第２回の施工部会会議を終了します。とのことばで本会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	施工部会会議（第３回）
開催日時	平成 29 年２月６日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、田中政人、中農一也、難波利行、増田和仁、毛利幸弘、森本徹之、吉川隆治（計８名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計９名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・第２回推進会議の整理と学校加入の保険内容、日報・安全・評価様式の加筆・修正等についての確認を目的とする会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年２月６日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．議　事 （１）第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告 （２）傷害・賠償保険（学校が加入している保険、建設業協会が加入している保険）について （３）建設現場実習・安全チェック表について （４）インターンシップ研修日報について （５）企業内実習・評価表について ３．その他　事務連絡等 （１）次回の推進委員会会議日程連絡 ２月 20 日（月）　17：00～19：00

	＜配布資料＞ ・議事次第 ・第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告 ・傷害・賠償保険（学校が加入している保険、建設業協会が加入している保険） ・建設現場実習・安全チェック表（案） ・インターンシップ研修日報（案） ・企業内実習・評価表（案） 【内容】 １．開　会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第３回の施工部会会議が開催された。 ２．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告が以下のように説明と意見交換が行われた（配布資料：第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告参照）。 【企業内実習の有償か無償について】 　建設関係の企業内実習は無償とする。 【理由】 ・建設関係は他の職域と違い、賃金を支払うような実習内容ではない。企業にとっては逆に手間がかかり、負担となる。 ・一つの学校内で、有償と無償が入り混じった実習を行うと、学生間に混乱をもたらす。 【例外として取り扱う場合】 ・内定が決まった（＝就職先企業が決まった）学生がその企業に入社前研修を兼ねて長期の実習を行う場合。 ・企業が実習募集を行い、好意で交通費のみを支給する場合。 【その他、保険の取扱い】 ・無償で実習をするため労災保険は適用しない。 ・学校がインターンシップ活動賠償保険や学生災害傷害保険に加入する。 →保険の取扱いで、学生は労働者ではない、労働者としてはある事業所に 100 日以上雇用されていなければならない、賃金台帳と出勤簿が

	必要である。労災保険という単語が出てくること自体が間違いである。「無償で実習をするため、労災保険は適用しない。」の部分を「学生は労働者ではないため、労災保険は適用できない。」に変更するべきである。 【守秘義務・機密保持義務の指導について】 職種に多少の差はあるが、事前指導の一環として守秘義務・機密保持義務の指導を行う必要がある。また、確約書等に守秘義務の文言を入れておく必要がある。 【設計の場合】 ・公的な仕事の情報を漏らすと大きな問題になる。 ・公共事業の測量で地元の学生が「ここに道路ができるらしい」などと言われると問題になる。 【施工の場合】 ・あまり機密レベルは高くないが、事故等があったときに勝手に外部に情報を漏らすと問題となる。 【大工・左官の場合】 ・建設現場での活動なので、機密保持に関することはあまりないが、リフォームの場合など、顧客情報を漏らすと問題となる。 【最近の学生への危惧】 ・スマートフォンなどで実習現場の様子を写真に撮り、フェイスブックなどで流されると、問題が生じる。 →施工部分の「～事故等があったとき～」の部分を「～事故・災害があったとき～」に変更するべきである。人を巻き込む恐れもあるため変更した方が良い。 （２）傷害・賠償保険（学校が加入している保険、建設業協会が加入している保険）について説明と意見交換が行われた（配布資料：傷害・賠償保険（学校が加入している保険、建設業協会が加入している保険）参照） ・インターンシップは、学校が加入している保険を適用する。 ・現在実施しているサマーインターンシップ（１週間）の行きがけは通学になるのか。 →通学となる。特約を入れないと適用されない。 →通年のインターンシップは、活動中ということで適用ということになる。 →検討する必要がある。

	（３）建設現場実習・安全チェック表について説明と意見交換が行われた（配布資料：建設現場実習・安全チェック表参照） 以下、変更点について確認が行われた。 　この作成した安全チェック表を使用した方が良いのか。 →そこまで時間を掛けるものではないためこの程度の内容は実施した方が良い。建設現場で多いのが、墜落・転落・災害である。現場では保護具など装着はしているが使ってはいないことが多い。 →使い方が間違っている場合が多い。 →学生が勝手な行動をとらないようにするためのものでもある。 →何かあった場合は勝手に通報するのではなく、まずは、現場の主任などの実習指導の監督員に報告するようにする。 →健康状態において、持病などは学校で事前のヒアリングを行う。 【変更点】 ・実習の指導者名→実習の監督員名に変更。 ＜保護具・服装・携行品の点検について＞ ・②保安帽→保護帽に変更。 ・不合格後の補充合格→改善合格に変更。 ＜危険回避の再確認について＞ ・③に「安全帯を必要に応じて使用すること」を追加 ・⑤「小型車量系建設機械の運転はしないこと」→「小型車輌系建設機械等の有資格者（＝特別・技能講習等のもの含む）であったとしても、監督員の許可なく使用しないこと」に変更。 ・⑥「スコップやつるはし等の道具等を使用するときは、道具の欠陥を使用前に点検すること」→「道具等を使用するときは、道具の欠陥を使用前に点検すること」に変更。 ・⑨「番線、鉄筋、木材を持ったときは、電線に注意すること」→「番線、鉄筋、木材など長尺ものを持ったときは、電線に注意すること」に変更。 ・⑩「指示されたとき以外は、足場、脚立には上がらないこと」→「指示されたとき以外は、足場と高所に立ち入らないこと」に変更。 ・⑪「危険な状態を発見したときは、直ちに通報すること」→「危険な状態を発見したときは、直ちに監督員に報告すること」に変更。 ＜実習に臨む心構え等に関する再確認＞ ・指導者→監督員に変更 ・現場係員→現場監督員に変更

	（４）インターンシップ研修日報について説明と意見交換が行われた（配布資料：インターンシップ研修日報参照） 【変更点】 ・実習場所（企業名等）の記入欄を追加。 ・実習工期の欄を追加。 （５）企業内実習・評価表について説明と意見交換が行われた（配布資料：企業内実習・評価表参照） ・評価項目について、企業内実習（インターンシップ）は学校評価が前提としているため､その評価項目について意見を求められても困る。挨拶や言葉遣い程度の評価はできるが。 →すべてに対して評価はできないと思われる。評価できる部分のみ記入できるようにしてほしい。 →「優」と「良」の違いが曖昧な部分がでるため､「良」を削除した方が良いと思われる。 ・①企業ができ得る範囲内で評価する、②企業評価後に学校評価として記入する。 →前回の会議では、学校が評価したものに対して企業担当者が確認する合同評価の流れであったが、この会議では順番が逆になっているのはなぜか。企業が先だと評価するのは難しいと思われる。 →そうなると評価者が学校の教員となる。現場の意見が必要である。 →アドバイスの箇所に企業にコメントを入れるのではどうか。 →管理職クラスであればできるが、実習の指導員クラスは難しいと思われる。 →学校が先になると企業の実習指導員がその評価に対して流される懸念がある。 →企業担当者がある程度評価した上で、学校の教員が最終的に評価をまとめる。 【変更点】 ・評価者氏名→監督員氏名に変更。 ・「優・良・可・不可」の４段階評価→「優・可・不可」の３段階評価に変更。 ３．その他　事務連絡等 次回の推進委員会会議日程連絡　２月 20 日（月）17：00～19：00

	本日はありがとうございました。今回で本年度の施工部会の会議は終了となります。 次は推進委員会会議で本年度の会議が全て終了となります。 よろしくお願いいたします。との言葉で会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	マイスター部会会議（第１回）
開催日時	平成 28 年 12 月 19 日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・井上雅二、片山俊行、嶋田　聡、高嶋靖生、高原一岐、 中農一也、長谷川武義、森本徹之、吉川隆治（計９名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計 10 名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・専修学校版デュアル評価に関するマイスター部会の取組む方向性の確認等を目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 28 年 12 月 19 日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．委員紹介 ３．議　事 （１）現在の取組み状況（報告） （２）検討事項 ①企業内実習の意義 ②企業内実習の課題 ③今後の充実に向けての方向性 ４．事務連絡 （１）次回会議日程　１月 23 日（月）　17：00～19：00 （２）その他

	５．閉　会 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・かみかわ木造インターンシップ報告書 ・インターンシップ：現状の流れ 【内容】 以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。 １．開　会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第１回マイスター部会会議が開催された。 ２．委員紹介・・・ 　委員紹介が行われた。 ３．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）現在の取組み状況 　現在の学校の取組みについて次の説明が行われた（「配布資料：かみかわ木造インターンシップ報告書」参照）。 ・各企業からのインターンシップではなく、各地域の大工さんに指導をお願いしている。 　今年度のかみかわ木造インターンシップは終了したが 12 年目になり、９月の連休を利用して行っている。 　山奥のため、老人の方々のためのバス停や花壇を神崎の土建組合の支援をいただきながら行っている。 　近年では、当校でだけだは無く、企業や高校にも参加して、例年 20 名強参加してもらっており、この３年は町中で行っている。古民家改修を同時進行で実施している。 　次に、インターンシップの現状の流れについて次の説明が行われた。 　本校の方針として、即戦力制度、連携体制（産官学）について説明が行われた（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」３～４ページ参照）。 ・２年間で学生は２回経験をする（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」５ページ参照）。

	・木造の資格取得、作業内沿って内容の説明が行われる（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」６ページ参照）。 ・実施委員会の作業内容検討を行い、地元との産学連携で環境の内容に沿って行っている（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」７～９ページ参照）。 ・企業内実習をする上で必要性や方向性を委員の方々からそれぞれの検討課題について意見を聞きたい（配布資料：「インターンシップ：現状の流れ」10 ページ参照）。 （２）検討事項 ①企業内実習の意義 ・左官、大工の仕事に興味・関心を持ってもらえる。 →工業高校の学生においては、左官業の仕事が分からないだけではなく、左官自体を知らなかった。 業界として問題であり、人手不足でもあることから、左官の仕事を一人でも多く知ってもらえるよう取組みを始めた。本事業に参加することでそのきっかけ作りができる。 ・学生には社会に出て仕事をするとはどういったものなのかという実際の仕事に取組む姿勢の体験、現場の雰囲気を感じてもらうことが第一で、現場の人間関係を通して基本的な現場の流れなどを認識してもらう。技術を教えることに特化してはいけないと思う。 →過去の学生のインターンシップを経験したアンケートの声から、「建築の知識が無い」、「自分の至らなさを知った」、「社会人として守るべきことができていない」といった声からインターンシップには社会人としての心構えができると思われる。 →学生に技術力を求めることは無理であるが、現場の雰囲気を知ってもらうことが将来に向けて重要なことと思う。 ②企業内実習の課題 ・古民家改修の現場は現在ないのか。 →古民家改修等のような物件は今のところは見当たらなく、模索中である。 潰す（廃棄）する物件が多く、残すところは少ない。残したいと要望がある物件を汲みいれることになるが、学校では時間に余裕があるものでしかできない。 どうでもよい建物では良くない、また時間がない物件は工務店さんが手掛ける。

	→数年掛けて行う物件が見つかれば望ましいが物件が少ない。 →インターンシップの場所は姫路に限らずどこでも良いのか。 →どこでも良い。 →来年２月から１年ほどかけて、古民家改修を行う。たつので有名な江戸時代の古いソース工場を来年の秋に始める予定である。屋根の置き換え、部屋・壁塗りなどをするのでタイミングが合えば活用しても構わない。 　左官仕事の漆喰塗りや大工の仕事もあるため利用してもらっても構わない。 →街並み、景観などの勉強にもなる。 ・確認であるが、本事業は御校で実施するためのものなのか。 →本事業においては、まずは当校で取組み実施し、全国のどの専門学校でも活用できる、通用できるものにしていく事業で３年間掛けて取組んでいくものである。 →今はどのようなインターンシップが良いのかの議論で提案をいただいている。 →学生たちに教育する根本的な教育をするカリキュラムを作成する会議で、どのように教育していく事の内容と思っていたが今年はこの場所で行うという事になっている。 →教育カリキュラムを作成することにおいて学校の座学と実習とのバランスを作ることは一つの課題ではある。 　ただ、企業側から見て学生にとって望ましい実習内容（場所含む）を企業側の課題も含めてご意見をいただきたい。 →本事業の取組みは全国に反映していくものであるため、学生にとって意義があると思われることから議論を始めている。 ・組合独自としては携わっていない。ゼネコンに関わっている個々の会社で動いている。 ・古民家や文化財には学生は入れられない、何百年前のものを保存・修理等の技量に劣った人は入れられない。 ・インターンシップで何を教えて行くのか。何かさせても小学生レベルのものでしかない。ゼネコンの協力があれば可能と思われる。工務店クラスではダメと思う。 →学生には現場に何が必要であるのか、技術力を含め現場での所作などから入っていってほしい。 →２年ほど教えているが、今の学生のレベルでは即戦力ではない、職人の足元にも及ばないのが現状である。ただ、今まで教えてきたものに関しては身に付いている。コテ使いは高卒や大卒レベルより

	は良いが、技術力ではまだまだである。 →大工も同様で見習い工レベルである。 ・マイスター科を立ち上げる際に左官協同組合の皆さんに協力を仰ぎながら、望む人材を育成することから始めたが、５年の期間は必要で「無理なのでは」という声から始めた。 　当初のアンケート結果として、企業の 80%ほどは基本的には、職人の足元には及ばないものの、近くに置いても良いという結果になり、現在に至っている。 　２年間という短い中で、企業に喜ばれる人材育成を輩出するのがインターンシップの主旨である。 →もっと幅広く教育できないのか。 →卒業生に仕事内容を聞いたが、学校教育の内容は社会に出ると役に立っていないようだ。 →学校では教える限界がある。町場の仕事場をメインにして教えているが現場の雰囲気を経験する実習の現場が無い。 →現場に入る事によって、実際の仕事内容を経験することが必要。社会に出ると結局はじめからやることになることが多いため、経験によって左官や大工の仕事に興味を思ってもらうことが必要。技術は時間が掛かる。 →高等技術は現場で覚えることであり、技術力を養うインターンシップは無理だと思われる。 →学生にとって春休みや夏休みの長い期間に現場でアルバイト経験をすることが一番身になっていると思われるので、学校教育の間に組込むことができれば良いと思う。 　職人さんとのコミュニケーションを取ることをはじめ、自ら行動する必要があるため人間としても向上できる。 　学校では守られていて、危機感、緊張感が無いためどうしても甘えができるので長期間で実施することが必要と思われる。 →本事業のそのためにある。現在実施しているインターンシップの検証と長い期間のインターシップ（１～３カ月、それ以上の期間）のカリキュラムを作成することを目標としている。 →授業の中に取組でいく現場があるかどうか。 →今のインターンシップの問題点の抽出、町場のインターンシップを入れる。３泊４日は短いため、夏休みを使って長期のインターンシップが可能かどうかをこの先検証する。 →２～３日は見学にしかならないため意味が無い。 →学校で教えているものが望ましいが、なかなか現場が見当たらな

	い。現実に雰囲気を感じることを教えるインターンシップの場が必要と考える。 ・大工さんで長期に教えることができるのか。 →可能であるが、現場に１～２人である中においては２人程度であれば目が行き届くが、10 人以上の大人数となると難しい。 →長期の春休みか夏休みの期間を利用してプロの技を身近で体感することは必要と思われる。 →大工は機械を使うが、そこは学生には触らせられない。 →長期の場合には、職種毎に学生に対して有償・無償を考える必要がある。 →有償になると学生の心構えが違う。 →仕事に取組む姿勢の全体的な雰囲気を学ぶことができる。 →将来を視野に入れた修行的なことということで一般的なアルバイト料より安価にして行うことは問題が無いと考えるが、授業とした場合は別である。 →インターンシップは授業の一貫である。 →夏休み等の長期の場合は単位を与えられるのか。単位として与えられるのであれば、平日の授業を調整してはどうか。 →授業として行うのであれば良いと思うがどうか。 →他の施工部会についても同じように検討していく。３年次、４年次になった場合には、１年間のインターンシップ受入れはどうかということにもなる。 →インターンシップは長期で行い単位認定する方向で考える。有償・無償を含め整理していく。 ・長期を受入れる方向において課題は何があるのか。 →あいさつが第一。次に遅刻しない、遅刻すると来辛くなる。人間性、人間教育をしてほしい。 →１年生は人間性が分からない部分が多いため、１年生の夏休みに長期は難しいと思われるがどうか。 →例えば、一輪車が上手になると現場の職人も当てにしたりするため、学生も楽しいと思われる。 →やる気を持ってもらうことが必要。一つのことをやり遂げることに一所懸命すること。 　学校教育の中でカテゴリーを与えて終わるまで終了できないなど集中させる教育方法を学校に考えてほしい。 ・現場の特有ルール、安全性を認識すること、保険関係が考えられる。

	→保険はアルバイトでも掛けられる。 →インターンシップは学校の保険で適用できるが、受入れる企業側はどういう考えなのか。 →インターンシップの話をすれば受入れると思われるが、事故が起きた場合の考えが必要。対策をしっかり決めておく事が必要である。 →現在は必ず教員が連れ添っているが、この点も長期になると課題の一つに挙げられる。 ③今後の充実に向けての方向性 ・本会議において、長期インターンシップ実施の検討を進めて行く。来年度に長期のインターンシップを実施し、検証と精査を重ねていきたいため、次回会議ではやり方や時期的などをご教示いただきたい。 ４．事務連絡・・・ 次回会議日程　１月 23 日（月）　17：00～19：00 ５．閉　会・・・ 本日はお忙しい中ありがとうございました、次回もよろしくお願いいたします。との言葉で本会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	マイスター部会会議（第２回）
開催日時	平成 29 年１月 23 日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・井上雅二、片山俊行、嶋田　聡、高嶋靖生、高原一岐、 中農一也、長谷川武義、森本徹之、吉川隆治（計９名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計 10 名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・専修学校版デュアル評価に関するマイスター部会として長期企業内実習を取組む上で必要不可欠な保険等をはじめとした確認を目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年１月 23 日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．議　事 （１）第１回会議の会議整理（報告） （２）検討事項 ①長期企業内実習を実施する時期・期間 ②長期企業内実習を実施する方法（無償・有償、傷害保険、単位認定等） ３．事務連絡 （１）次回会議日程　２月 13 日（月）　17：00～19：00 （２）その他

	５．閉　会 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・第１回会議「議論の整理」 【内容】 以下、次第に沿って会議が進められ、意見交換が行われた。 １．開　会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第２回マイスター部会会議が開催された。 ２．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 以下、配布資料：第１回「議論の整理」を基に進められた。 （１）第１回会議の会議整理（報告） 【企業内実習で何を学ぶか、何を教えるのか】 ＜職業・職場への理解＞ ・現場の雰囲気を感じ、実際を知る。 ・職人は何を考えて仕事をしているかを知る。 ・現場の流れを理解する。 ・他人との関係（ネットワーク）の必要性を知る。　等 ＜自分への気づき＞ ・仕事ができないことを実感する。 ・自分の志望と実際の職場のギャップに気づく。 ・職人技術だけでは生活できないことに気づく。 ・学校（授業）と社会（現場）の違いを知る。　等 【どのような企業内実習が必要か】 ・長期の企業内実習が効果の期待ができる。 ・夏休みの現場でのアルバイト経験等が一番身に付いている。 ・２～３日の実習は仕事体験レベルに過ぎない。 ・学校では守られている分、甘えがある。　等 ＜長期企業内実習の課題＞ ・受入れ現場の有無。 ・職人２～３人の現場では、学生の受入が難しい。 ・職種によって、長期企業内実習の在り方や有償・無償等を整理する必要がある。一時期集中的に行うか年間定期的に行うのかでも違いがある。

	・傷害保険加入方法を整理する。 ・事故が起きた際の責任の所在を明確にする（協定書作成等）。　等 ＜学校の指導と体制の整備＞ ・社会生活上のマナーやルールを守る指導をする（特に挨拶、遅刻等）。 ・やる気、一所懸命さ、集中力を重点的に指導する。 ・授業で終わる（＝時間で終わる）指導から、課題解決で終わる場合の指導への転換、就業と直結するような取組みを行って欲しい。 ・現場のルール、安全衛生法違反などについて、企業と学校が協力して指導する。 ・長期企業内実習と単位認定、授業との関係を整理する。　等 ①長期企業内実習を実施する時期・期間について意見交換が行われた。 ・学生の実習度の時期はいつ頃から始めるのが望ましいか。 →学生は１年生の後半から受入れが望ましい。３級の技能検定が終了した後（３級は７月以降、２級は１月以降等）。 →学生は座学で左官の内容は理解しているのか。 →座学では建築全般で行っているため、左官の内容が分からない、実習の際に教員からの指導を含めて実施している。 →短期は左官の技術取得は難しい。長期になると付きっきりは難しい。何をさせるのか。掃除から入るものでもよいのか。 →現場の若い職員に工程毎に一連の流れを指導させる（見習い工と同じ扱い）。そうすると学生の意識が変わった。現場では、どのようなこともやらせることが良い。 →職人にインターンシップに来た学生を付けて、職人と同じことをやらせている。職人はなるべく年齢が近い若い職人。 職人と一緒に同じ内容の仕事をしている面白さや有意義さを感じ取ってほしい。やはり、実践が楽しいと思われる。 →インターンシップに来たら現場の職員全員で教える。業界に興味を持ってもらうようにしていきたい。 →実習内容の理想は職人と一緒に学ぶことができることが望ましいが、学校に求めるものはどういったものなのか教えてほしい。 →インターンシップで大工としてきた場合には、毎日したことを書かせている。最後にまとめたものを受入れ先企業の評価も含め、他の学生に向けて学校で発表する機会を与えてほしい。 →ひな形を使って欲しい。 →作業日報に書かれているの「できた」、「できなかった」などの問

	いかけ（意見交換）をすることが必要。 →積み重ねると良いものになっていくと思われる。実習のため、書面化していく方向性が重要と考える。施工部会同様に日報を作ことは好ましい。 ・受入れる側では長い期間毎日でも顔を出す方が良いのか。 →可能であれば長い方が良い、技術を含めた現場の勉強になる人間関係の構築ができる。教える職員も長いと工程を考えて対応できる。 →同じ現場で１ヶ月入れるかどうか分からない。ハウスメーカーのものであれば違う現場になる可能性が高い。１週間程度でも受入れ方法はある。 →組合ではどうなのか。 →組合や業界と協力していきたい。 →現場の場所等を考えると組合員に声を掛けて色々な現場で対応してもらっている。 →左官業は現場の期間が長い。 →住宅メーカーの左官は来ても意味がないが、野丁場の現場であれば１ヶ月は受入れることができる。一連の流れは体験できる。 ・一度に受入れる現場は何人までなのか。 →受入れる企業によって異なるが１～２名程度である。 →インターンシップの中身を職人がすることをやらせている。ゼネコン側とすると現場監督業も覚えた方が良いという考えもある。「安全管理」、「工程管理」、「品質管理」、「原価管理」といった勉強も長期であれば考えているが。 →マイスターの内容については、一連の作業をさせることが最も重要と考える。 ・受入れ先の企業によって変わるため、ある程度のパターン（カリキュラム）を明確化にし、それを提示して行った方がよいのか教えてほしい。 →カリキュラム等は無い方が好ましい。現場の流れに沿って体験する、学校で教わらないことが経験できることが最も重要と思われる。 →現場への確認の頻度はどの程度なのか仮に１ヶ月として場合のことを教えてほしい（日報チェック等含む）。 →学生と職人のことを考えると毎週１回来るのが望ましい（例えば、金曜日等）。

	②長期企業内実習を実施する方法（無償・有償、傷害保険、単位認定等）について意見交換が行われた。 ・左官はアルバイトとしても考えられる。大工では考えていない。単位認定という意味では有償でなくても良い。あくまで　授業の一貫である。 →学校で加入している保険は適用できない。 →アルバイトとなると雇用契約となるため、企業の保険に加入になる。仮に学生がケガした場合には、会社の労災を適用する。 →長期という経験が今までには無い。書類的な部分をゼネコンに対して学校との書類を交わした内容を理解して適用する。但し、これは短期の場合であり、長期の場合には前向きの検討はするものの、ゼネコンに確認をするべきことである。 建設業協会が個人個人に保険をかけている。 →労災に関しては、２～３人の職人のところに預けると職人側か個人のどちらかの適用になる。 →１ヶ月であれば労災を考えるが２～３日は考えない。 →任意で加入する保険はある。 →社会保健に加入していないと現場に入れないところもある。学生自身には組合の保険に加入してもらうことが良いと思われる。 →学校の保険は労災とは異なる。 →保険の金銭的な部分は学校負担など検討が必要である。最低金額で、3,000 円／月である。 →学校で加入している保険で対応できれば良いと思われる。 →インターンシップの学生の保険についてはどうか。 →主に受入れ先企業の機械を壊したものの保険が大きい、ケガなどは授業中のみの適用となっている。 →インターンシップは授業であるため、学校の授業として学校の保険で対応するべきである。 →有償扱いになると受入れ会社の保険適応となるのでは。 →有償・無償で判断は別として、ドイツのマイスター制度については１～２年間に丁稚奉公をした後、給与等の金銭は発生するものの、最終的には学校に戻り研究論文を作成して発表する。 →授業の一環であるため前提条件としては無償であると思われる。前期後期の授業の中でどのように対応することとなる。 →夏休みに単位認定をしてサマーインターンシップをしているが、無償である。 →ゼネコンへの安全対応に関して問い合わせてみてはどうか。来年

	度に実施を考えているが。 →法律的に問題が無ければ良い。 →学生がどの範囲まで現場にいけるかということが重要である。車で来るとなると労災になるため、基本的には電車移動となる。但し、色々な事情がある部分は検討する。 →朝の５時や６時集合などもある。 →学生は直接駅や会社に集合することが望ましいが、学生がどこから来ているのかということになる。 →労働基準局に労災を聞いてみても良いかもしれない。難波委員に意見を聞いても良いと思われる。学校の加入保険を見える化にする。 ・有償は労災を考えるが、無償は難しい。 →ゼネコンは関わりをはっきりしないと協力が難しい。 ・マイスターの場合でも建築士の試験資格を受験する関係上、授業を受けないといけない内容があるものを調整する必要がある。インターンシップの内容を座学に置き換えることについても学校全体として単位認定を含め考える必要がある。 次回は、保険の問題をはじめ、学校のかかわり方、組合の受入れ先を探す企業内実習を行う一連の流れ等を第３回会議の２月 13 日（月）にまとめて会議内容としたいと思います。本日はありがとうございました。との言葉で本会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	マイスター部会会議（第３回）
開催日時	平成 29 年２月 13 日（月） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校日本工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・井上雅二、片山俊行、嶋田　聡、高嶋靖生、高原一岐、 中農一也、長谷川武義、森本徹之、吉川隆治（計９名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計 10 名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・専修学校版デュアル評価に関するマイスター部会として長期企業内実習を取組む上で、その期間や時期、各様式等の確認を目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年２月 13 日（月）17：00～19：00 会 場：専門学校日本工科大学校 会議室 １．開　会 ２．議　事 （１）第２回会議整理・報告 （２）第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告 （３）検討事項 ①長期企業内実習を実施する時期・期間 ②長期企業内実習の全体の流れ ③安全チェック、日報及び企業評価のあり方 ３．事務連絡 ・第３回推進委員会会議日程 ２月 20 日（月）17：00～19：00

	５．閉　会 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告 ・第２回会議「議論の整理」 ・学校が加入している傷害・賠償保険 ・マイスター学科の企業内実習の時期・期間 ・マイスター学科の企業内実習フロー ・安全チェック表 ・活動日誌 ・企業内実習・評価表（案） 【内容】 １．開　会・・・ 　事業責任者の校長片山から開催の言葉で第３回マイスター部会会議が開催された。 ２．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告 ＜企業内実習の有償と無償について＞ 　建設関係の企業内実習は無償とする。 【理由】 ・建設関係は、他の職域と違い、賃金を支払うような実習内容ではない。企業にとっては、逆に手間がかかり、負担となる。 ・一つの学校内で、有償と無償が入り混じった実習を行うと、学生間に混乱をもたらす。 【例外として取り扱う場合】 ・就職が決まった学生が入社前研修を兼ねて長期の実習を行う場合。 ・企業が実習募集を行い、好意で交通費のみを支給する場合。 【その他、保険の取扱い】 ・学生は、労働者でないので労災保険は適用できない。 ・学校がインターンシップ活動賠償保険や学生災害傷害保険に加入する。傷害保険・賠償保険等に加入しているため、問題は無い（配布資料：学校が加入している傷害・賠償保険参照）。 ＜守秘義務・機密保持義務の指導について＞

	職種に多少の差はあるが、事前指導の一環として守秘義務・機密保持義務の指導を行う必要がある。また、確約書等に守秘義務の文言を入れておく必要がある。 【設計の場合】 ・公的な仕事が入っている場合に、この情報を漏らすと大きな問題になる。 ・公共事業の測量で地元の学生が「ここに道路ができるらしい」などと言われると問題になる。 【施工の場合】 ・あまり機密レベルは高くないが、事故・災害があったときに勝手に外部に情報を漏らすと問題となる。 【大工・左官の場合】 ・建設現場での活動なので機密保持に関することはあまりないが、リフォームの場合など、顧客情報を漏らすと問題となる。 【最近の学生への危惧】 ・スマートフォンなどで実習現場の様子を写真に撮り、フェイスブックなどで流されると、問題が生じる。　等 （２）第２回会議整理・報告 　配布資料の第２回会議「議論の整理」を参照ください。内容については理解を得られているため、特に説明は控えるが、以下の点について解決と検討が必要である。 ・今後の課題についての保険の部分は解決している。 ・実施時期と受入れ方法についてこれから検討が必要である。 ・有償についての問題は解決している。 （３）検討事項 　①長期企業内実習を実施する時期・期間について意見交換が行われた（配布資料：マイスター学科の企業内実習の時期・期間参照）。 ・受入れる際に会員企業へ連絡をしていただき協力を仰ぎたい →企業内実習（インターンシップ）の実習先現場は、５つの組合に声を掛けて確保するように協力する。 →期間が集中しも構わないが、企業側としては現場の問題があるため、３カ月程度の期間がほしい（大工）。 →現場の問題があるため、長期間の中で調整する方が企業側としては受け入れやすい。１～２月の現場は少ない（大工）。 →長いスパンで見る方が業者に負担がないと思われる（大工）。

	→時期的な部分としては、時代の変化で現場は発注者の意向によることがあるため、現場の時期が読めない（大工・左官）。 →実習を考えると毎日現場に来ることが望ましいが、閑散期で実習をしても仕事を教えるまでには至らない（大工・左官）。 →左官の実習をするには暖かい夏場の方が良い。 ・受入れ人数について教えてほしい。 →トータルの受入れ人数では、組合等の協力を含め全体としては現場の規模と数によるが、一つの現場としては２人までが限界と考えてほしい（大工・左官）。 →現場の距離の問題がある。遠距離の場合、職人は朝が早いため大変である。 ・企業内実習（インターンシップ）は大工と左官はスタンスが違うが同じ時期で実施するのか。 →大工と左官は分けて実施する。 →ガイドラインを考えると学校行事との兼ね合いがある。学校から企業内実習（インターンシップ）の時期を連絡してもらった方が良いと思う。企業発進に合わせるとバラバラになると思われる。 →学校として企業内実習（インターンシップ）の実施期間は資格優先で考える。また、留学生の対応の問題も今後は出てくる。 →実習する時間の長さによっては、現在のカリキュラム内容の改訂を行う必要がある。現時点においては、企業内実習（インターンシップ）は、個人の諸事情により希望者の参加であって、学生全員が参加することではないため学校内に残る学生の事も考える必要がある。 　学校のカリキュラムとの兼ね合いを考慮した意見交換の末、来年度に向けた企業内実習（インターンシップ）の実施期間が下記の通りに決定した。 【１年生】 ・左官は、８～９月の間の中で１ヶ月間を毎日８時間×20 日を実施（Ａ案） ・大工は、10～12 月の３ヶ月の中で週２回×８時間×10 週を実施（Ｂ案） 【２年生】 ・左官は、８～９月の間の中で１ヶ月間を毎日８時間×20 日を実施（Ａ案） ・大工は、４～６月の３ヶ月の中で週２回×８時間×10 週を実施

	（Ｂ案） ②長期企業内実習の全体の流れの説明が行われた（配布資料：マイスター学科の企業内実習フロー参照）。 ・候補地探しから実習準備、実習中、実習後とそれぞれの役割について図を作成した。 【候補地探し】 ・学校が実習先を「協会・組合」に依頼し、「協会・組合」から「企業」に依頼をする。点線の矢印は学校から直接お願いする可能性がある箇所。本来は実線部分で行う。等 【実習準備】 ・参加者の選考、誓約書・交通手段等を協会に報告、企業と実習内容の打ち合わせを行う。学校は事前に安全指導を学生に行う。等 【実習中】 ・受入れ先企業には、安全管理、日報チェックを行ってもらう。学校は保険に加入、現場訪問、相談等を行う。等 【実習後】 ・企業に学生の評価を行ってもらう（学校も行う）。実習報告会を実施し、可能な限り「協会・組合」、「企業」に参加をしてもらう。等 　このように企業内実習「学校」と「協会・組合」、「企業」の連携で進める。 ・兵庫県の組合は積極的だが、他の地域ではどうか。 →企業内実習（インターンシップ）の取組みは、兵庫県としては先頭を走っている地域の一つであるが、他の地域では現場実習等が行うのが難しい状況が多い。企業が就職することが前提としたものでないと拒絶する傾向にある。等 ③安全チェック、日報及び企業評価のあり方の説明が行われた（配布資料：安全チェック表、活動日誌、企業内実習・評価表（案）参照）。 ＜安全チェック表＞ 　施工部会で決定した内容をベースに作成した。 ・ヘルメット等は学校が用意するのか。 →学校が用意する。 →現場によっては、支給される場合もあるので、現場毎に従ってほしい（例：腕章等）。 【厳守事項の再確認】 ・現場によって建設会社からルールが設けられているので、それに従ってもらう。

	→①「各現場・事業所のルールに従うこと。」に変更。 【危険回避の再確認】 ⑪監督員→実習指導員に変更。 【実習に臨む～】 ①監督員→実習指導員に変更。 ②監督員→実習指導員に変更。 ＜活動日誌＞ ・毎日、学生は作業後に記入するのか。 →毎日記入させる。思い出しながら記入することによって、知識として身に付ける。憶えていることが重要である。 ・毎日チェックする指導員名の名前と押印欄があればよい。 ＜企業内実習・評価表（案）＞ ・評価が難しい場合には、聞き取りも実施するため空欄でも構わない。能力面において、例えば「仕事は何かございますか。」など手が空いた時に前向きな発言（姿勢）があれば評価してほしい。 ３．事務連絡 ・第３回推進委員会会議日程　２月 20 日（月）17：00～19：00 本日はありがとうございました。本日の会議をもちまして本年度のマイスター部会会議は終了となります。との言葉で本会議散会となった。 【会議風景】

以上

（様式）

会議議事録

事業名	専修学校版デュアル教育推進事業「建設分野における産学協同教育体制のためのガイドライン作成事業」
代表校	専門学校日本工科大学校

会議名	設計部会会議（第１回）
開催日時	平成 29 年２月７日（火） 17：00～19：00（２ｈ）
場所	専門学校国際情報工科大学校　会議室
出席者	①委員 ・片山俊行、近内広樹、酒井直樹、所　達弘、中農一也、水野和哉、森本徹之、吉川隆治、和田秀勝（計９名） ③事務局 ・古河邦彦（計１名） （参加者合計 10 名）
議題等	会議の目的、次第、内容等を記載（必要に応じて別紙等で補足） 【会議目的】 ・専修学校版デュアル教育のガイドライン作成において、設計部会としての取組みの方向性を現状の意見交換を行いながら確認することを目的とした会議を開催した。 【次第】 日 時：平成 29 年２月７日（火）17：00～19：00 会 場：専門学校国際情報工科大学校　会議室 １．開　会 ２．議　事 （１）現在の取組み状況（意見交換） （２）会議の整理報告 ①デュアル教育推進委員会会議について ②施工部会会議について ③マイスター部会会議について （３）設計部会においての検討 ①企業実習の意義 ②企業実習のあり方

	③企業内実習の実施に向けて ３．事務連絡 ＜配布資料＞ ・議事次第 ・第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告 ・施工部会会議整理 ・マイスター部会会議整理 【内容】 １．開会・・・ 事業責任者の校長片山から開催の言葉で第１回の設計部会会議が開催された。 事業代表挨拶・・・ 今年度の会議は、推進委員会２回、施工部会３回、マイスター部会２回と実施してきた。マイスター部会は来週、推進委員会は 20 日で本年度の会議は終了となる。その中でも施工部会においては、手法が明確となってきている。 また、企業内実習を取組む上では、守秘義務等の問題も前回の推進委員会で検討案件となった。 本日は守秘義務等をはじめ、企業内実習のメリット・デメリット、企業内実習のあり方等について来年度に向けた設計部会としての取組みの議論をお願いいたします。 ２．議　事・・・ 配布資料確認後、会議が進められた。 （１）現在の取組み状況（意見交換） ・本事業の取組みデュアル教育は重要な位置づけとなると考えている。建築の１年生に対して現場監督の仕事を中心に現場見学会を実施している。現場には卒業生が居ることがある。 ２年次には住宅の現場監督の仕事を中心に実施するとともに、勉強した内容に対して理解を深めることを目的としている。 １日の見学会が主で、インターンシップという取り組みはできていないのが現状である。 また、見学会も一部の学生しか参加できていないため、設計の学生に対して実施していきたい。早い段階で仕事内容の理解をさせる上で

	も企業内実習（インターンシップ）を実施していきたい。 →なぜ企業内実習（インターンシップ）ができないのか。 →学生の移動手段の問題、アルバイト、授業のタイミング等、やることが詰まっているため時間が取れないのが現状と考える。 →企業内実習（インターンシップ）が採用を前提としたマッチングに重点を置いている企業が多い。人材育成を目的とした企業内実習（インターンシップ）はかなり少ない。福島県は企業内実習（インターンシップ）の取組みは遅い。 ・当校は学ぶ技術でボランティアを掲げている。東日本大震災においてもこの掲げた信念の下、仮設住宅を地元の大工さんとともに１週間ほどの期間、学びを活かした取組みを行った。 　兵庫県は、建設業協会（＝業界団体）が積極的に参加するという面が特殊で、若い人々に業界をアピールしていくことが必要というボランティア精神で協力しているが、受入れ先はある程度の規模は必要と思える。 　９割が設計希望で入学するが、企業内実習（インターンシップ）を含めた教育の結果、卒業する頃には１割が設計で、他の職種に転換している。しかし、この１割は絶対に辞めない。 →企業内実習（インターンシップ）を通して、就職によるミスマッチを防いでいる。 →一企業の努力では難しい。設計協会や建築士会等への連携の働きかけをするのが望ましい。 　企業としては、現場の雰囲気に早く慣れてもらい、転職することなく長く働いてもらいたい。 →設計事務所などの２週間は、どのような内容で受入れているのか。 →企業内実習（インターンシップ）の場所は、業界団体を通して学生の居住区によって企業の選定を行っている。企業は学生を選べない状況ではある。 　ＣＡＤができることが最低条件ではあるが、若手の社員を付けてもらい、トレースなどの基本的なものから事務所によっては本格的に教育するところもある。企業内実習（インターンシップ）の道筋を作ることが必要である。 →ガイドラインを作る上での道筋づくりが必要である。この委員会で決定した内容を実施することが求められる。今回の取組みをきっかけとして協会や団体と連携して実施する形が良いと思われる。 →企業はどうしても採用が前面に出てしまう。

	→建築士を取得するためのカリキュラムでもあるため、バラバラでの受入れとなることを考えると現状は難しいと思われる。決まった日程があって学生は一斉に企業内実習（インターンシップ）に行くのか。 →行くのはバラバラだが、夏休み期間内で設定している。夏休みが終わるまでに参加者全員が企業内実習（インターンシップ）を終了している。 →現在のカリキュラム内に入れる教育プログラム開発をするという考えになるのか。 →その方向で考えてもらっても構わない。 →理想としては１年生の夏休みに入る前が時期的に良いと思われる。２年生になると就活等で時間が取れなくなってしまう。 →企業内実習（インターンシップ）を単位認定とすれば学生は理解する傾向がある。 →現在の授業の中での調整は困難であるが、現実的としては夏休み等の長期間を活用することは可能である。最低期間１週間として考える。 （２）会議の整理報告として①第２回デュアル教育推進委員会会議、②施工部会会議、③マイスター部会会議について、必要な部分を抜粋した説明が行われた（配布資料：第２回デュアル教育推進委員会会議の整理報告、施工部会会議整理、マイスター部会会議整理参照）。 ①第２回デュアル教育推進委員会 ・企業内実習は無償で実施する。学生間に混乱を持たせないため。例外として、内定者に入社前研修等は有償とする。　等 ・保険について学生は労働者で無いため、労災保険は適応できない。よって、保険は学校が加入する。 ・職種に多少の差はあるが守秘義務・機密保持義務の指導を行う必要がある。 ②施工部会 【学生・学校側】 ・現場の「生」の姿を知る機会となり、就職の際のミスマッチが解消できる。 ・自分のやりたいことと実際との違いを知ることができる。 ・技術力（職人の技を見て実感）やコミュニケーション能力等が養われる。 ・仕事の嫌な面を事前に知る事ができる。 【企業・業界団体側】

	・人材不足の中、就職へつなげる機会となる（人材確保のため）。 ・学生の態度・能力を見極めることができる。 ・経験の少ない指導担当者（社会人４～５年生）のよい勉強の機会となる。 【適切な実習期間の設定】 ・地べた周りから内装まで一連の流れを体験するには４ヶ月間、週１回の現場実習が必要。 ・１～２ヶ月間の連続での通しは、職人の場合はよいが、監督業は工程の進捗が分かりにくいし、一通り覚えるには個人差もあるが、１～３年掛かるため現実的ではない。 ③マイスター部会 【学生・学校側】 ・現場の雰囲気を感じる。 ・現場の実際を知る。 ・職人は何を考えて仕事をしているか学ぶ。 ・現場の流れを理解する。 ・他人との関係(ﾈｯﾄﾜｰｸ)の必要性を知る。 【メリット】 ・仕事ができないことを実感する。 ・自分の志望と実際の職場とのギャップに気づく。 ・職人技術で飯が食えるという間違いに気づく。 ・学校（授業）と社会（現場）の違いを知る。 【企業内実習の期間】 ・１ヶ月程度連続した長期の期間の意見が出ているが、来週にもう少し検討を重ね、決定する。 【課　題】 ・就業によるマッチング等が挙げられる。 （３）設計部会においての検討として、①企業実習の意義、②企業実習のあり方、③企業内実習の実施に向けてについて、それぞれの立場での意見交換が行われた ・企業内実習（インターンシップ）を通して、業界をアピールするという意識が必要である。 ・受入れ時期の問題がある。 ・企業内実習（インターンシップ）を実施するには、カリキュラム作成も視野に入れ取組む必要がある。

	・設計は聴くこと（＝聴き出す能力）が重要な要素であるため、施主へのインタビューをする姿などを見せることも良いと思う。 　将来に向けた考え方（＝進路）を植え付ける上でも必要である。設計と施工が一緒になっている企業が多くなっているため、設計でも現場を知っておく必要があり、これは請負業である上では避けられないことであることを知る。 　現役の学生や卒業生（＝ＯＢ）からの声を集めることができれば、もっと広く展開できると思われるので、検討する方向で考えてもらいたい。 ①企業実習の意義 【学生・学校側】 ・設計という職場の雰囲気を味わうことができる。 ・設計の仕事をやりたいと思って入学しているが、途中で施工の仕事に変わる学生がいる。そのばあい、実習により、早い段階で施工へと軌道修正できる。 ・企業とのミスマッチ解消の機会となっている。 【企業・業界団体側】 ・人材不足の中、就職へつなげる機会となる（人材確保のため）。 ・実習を行うことにより、地元企業に目を向けさせる機会となる。 ・採用時のマッチングを図るための学生の態度・能力を見極めることができる。 ②企業内実習のあり方 【適切な実習期間の設定】 ・授業や資格試験対策などで、長期に実習を行うことは課題がある。 ・現在のカリュキュラムを大きく変えず、夏季休業日を短縮して実習を実施すると課題は解消できる。 ・実習により、単位取得できることから、学生も納得する。 【企業内実習の内容】 ・設計は発注者から思いを聞き取る能力が必要であり、そのような場面に立ち会えるような実習が好ましい。 ・現在は設計と施工が一体化してきているので、様々な場面に出会えるような実習が必要である。そのことにより設計、施工を選択する参考ともなる。 ③企業内実習の実施に向けて 【実習企業の調整】 ・設計事務所協会が仲介をして、企業と学生の調整を図る。

	・一度、実習を受け入れてくれれば、その後も要請があれば配慮してくれる。 ・毎年、継続するのであれば企業も受け入れる体制ができる。 【実習時期等の検討】 ・学校としては、１年生の夏季休業日前後がよいので、その時期に受入れ企業があるか検討を進める。 ・最低１週間とし、可能な範囲で長期化する方向で検討する。 ・設計実習実施プログラムのようなものを作ることを検討する。 ３．事務連絡 ２月 20 日（月）17：00～19：00 の推進委員会会議をもって、本事業の会議が最終となる。 本日はありがとうございました。第一回の設計部会はこれで終了します。との言葉で本会議散会となった。 【会議風景】

以上

平成28年度文部科学省委託事業「専修学校版デュアル教育推進事業」

建設分野における産学協同教育体制構築のためのガイドライン作成事業

2017年　3月発行

発行所 ・ 連絡先

学校法人誠和学院　専門学校日本工科大学校
〒672-8001　兵庫県姫路市兼田383-22
TEL 079-246-5888　　FAX 079-246-5889
http://www.seigaku.ac.jp/

本書の内容を無断で転記、転載することを禁じます。